

第二部

授業記録の内容について

第二部は、一年間二十六回の授業記録です。

毎回、授業の前には展開予定を作っていました。各回の記録文は、それに少し手を入れたものです。それに続いて、生徒に配布したプリント、その後に生徒たちが記したコメントを載せてあります。これは、一人に一冊ずつファイルホルダーを用意して、それを回収してはチェックしていきました。

参加型学習についてご存じの方にはいうまでもないことですが、学習の過程での認識や経験を重視するので、以下の事柄に注目していました。

- ・生徒それぞれの意識のありかた。
- ・個々が授業について考えていること。
- ・授業参加者としての、生徒の自己評価。
- ・授業への評価。

各回の最後に生徒が記入した「今日のふり返し」は、生徒たち自身が学習を再認識することが主目的ではありますが、教員には以上の事柄を知るための貴重な情報源になりました。

年間の流れを大まかに分けると、以下のようになっています。

第一段階：自分について、また自分と他者との関わり方について考える時期。

第二段階：国際的な諸問題について、自分自身と結びつけて考える時期。

第三段階：創作活動。

一年間の授業展開

<一学期>

第一回「年間の展開の説明（『小』から『大』へ）と、アイデンティティについて」

第二回「アイデンティティとステレオタイプ」

第三回「人と人、関係の持ち方」

第四回「あっていい違い、いけない違い」

第五回「身近な偏見・ジェンダー問題」

第六回「世界各地の写真から読みとる」

第七回「ビデオを見て、考える その1」

第八回「ビデオを見て、考える その2」

第九回「カレーを手で食べてみよう」

第十回「一学期のまとめ ステレオタイプと偏見を打破する」・一学期末アンケート

第十一回「風土と、文化」

<二学期>

第十二回「絵本『世界がもし100人の村だったら』を使って その1」

第十三回「絵本『世界がもし100人の村だったら』を使って その2」

第十四回「絵本『世界がもし100人の村だったら』を使って その3」

第十五回「絵本『世界がもし100人の村だったら』を使って その4」

第十六回「識字問題」

第十七回「所得 （開発教育協議会作成「一杯のコーヒーから」を利用）」

第十八回「日常生活と輸入品 （神奈川国際交流協会が日本語版にした Oxfam 作成の「世界からやってくる私たちの食べ物」を利用）」

第十九回「多様な価値観 （「価値観のオークション」：書籍「地球市民を育む教育」を利用）」

第二十回「創作物語『よそ国』 その1 基本情報調査と、コンピューター操作」

第二十一回「権利」

第二十二回「創作物語『よそ国』 その2 基本情報調査と、目的にあわせた調査」

第二十三回「創作物語『よそ国』 その3 これまでの調査を元にした物語作り」

二学期末アンケート

<三学期>

第二十四回「問題解決への努力 NGO等について」

第二十五回「創作物語『よそ国』 その4 物語の打ち込み」

第二十六回「創作物語『よそ国』 その5 物語の打ち込み、編集・構成、完成」

学年末アンケート

授業記録集

一学期

第一回 4月11日

生徒数は、13人。205教室という空き教室を使う。半分がオープンスペースになっているので、そちらに椅子を円形に置いて、そこがふだんの授業場所になる。

椅子を14脚出しておき、ひとつが教員用。教室の入り口でカードを引き、教員席から時計回りに座っていく。これは、できるだけ、いろいろな生徒と交流するようにという意図である。「国際理解」というものの考え方にあうはずでもあり、そのように生徒に説明する。「いろいろな人と、つきあいましょう！」

(1) 最初の話

前日のプリントで簡単に前振りをしておいたので、あまりしゃべりすぎない。まず、すすめ方の説明として、不思議なもの、奇妙なこと、意見が分かれるものを国際理解の授業では扱うので、それに正面から取り組む姿勢を求める、ということだけ話す。

(2) イメージ調査

生徒たちの、「国際理解」に関するイメージを出してもらう。
最初のカードを書いてもらう。

質問：

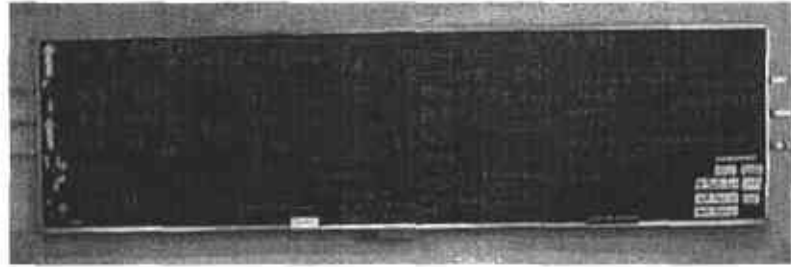
1. 現在の国際社会の中で、あなたが一番「これは良くないことだ」と思っていることは、何でしょうか。
2. 未来の世の中が、どのようなになったらいいと思いますか。
3. 未来の世の中が、どうなったら最もいけないと思いますか。
4. あなたは、この一年間の「国際理解」の授業で、どういうことを学びたいでしょうか。

これを、数分間考えてもらう。そのあとで、順番に発表してもらい、それを黒板に書いていく。生徒全員が見られるように。

出てきたものを、グループ分けしてみる。生徒に、似たもの同士に印をつけてもらってもいいだろう。そうする過程を見ながら、生徒は、まわりのみんながどういうことを国際問題と考えたり、何を学びたいと思っているかを知ったりしていく。



「国際理解」についての、
4つの質問が黒板に
書かれた。



(3) 話

みんなが、今の時点で考えていることを共有したところで、その話をする。

国際理解ということには、他を理解するという部分が大きい。現実の人間社会でやっかいな問題になっているのは、自分にしか目が向けられない人が多いことである。黒板を見るとわかるとおり、他の人に聞くと、似た意見もあれば、自分ひとりでは気づかなかった考えも出てくる。それらひとつひとつが、視野を広げてくれるものである。この授業では、生徒同士で学びあい、教えあう。それが、これからの世界で、みんなに必要なことである。

視野は、小さいほど、たいした価値はない。下の並びでは、左のほうになる。右へ行くほど、より我々の目指すべき、成長した状態とすることができるだろう。

小さい視野 から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大きい視野へ
私－家族－友人－クラス－学校－地元社会－東京－日本－アジア－世界

小さい視野 から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大きい視野へ
私－知っている人－知らない人－人間－動物－生物－地球

(4) 自分について

この授業の年間計画としては、上の並びの一番小さいところから始まって、だんだん右へ、広い視野へと進んでいく予定だということを話してから、まず、自分自身について考えてみる活動にはいる。

生徒同士、二人一組で向かい合う。できれば名前を知らないような、ふだん話したことのない相手がいい。

指示：

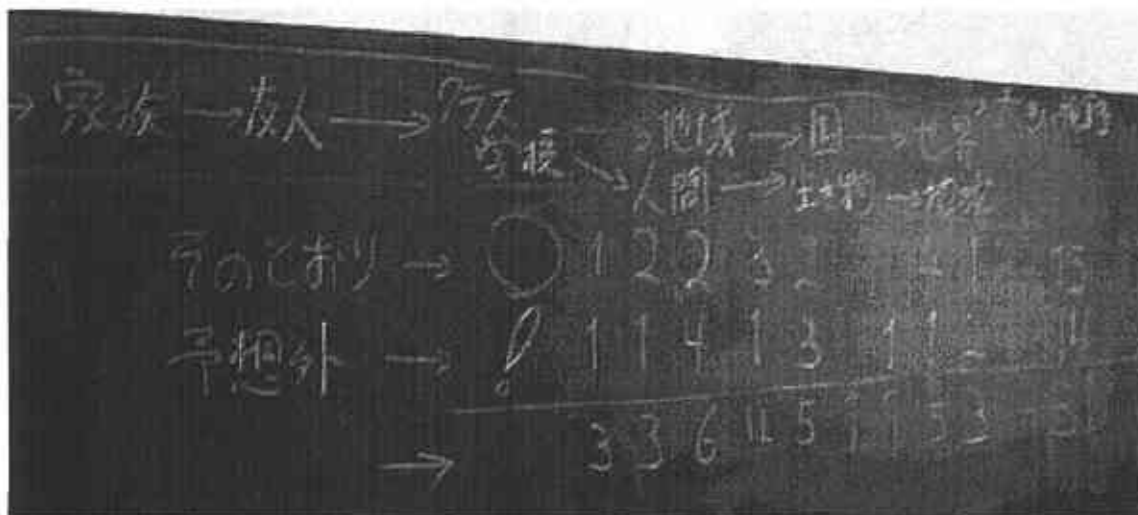
- ・何も話さないこと。
- ・個条書きで、「この人は、どういう人だろうか？」を推測して、メモしていく。
- ・後で、そのメモを本人に渡して、あっているものに○をつけてもらう。

お互いに、3分ずつ。

相手のカードをもらって、自分で「そのとおり当たっている」と思う文に○、

「予想外の推測で驚いた」と思う文に！をつける。

全体的にだいたい何%くらい当たっていたか、%の数字を言ってもらう。電卓を用意しておいて、その平均を出す。



自己イメージと、他者のイメージ

そのあと、自分の書いてもらった文の○と！を使って、自己紹介をしてもらおう。最後に、教師は自分自身の紹介をする。その最後に、質問を出す。「私は、ナニ人でしょうか？」

たぶん、予想していない質問に、驚くだろう。そこで、カードを書いてもらう。

1. 日本人だと思うなら、その理由を挙げよう。
2. 日本人でないと思うなら、その理由を挙げよう。

これは、ステレオタイプというものへの気づきの、第一歩として出す問い。

黒板を1と2に分けて、みんなの考えを言ってもらって、書く。

ひとつおとり出たところで、ふたつの文を紹介する。

- 「1. 何世代も日本人の子孫であるなら、日本人である。」
- 「2. 外国人の子孫であれば、日本人度が低い。」

この問いは、ちょっと危険があるので、全員には意見を求めないで置く。

それぞれについて、この文に、賛成できるかどうか、自分の心の中で、意見を決めておいてもらう。

決まったところで、「賛成できる」「賛成できない」「どちらともいえる」の三つで、手を挙げてもらう。

続いて、では、1でもあり2でもある人は、存在するだろうか、という問いを出す。

たぶん、返事に詰まるので、そこで、もう一度、自分自身の「ナニ人？」という問いに戻る。私は、つごうのいいことに、「韓鍛冶部」という帰化人の子孫らしいので、1でもあり2でもある人は、私だ、という答えを出す。そこで、あらためて、日本人、または日本人とはどういうことかを、考えてみる。

(5) 一日のふりかえり

最後に、この第一回目の授業で、印象に残ったことや感じたこと、考えたことをカードに書いてもらう。この部分は、各自がこの二時間の経験を自分の内部で消化し、深めていくための大切な時間になるので、毎回欠かさないようにしていく。



最後に、第一回の授業を、ふり返る

授業者のふりかえり：

一番最初は、いろいろな意味で手探り。教師は、生徒が何をどう考えているか・基礎知識はどうか、ということがわからないし、生徒は、教師がどういう計画で何を授業しようとしているのかがわからない。お互いに、相手がわからないところからのスタート。それでも、おそらくは、第一回目の授業の印象がその後まで影響を残していくはずなので、基本である「自分で考える」「意見を交換する」のふたつは必ずやっておきたいと思っていた。予想通りではあったが、生徒たちはかなりびっくりもしたし、とまどっていた。もちろん、参加型学習のようなものに不慣れなこともあって、少し考えたり書いたりするにも予想外に時間がかかってしまった。その結果、今日の振り返りを書いてもらう時間は残らなかった。

(生徒に配布したプリント)

() 月 () 日

< 1 >

質問：

1. 現在の国際社会の中で、あなたが一番「これは良くないことだ」と思っていることは、何でしょうか。

2. 未来の世の中が、どのようなになったらいいと思いますか。

3. 未来の世の中が、どうなったら最もいけないと思いますか。

4. あなたは、この一年間の「国際理解」の授業で、どういうことを学びたいでしょうか。

< 2 >

メモ：

()・

()・

()・

()・

()・

()・

< 3 >

(そう思う / そう思わない)

理由 : ・

・

・

・

・

< 4 >

・

・

・

・

・

<今日のふり返し> () 月 () 日

疑問に思ったことを、書きましょう。

印象に残ったこと、考えたことを、書きましょう。

第二回 4月18日

前回は、意外に進みかたが遅かった。人数が13人に増えたこともあるだろう。
今回は、続いて「自分」「アイデンティティとステレオタイプ」に焦点をあてる。

(1)

世の中では、「〇〇〇人は□□□」「〇〇〇人だから□□□」という言い方で、いろいろなことが行われている。その例を考えてみる。ひとりひとつ以上挙げて、黒板に書く。それらを黒板に残しておきながら、次へ移る。後で、利用する。

(2)

今度は、「日本人は□□□」ということで、何が言われたり行われたりしているのかを考えてみる。

- ・ どのような人を日本人というかについて、まずは、ひとりで個条書きにする。
- ・ 次に自分の考えた項目から、一番それらしいものをひとつずつ、言っていく。それを黒板に書く。前に出たものと重ならないことを条件として、人数分の数を列挙する。
- ・ 次に、その項目のうちいくつが自分自身に当てはまっているか、各自で数える。
- ・ 数を挙げてもらい、全体で何パーセントくらい当てはまっているかを、見る。

前年度の経験からいくと、自分自身は半分くらいしか当てはまらないということに気づくことができる。

ここから気がつくべき要点は、

- ・ 「日本人」という、当たり前のように思いがちな定義でも、きちんと考えると、かなりあいまいな基準でしかない。
- ・ あいまいな基準なのに、何かしつかりした事実のように、思いこみをしがちである。

「・・・人」というくくり方は、あいまいなものである、ということをみんなで認識する。

(3)

そこで、最前のイメージ調査1番にもどる。国際問題で、「・・・人」というくくりを元にして引き起こされていることに、いくつも深刻で重大な紛争が含まれていることを考えてみる。パレスチナ問題にしる、アフガン問題にしる、民族や宗教を理由とするものはここに含まれている。本当はあいまいなものなのに、何かきっちりしたものであるかのように思いこんでしまっていることから、たいへん悲惨な結果になっている。

いくつかの例を用意して、それを読んでみる。

<例として用意した写真から、2枚>

(例1)

別の23歳の若者は、5日のイスラエル軍の銃撃で高校生の弟と母親を失った。弟は部屋にいて壁を貫通した銃弾を肩口に受けた。母親は医者を呼ぶために表に出て銃弾を頭に受けた。弟も深夜に死亡。若者は翌朝、拘束された。「父親のことが心配だ。しかし、キャンプに戻れば、命の保証はないと軍に警告された」と語る。イスラエルは死んだのは武装勢力と発表しているが、若者は「でたらめだ」と否定した。

(利用した写真：ヨルダン川西岸のジェニン難民キャンプで11日、イスラエル軍の攻撃でがれきと化した住宅地を歩き回るパレスチナ人たち＝AP)

(例2)

(利用した写真：パレスチナ人の自爆テロで3人が死亡、多数が負傷したエルサレムのスーパーマーケットを調べるイスラエルの警官ら＝3月29日、AP)

(4)

自分のあり方について。「・・・人」という分類を、歴史や遺伝子によっておこなうことが、意外に不自然であったという気づきの後に、それでは、「・・・人」というくくりはどう考えていくのがいいかという問題へと進む。

今の世の中で、外国へ移り住むことは、当たり前になっている。そして、昔でも、それほど珍しくはなかったことを思い出す。むしろ、鎖国時代の日本が例外だった。

たとえば、国という枠組みで「・・・国人」と呼んだりするが、今の「国」という感覚がいつ頃からのものかという点、日本では19世紀からにすぎない。王や領主の支配地域が国であり、それらの力関係でいくらかでも国境線は移り変わるものであった。そこには、人々の意思などは、関係がなかった。いわば、一方的に与えられたり決められてしまうものであった。

時が移り変わり、19世紀から20世紀にかけて、国が王様のものではなくなっていった。それによって、人々は、自分のことを自分で考え、決める時代になってきた。つまり、「・・・人」は、昔の感覚では生まれる前から決まっていたものであり、今後の感覚では各自が考えて決められるものであるといえる。

ここで、パスポートを見せる。それは、どこの国に自分を登録しているかという手続きに基づくものである。つまり、「・・・人」とは、自分が書面で手続きをしているという法的な分類である。自分の所属を自分で決めるということは、もちろん移ることも自由である。

「・・・人」ということさえも、自分の意思による選択だというのが、現在そしてこれからの国際社会の流れである。そのなかでは、何となく安易に流されるというような姿勢ではなく、ひとりの人間として、自分で考え自立することが重要である。そのような人の姿勢を、この一年の授業を通して学んでいきたい。

(5)

「・・・人」という集団から、自分自身という個人へ焦点を絞る。・・・人、という、グループでの枠組みが、あまり正確に何かをあらわしていないことに気がついたうえで、(黒板の文は残しておいた方がいいだろう)「私は、だれ？」という質問へ移る。

- ア) 話をしないで、封筒の中身を読んで考えるようにと指示を出す。隣の人のも見ない。
- イ) ひとりに封筒を一枚ずつ、渡す。中には「あなたは、だれ？」と一行書いたカードがはいっている。(全員同じカードであることは教えない)
- ウ) 数分たったところで、各自が考えたことを順に発表する。
- エ) ヨースタイン・ゴルテル著「ソフィーの世界」の冒頭をコピーしたものを配る。
- オ) それを読んだところで、「あなたは、だれ？」という問いに、あらためて各自が返事を考えて、カードに書く。

ここでは、もう一度、何かの集団に属する人というような定義があいまいだということを述べて、絶対に間違いも勘違いもされない私の特徴を、自分自身で考える。

もちろん、これは、簡単に答えられるはずがない問題。あえて困った感情を作りだしておいて、その状態で「今の気持ちを各自で忘れないようにして」と指示してから、次へ移る。

(6)

二人ずつのペアを作る。今日の指示は、「なるべくよく知っている人同士でペアを作る」というもの。

向かい合って、テーマは、「相手の、良いところを見つけて列挙する」という活動をする。たくさん見つけるほど、よいとする。

他人の様々な面を、好意的に見ることができるか、それとも悪意で見るとかという姿勢は、根本的な品性であり、重要なことである。国際理解という大きなテーマも、出発点は、目の前の人とどう関係を作り理解し合えるかから始まっている。良いところを見ようとする姿勢は、協調しようという気持ちへつながる。

悪いところを見ようとする姿勢は、敵対や競争へつながる。

どういう目で、人を見るか。また、どういう目で、人を見られる自分になるか。それが、自分自身への課題である。

(配布プリント)

() 月 () 日

(1)

「・・・は***」「・・・だから***」

(2)

(3)

どこの、どういう件だろう？

した側は、どういう理由で？

(5)

(6)

<今日のふりかえり>

・今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

・自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 自己分析しましょう。

<各質問項目に、生徒が書いた答え>

(4) 月 (1 8) 日

(1) 「・・・は***」 「・・・だから***」

- ・アメリカ人(外国人)は目が青い。
- ・日本人は髪が黒い。
- ・現代人は気が短い。
- ・アメリカ人はテンションが高い。
- ・インド人はカレーが好き。
- ・日本人はマジメ。
- ・秋田の女の人美しい。
- ・ジャマイカ人は陽気。
- ・中国人はみんな強そう。
- ・関西人は遠慮しない? はっきりしてる。
- ・中国人は自己中。
- ・アメリカ人は積極的。
- ・大阪人はおもしろい。
- ・インド人はカレーが好き。
- ・イタリア人はピザが好き。
- ・アメリカ人は偉そう。
- ・中国人はあやしい。
- ・フィリピン人はあぶない。
- ・アメリカの女の人気が強い。
- ・沖縄の人はのんびり。
- ・中国人は負けず嫌い。
- ・ドイツ人はまじめ。
- ・中国人は卓球がうまい。

(2) 日本人は・・・

- ・マナーが悪い。
- ・器用。
- ・口論がヘタ。
- ・まじめ。
- ・気が短い。
- ・胃腸が弱い。
- ・手先が起用。

- ・小柄の人が多い。
- ・No と言えない。
- ・目が細い。
- ・慎重。
- ・消極的。
- ・流されやすい。
- ・礼儀正しい。
- ・背が小さい。
- ・バカっぽい。
- ・アホっぽい。
- ・きれい好き。
- ・気が弱い。
- ・よく働く。
- ・足が短い。
- ・飽きっぽい。

(3)

どこの、どういう件だろう？

- ・イスラエル
- ・ニューヨークの、貿易センタービルが壊された事件。
- ・アメリカのニューヨーク 貿易センタービルのテロ事件。
- ・イスラエルのエルサレムでおこった。
- ・アフガニスタンの空爆。
- ・貿易センタービルに旅客機がつつこんだ事件。

した側は、どういう理由で？

- ・報復！？
- ・自分の国を守る為（？）
- ・生地であるイエルサレムの土地が欲しい為（？） 土地をめぐる戦争！
- ・イスラエル軍が戦争でアラファト議長をつれさろうとしたときの写真。
- ・せんせんふこく。
- ・きらいだったから。
- ・反感を持っていたから。
- ・アメリカが嫌だから。
- ・アラファト議長をつかまえる為。
- ・アメリカの同時多発テロに対する反撃。
- ・アメリカに対する宣戦布告。

(5) 「あなたは、だれ？」という質問への答え

- ・「あなたはだれ」と書かれた紙を見た瞬間、私はとまどいました。今まで私はだれだろうと考えたこともなかったし、疑問に思ったコトもありませんでした。なのでどうやって答えたらいいのかわからなくなってしまいました。
- ・自分は、自分以上でもそれ以下でもないけれど、何だかよくわからない。
- ・わからない。名前を言ったとしても、それは違う。名前でも、あれば普通に今と変わらなく生きていけるし、自分がまだ何のために生きているのか、何をすべきかよくわかんないから。
- ・「何でそんなこと聞くのだろう」「どーゆう意味？」と思った。
- ・答えようがないので困った。
- ・自分は自分なのにだれと聞かれると答えにくい。不思議な感じになる。ソフィーの世界を読むとまたさらにわからなくなる。
- ・僕は僕だと思った。
- ・「あなたはだれ？」と聞かれても、僕は僕、「僕」という、こんな顔の、こんな性格の、こんな声の人間は「僕」以外どこにもいないし、例え僕のクローンができたとしても、「僕」のような人生を送ったのは僕しかいないんだあ！

(6) 相手の良いところを列挙する

- ・明るくて面白い。
- ・友達がたくさんいる！
- ・何事にも挑戦的。
- ・バイトに一生懸命。
- ・相手の気持ちを思いやる！
- ・一緒にいると楽しい気持ちになる。
- ・いい人。
- ・マジメ。
- ・優しい。
- ・会話の中にジェスチャーが入っていて、わかりやすいし、おもしろいところ。
- ・やさしい。
- ・カッコいい。
- ・元気がいい。
- ・努力家。
- ・おもしろい。
- ・バスケがうまい。
- ・家庭的。
- ・けっこうせんさい。

- ・ 単車乗ってる。
- ・ いじめたくなる。
- ・ かみの毛がキレイ。
- ・ 自分でかみの毛を切る。
- ・ 色っぽい。
- ・ 指がキレイ。
- ・ ギャグセンス高い。
- ・ 首がいい感じ。
- ・ かわいらしい。
- ・ 目がキレイ。
- ・ 見てると安らぐ。
- ・ 協力してくれる。いろんなことに。
- ・ やるべきことはきちんとやる。
- ・ 周りをよく見ている。考えている。
- ・ 意外なことをいう。実は... (おもしろい)
- ・ しっかりしている。
- ・ やさしい。
- ・ 勉強ができる。
- ・ しっかりしている。
- ・ スポーツができる。
- ・ ユニーク。
- ・ サッカーがそれなりにうまい。
- ・ 誰とでも仲良くできそう。
- ・ いいやつ。

<今日のふりかえり>

今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・ 今まで自分の考えてもいないことを今日は学んだので全てにおいて印象的でした。
- ・ 自分が思っている他人のイメージと、他人の思っている自分のイメージの違い。
- ・ 人の思いこみは、半分もあっていなかった事に少しびっくりした。それに思いこみによって戦争やテロが起きて知らない人達が殺されてしまっていることを知って、思いこみはこわいと思った。
- ・ 最初の「～人は」みたいなのと世界の出来事との関係が見えた時の気持ちが印象的だった。
- ・ 自分が誰なのかというところで本当に迷った。
- ・ やっぱりみんな相手の(外国人とか) ことを見るときに、固定観念?があるなと思った。そういうものがあると、けっこう相手のことを認められないところがあると思う。
- ・ 思いこみやうわさなどだけで考えること以外にも沢山考え方があるということ。

・テロとかが多い時代だけど、そのまきぞえにあって一人一人のそんざいを改めて知ることができた。印象とかだけで人を決めつけてはいけないんだ。「あなたは誰？」と聞かれても、僕はきつとうまく答えられると思う。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 自己分析しましょう。

- ・参加することができたと思います。色々と難しい質問があったので、大変だったけど楽しかったです。
- ・まあ、できたと思いますが、まだよくわからないところが多いので何とも言えません。
- ・できている。考えるのは好きだから楽しい。
- ・そこそこだと思う。
- ・あなたはだれ？に対して、意外にこたえられないもんだと思った。
- ・まあまあ出来たと思います。
- ・超能動的に参加した。自己評価 AAA くらい。

授業者のふりかえり：

「アイデンティティ」「ステレオタイプ」という、しばしば絡み合って混乱を引き起こす問題を、どのように生徒へ提示していけばいいのか。これは、とても難しい。おそらくは、決まった形というものは作れないだろう。つまり、ひとつは生徒集団にあわせていく必要があるという点、もうひとつは授業者の能力という点である。技術だけでは、とんでもない方向へ進みかねない。知識だけでは、生徒は呆然とするばかりである。

今回の授業がどれだけうまくいったと言い切れないが、「ソフィーの世界」を使って見たのは、良かったように思う。封筒からカードを出した生徒たちの表情が・・・こまったような、おもしろがっているような・・・なんともいえなかった。たぶん、多くの生徒にとって、「正しい唯一の答えが用意されている種類の勉強ではないらしい」ということを、言葉や理屈ではなく、感覚的にわかった場面でもあったのだろう。ただ、いつでもどこでもだれにでも同じように使えるというものではない。

第三回 5月2日

前回は、自分自身に肯定的な目を持って考えてみることにポイントをおいた。今回は、「国際理解」のとても基本的な要素として「関係の持ちかた」を扱っていく。どういう感覚で社会の中に自分が存在しようとするかを考えて、自分なりのあり方を選んでいくことが目的となる。

今回は、自分とまわりの人とのかかわりかた、そして、そのような環境の中で自分には何ができるかを考えるための、出発点を示すことを意図している。

これからの、大きな流れとして、

- ・まず、自分の過去と現在をふりかえる
- ・その流れのなかで、自分と周囲との結びつきがどうであったかを考える
- ・自分が、どのように行動するかについて、考える
- ・それと同じことが、だれにでもいえるかどうか、ということについて考える

(1) 自分の過去と現在を考える

「タイム・ライン」

生きているうちには、いろいろな「重大なこと」がある。それは、人によって異なる。ひとりひとりの異なった経験と価値観について考えてみようとするもの。もちろん、これは、違いがあることを知り、違っていいんだという気持ちを持てるようにする意味がある。

人に知られたくないようなことを無理して書く必要はないことを言って、安心させることは忘れないようにしないといけないだろう。「いいことを優先して、書いてみよう」という指示を出す。

(ア) 大きな紙に、一本の矢印を横切らせたものを一枚ずつ配る。

一端が、生まれた時、もう一方が、現在を示すものとする。

(イ) 適切な位置に、特別なこと・大切な出来事を、絵・字・記号でも何でもいいので、矢印の上側の空白部分に書き込んでいく。

(ウ) 10分くらい書いた後から、「誰か他人の存在が、それに必要だ」というものには、赤で○をつける。

(エ) ひとつの件を選んで、「どういう人たちのおかげで、それが可能だったか」「その人たちは、どういうことをしてくれたか」を考え、矢印の下側にメモする。

(オ) ひとりずつ話していく。それによって、ひとつのことが、多くの人たちの関わりによって成り立っていることを意識する。

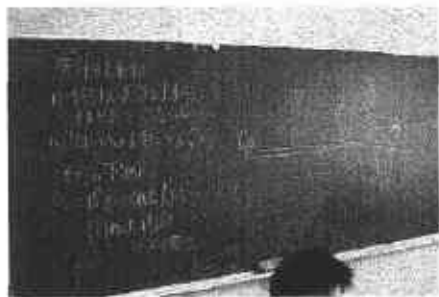
目指すことは、

- ・人によって、いろいろな価値感覚を持っていることがわかっていく。
- ・自分ひとりだけでは起きないこと・出来ないことが多いと気づく。

書き込んだことについて、それぞれ、どういう意味で自分には重要なことだったかを話

してもらおう。関係ないように見えることの結びつきに気づく・忘れていたことを思い出す、などとともに、少しずつグループの中で話をする練習にもなる。

タイム・ラインについて



(2) 自分の行動について、考える

ふたつの案を用意しておいた。実際の授業では、案Bをおこなった。

(案A)

もし、人数が5の倍数だったら、「五人で、五つの正方形を作る」ゲームをする。

ただ、その可能性は少ないので、別の活動をやることになるだろう。

(案B)

「不公平な扱いの記憶を思い出す」

(ア) 前の活動で、自分の記憶の中から、他の人たちのおかげでいいことがあったことを思い出したのを利用する。今度は、良くないことについて、考える。

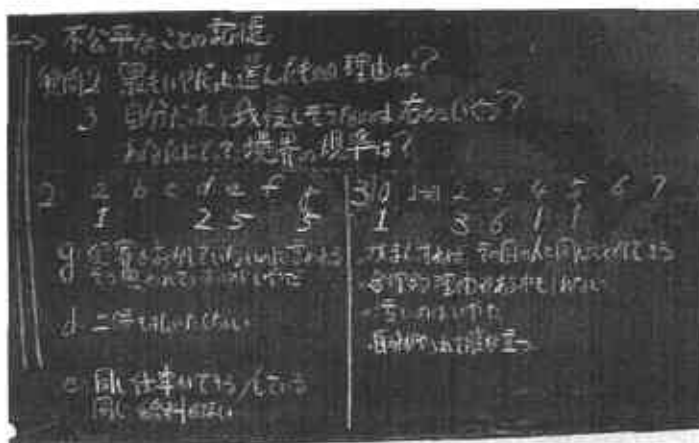
自分自身が、不公平な扱いを受けたことを、記憶の中から探す。もちろん、あまり言いたくないことを、無理に言う必要はないことは、最初に伝える。まずは、自分の記憶から。出てこない生徒が多すぎて成立しにくいようだったら、「自分の知っている、他人の例でもいい」と少し広げてみる。

要約したものを、書いていく。傾向を見ておく。

それらを、(ア)の項目と比較する。差を、目で見て理解する。

(イ) 不公正な扱いの例を、比較検討してみる。

次に、不公平な扱いの具体例を挙げたプリントを配る。最初は各自で書いてみて、次に、それぞれの書いた結果について発表する。



・質問1は、印刷しておく。

・質問2：7種類の中からひとつを「最もらしい」に選んでいます、それではなぜ、それを選んだのでしょうか？理由を書きましょう。

・質問3：順番に並べたうち、右の方には「それほどでもない」と思えたものが入っているわけですが、それでは、右からいくつめまで、黙って我慢すればいい、と思いますか。（全部我慢する？それともひとつだって我慢しないで抗議する？）

それでは、「これ以上は我慢できない」という限界の境目は、あなたにとってどういう理由で決まるものですか。自分はどのような種類のものが許せないかを書きましょう。

<参考：(案A)の手順>

たまたま5の倍数の人数でないといけないが、万が一できるときのために用意した。

やりたいこと、やっていいことについて、「自分はどのように行動するか」という面について、あまり抽象的な話ではなく、まずは、身の回りの人たちと自分との関係という意味で、考える。権利というものが、必ずしも、自分の権利を主張すれば良いというものでもない、という経験をしてもらうゲーム。

「五人で、五つの正方形を作る」

五人一組で、ひとりずつ中身の違う封筒を受け取る。中には三角や台形などの切り抜きが入っている。ルールとして、

- ・カードを交換して、全員が、自分の前に正方形を作ることを目指す。
- ・ひとこともしゃべらない。しぐさで、あのカードが欲しい、などと知らせない。
- ・いないカードは中央に出す。欲しいときは中央から取る。手元のカードを直接やりとりしない。

ふつうにいないカードを前に出すだけでは、ひとりだけどうしても正方形が完成しないように、封筒へ分け入れてある。グループのメンバー数名が、完成している自分の正方形を壊してカードを中央へ出さなければ、5人全員の完成は、ない。つまり、

1. 自分の権利だけに目がいつていると、目標達成が不可能だという例を、体験する。
2. 自分以外に広く意識が向けられると、不可能だと思われていたものも可能になる。

この二点を具体的・感覚的に、学ぶことになる。協調性、部分と全体のかかわり、ということを感じ取ることができる。

このゲームをやる際には、先に目的を説明するわけにはいかない。最初に言ったのは、1)これからゲームをするが、その目的はゲームが終わるまで説明をしないので、やっている最中に感じたことや考えたことをできるだけ憶えておいてほしい、ということ、話す。

2) ルールの説明。(大きな文字で印刷したページも作って、机に出しておいた)

昨年は、人数がぴったり5人だったので、このゲームをやった。その時の記録：

5人の正方形が完成してくれたので、このゲームの種明かしをした。

- ・自分のところだけを見て、考えていると、みんなが完成することはない。
- ・他の人のカードも見て、全員のことを同じように考えると、ゴールが見えてくる。
- ・自分のものを一回手放すと、みんながそろって完成させられる。

これらのことを、言葉の理屈ではなく、感覚で味わってもらうためのものだった。

「どういう人のために考えられたのか？」という、うれしい質問が出た。

たとえば、援助関係のことなどを考える際に、このゲームを試みることがある。そうすると、しばしば国際間でおこなわれている、「余ったものを、あげる」という援助の形では、全体がうまくいかない状況がある、ということを理解してもらうのに、有効であることを話した。このゲームは、大人だと早く上手く完成させられるとは限らず、案外、一度手に入れたものは離そうとしなかったり、時には感情的になるなどして、結局は完成させられずに終わることもあるということも話した。頭の善し悪しではなく、考え方が大切だ、というところに気がついてもらうゲームであった。

(配布プリント)

<ワークシート：不公平な扱い> (第三回)

以下の文は、どれもみな、不公平な扱いの具体例です。

- a) 買い物をしているとき、店員の言葉遣いが、相手によって違う (自分には良くない)
- b) 銀行や郵便局の窓口で順番待ちをしても、早く来たのに後回しにされる
- c) ホテルの前に「外国人お断り」の張り紙が貼ってあった
- d) 友人が契約したアパートの隣部屋を借りようとしたら、二倍の敷金をふっかけられた
- e) 同じ仕事をしているのに、外国人だからということで給料がひとりだけ安い
- f) レストランで窓際があいていても、いつも奥の隅の席へ (トイレ横!) つれていかれる
- g) テレビで政治家が「外国人は犯罪を犯す」と言っていた

a ~ g の7種類、例を挙げました。どれも、「君たちが外国へ行ったら経験するかもしれない」し、同時に「日本に來ている人たちが経験しているかもしれない」ことです。

質問1 : a ~ g の7種類の差別例を、自分が外国にいるときに、やられたら最もらしい、と思うものから順に並べましょう。

最もらしい

それほどでもない

() → () → () → () → () → () → ()

質問2 :

質問3 : ... 右から 番目まで

<参考資料> (第三回)

スポーツの差別 (参照: <http://www.sc.gp.u-tokai.ac.jp/kuboken/SP/dist/sp-dist-2-a.html>)

・・・質問します。「アメリカの水泳選手にどうして黒人選手が少ないのでしょうか」「タイガー・ウッズなんて天才が出てきましたけど、どうしてゴルフ選手に黒人は少ないのでしょうか、あるいは、テニスもそうですね」

「そりゃー、黒人はもともと大地を走り回っていたから、そういう才能には恵まれな
いんだ」と考えた人、その考え、もう「差別」ですし、事実ではありません。

「日本のスポーツには差別がない」と考える人、どうして今まで女子マネージャーが
甲子園のベンチに入れなかったんでしょうか、今でも大相撲の土俵に女の人上がれない
の知ってますか (かつて千秋楽の表彰式で、文部大臣杯を渡すので困ったことがありま
した。その時の文部大臣が女性だったのです。その女性の文部大臣は土俵にあがるつも
りだったらしいんですけども、相撲協会は難色を示し、結局、代理の男が土俵に上がり
ました。)

また、朝鮮学校のバレーボールチームがインターハイの予選に出られるようになった
のも最近ですね。

・・・・・・上記の文は、インターネットで見つけたものです。差別の理由は、
肌の色・性別・国籍など (朝鮮学校の生徒なら、肌の色等 DNA 的には日本人とは同じ
なので) それぞれ違っていますが、どれもみな「本人が悪いことをしていないのに不幸
な目にあっている」というのが共通しています。

スポーツだけではなくありません。こんな記事もありました。

(10月27日付け・東京新聞)

『(略) 情報誌で「荷物の仕分け作業・即決」の求人募集を見たA君(23)は記載さ
れていたとおり、写真を張った履歴書に貯金通帳、保険証などをもって面接会場に向か
った。40代くらいの女性の担当者に履歴書を渡したとたん、「韓国人(外国人)はダ
メ!」と、すぐさま突っ返されたという。そのときのA君の気持ちを思うと胸がふさぐ。
普段は親にこぼしたりしない息子さんが「つらいよ」とポツリとこぼしたそうだ。』

世間で起こりがちな、不公平な扱い・差別について、少し考えてみることにしましょ
う。なによりも、自分が加害者とならないために!

<生徒のコメント>

質問1

最もいやだ・・・ a:1名 d:1名 e:3名 g:4名

それほどでもない・・・ a:5名 b:1名 g:3名

質問2

最もいやだに選んだ理由：

g) 偏見です。何も外国人全員が悪いことをやってるわけではない。

e) 同じ仕事をしているのならこの国の人であろうと、差別をしないで同じ給料にするべきだと思ったから。

g) 犯罪をしない人もいるのにみんな犯罪を犯すと言ってるみたいだから。

e) 給料が安い→少ないっていうことは、相手から、お金をあげる価値もない。ただ働きでいいというように思われているんじゃないかと思ったから、差別されてる。

d) 二倍も敷金を取られるから。

e) 与えられた仕事はちゃんと他の人と同じようにやる自信があるから“外国人”ってだけでお金を減らされるのは嫌だ。

g) テレビを見た人が外国人＝犯罪を犯すと思い込んでしまうかもしれないから。

a) 目に見えない差別もいやだけど、こんな目に見えての差別は実際されるともつといやだし、落ち込むから。

g) 「外国人は犯罪を犯す」なんて言われてしまうと、外を歩いているだけで回りから犯人扱いされそうなので。

質問3

がまんできるのは・・・ 2:2名 3:3名 5:1名

理由

・ 腹が立つか立たないか。

・ 自分にとって不都合がでないと思うから。

・ しょうがない事だと思うし、我慢すればいいことだと思う。外国に行ったからって必ずしもおこるわけではないと思ったから。

・ お金に関わるかで決まる。

・ 3番目までは少しがまんすれば、その国の人と同じ待遇が受けられるけど、それ以降は、ずっとその待遇を受けつづけなければいけなくなってしまうから。

・ その店のつごうがあるかもしれないから、あってもこれぐらいなら、差別だとすぐに気づかないから。

・ 自分だけならまだ我慢はできるので。

・ お金が倍とられるのは嫌。

<今日のふり返し>

今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・自分の過去のことなどあまり気にもとめなかったが思い出すことができた。
- ・差別について、自分も気づかぬうちにやっているかもしれない。
- ・今に至るまでには、沢山の人々に世話になっているということ。
- ・小さいころのこととかいろんなことがあったはずなのに、あんまり思い出せなかった。みんな、いろんなことがあったんだなあと思った。
- ・差別がなくなった（世界的に）とは思いますが、競技に参加できない差別があったなんて知りませんでした。
- ・昔のできごとを考えると、誰かしらは必ず関わってくるんだなあと感心した。
- ・外国人の人が日本で差別を受けているのはしょーがないと思ったのに、自分の事になるとそれは嫌だと思ったコト。
- ・差別は無いようであったということを知った。それは私が今、自分が生まれた国にいるから、気づかなかっただけかもしれないと思いました。
- ・まだまだ世界は、不平等な事が多すぎると感じました。
- ・今まであんまり不公平だとは思っていなかった事が急に不公平だと思えるものが、けっこうありました。もしかしたら知らずに自分も加害者となっていたかもしれないです。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 自己分析しましょう。

- ・かなり能動的に参加したと思う。質問の答えが浮かばなくても一生けん命考えた。
- ・今日はできたと思います。
- ・ちゃんとできたと思います。
- ・まあまあ。
- ・特に発言はしないけどちゃんと考えた。
- ・よく頭を使って考えられました。

授業者のふりかえり：

生徒が、どんな不公正を最も悪いと感じるかという問いに、“gテレビで政治家が「外国人は犯罪を犯す」と言っていた”と答えた数が多かったのは、予想外だった。生徒自身には直接被害が及びそうにない内容だったので。これは、自分以外のことや、損得を越えた心の問題も想像する力がちゃんと備わっていることを示すものと考えられ、嬉しい誤算である。この後もしばしば、汚れた大人よりよほど健全であることを感じさせてくれることがあった。

・テーブルごとで、カードを、「あつてはならない」「あつていい」「意見が分かれた」の三種類にグループ分けする。

・三種類のグループを見直して、どういう傾向があるのかを考える。

(ワークシート1)

ワークシート1の項目：

ア)「あつていい違い」の、共通する特徴を思いつくだけたくさん書きましょう。

イ)「あつてはならない違い」の、共通する特徴を思いつくだけたくさん書きましょう。

ウ)「どちらとも決めにくい」ものには、どんな傾向があるでしょうか。推測できることをできるだけたくさん書きましょう。

4) 今度は、各テーブルの結果を、黒板に書き出す。同じグループに入れた項目と、テーブルによって違う結果になったものとを、確認する。

5) まずは、一致したことについて、なぜそう思うのかを生徒たちから聞いていく。

6) 理由を説明するのに慣れたところで、今度は、意見が割れてどちらとも決めにくいものについて、聞いていく。ここでは、

・まず、各自が1枚ずつ、質問カードの内容リストを持つ。

・「どちらとも決めにくい」とされたものに、印をつける。

・それについて、「あつていい」「あつてはならない」のどちらか、自分の意見を選ぶ。

そして、選んだ理由を書く。

・ここまでやってから、あらためて黒板の方を向き直して、全体のなかで個々の項目についての意見を聞いていく。

・生徒は、自分がそれまで気がつかなかったことを指摘する人がいたら、そのコメントをメモする。(他人の意見を大切にする姿勢)

・・・あつていいものは、好みとか、文化や習慣であり、あつてはならないものは、生命や健康、自由に関するものになるだろう。

7) ひととおり検討し終わったら、内容リストを見ながら、ワークシート2をやる。

ワークシート2の項目：

ア) 説得力があつて強い印象を受けた発言があつたはず。何番の問いで、どういう内容でしたか。また、どんなところが印象深かったでしょうか。いくつか書きましょう。

イ) このカードゲーム「ちがいのちがい」をやつて、感じたことを書きましょう。

ウ) このゲームをもっと面白くするために、新しいカードを作るとしたら、どういう内容が考えられるでしょうか。2つずつ、案を作りましょう。

「あつていい違い」の具体案

「あつてはならない違い」の具体案

・・・時間があれば、ワークシート2に書いた内容について、順に発表する。

() 月 () 日

ワークシート 1

ア)「あっていい違い」の、共通する特徴を思い出してくださいたくさん書きましょう。

イ)「あってはならない違い」の、共通する特徴を思い出してくださいたくさん書きましょう。

ウ)「どちらとも決めにくい」ものには、どんな傾向があるでしょうか。推測できることをできるだけたくさん書きましょう。

ワークシート2

ア) 説得力があって強い印象を受けた発言があったはずです。何番の問いで、どういう内容でしたか。また、どんなところが印象深かったでしょうか。いくつか書きましょう。

イ) このカードゲーム「ちがいのちがい」をやって、感じたことを書きましょう。

ウ) このゲームをもっと面白くするために、新しいカードを作るとしたら、どういう内容が考えられるでしょうか。2つずつ、案を作りましょう。

「あっていい違い」の具体案

・

・

「あってはならない違い」の具体案

・

・

<参考：「ちがいのちがい」項目リスト>

1

先生は茶髪にしてもいいが、生徒はいけない。

2

大人はたばこを吸ってもいいが、高校生はいけない。

3

ジョン君は肌の色が黒いが、トム君は白い。

4

伊藤君は、空手部の先生の言うことは聞くが、担任の先生の言うことは聞かない。

5

バレンタインデーに、鈴木君はチョコを10個もらったが、佐藤君はもらわなかった。

6

丸井君はニンジンが嫌いだが、角田さんはなんでも食べる。

7

高橋君は飲み物の紙パック回収に熱心だが、山本君はティッシュペーパーを使い放題だ。

8

習熟度別クラスで、数学の得意な川口さんは入試問題を勉強しているが、不得意な谷本さんは中学校の教科書の問題をやっている。

9

田中さんは中学卒業後にガソリンスタンドで働いているが、山下さんは高校へ進学した。

10

ある有名レストランでは、スーツを着ていると入れるが、ジーンズだと入れない。

11

卓球部では、上級生は掃除をしないが、下級生は毎日掃除をする。

12

東さんの家では必ずお父さんが最初に風呂に入るが、西さんの家では決まっていない。

13

国会議員は国会が開かれている間は逮捕されないが、一般の人はいつでも逮捕される。

14

大阪市では80m以上のビルを建てられるが、京都市では建てられない。

15

京都府民は合成洗剤を使えるが、滋賀県民は使えない。

16

会社員の大石さんは九州へ単身赴任中だが、小川さんは家族と一緒に暮らしている。

17

衆議院議員選挙で当選するのに、東京11区では40万票必要だが、愛媛3区では15万票ですむ。

18

同じ広さのアパートの家賃が、東京都では8万円だが、沖縄では4万円だ。

19

内村君の小学校が廃校になって、90分歩かなくてはならなくなったが、外山さんは小学校まで歩いて10分だ。

20

森山さんはどこへでも旅行できるが、林田さんは車いすを使っていて、ひとりで電車やバスに乗ることは難しい。

21

日本生まれの韓国人の李さんは東京で外国人登録証を持ち歩かなくてはならないが、イギリス生まれの日本人の渡辺さんは、ロンドンで何も持たなくてよい。

22

貴乃花には選挙権があるが、武蔵丸にはない。

23

日系ブラジル人は日本で働くことができるが、ほかのブラジル人はできない。

24

日本では食事の時に箸を使うが、インドでは指を使う。

25

イスラム教徒は豚肉を食べないが、ヒンズー教徒は牛肉を食べない。

26

日本では意見を主張をすると非難されるが、アメリカ合衆国では主張しないと非難される。

27

日本には死刑制度があるが、フランスでは廃止された。

28

韓国には徴兵制度があつて男性は軍隊経験をするが、日本には徴兵がない。

29

A国では大統領を批判する本は発売禁止になるが、B国ではない。

30

10歳の阿部さんは小学校に通っているが、フィリピンのオスカー君は通えずに、路上で靴磨きをしている。

31

日本人の平均寿命は約79歳だが、アフガニスタン人は43歳である。

32

日本では660人にひとりの医師がいるが、バングラデシュでは6000人にひとりである。

33

X高校の生徒名簿は、男子が前半分で、女子が後ろ半分になっている。

34

マラソン大会は、男子は8km走るが、女子は6kmだ。

35

日本の国会議員は男性が多く、女性は少ない。

36

伊藤さんの家では、両親は姉には料理をさせるが、兄には家事を何もさせない。

37

テレビのコマーシャルで、水着の女性は多いが、男性は少ない。

38

日本の法律では、女性は16歳で結婚できるが、男性は18歳だ。

39

Z国では、男性は徴兵されるが、女性にはされない。

40

Y社の入社試験に、男性の山田君は願書をもらえたが、女性の川原さんはもらえなかった。

<生徒のコメント>

() 月 () 日

ワークシート 1

ア)「あっていい違い」の、共通する特徴を思いつくだけたくさん書きましょう。

- ・各国の文化の違いや人口密度。
- ・それぞれの個性の違い。(体力、好き嫌い、etc.)
- ・国ごとの特徴とか、差別ではないが男女の体の作りなど、しょうがないこと。
- ・その国の文化やその人の意志。
- ・差別になっていないもの。
- ・その土地や文化や環境、人の性質など変えられるものではないから。多少の違いはしょうがない。
- ・国の文化、環境の違いだからしょうがない。国によって見方がちがう。
- ・国とか場所の習慣。
- ・個人の問題。
- ・文化の違い。
- ・その人の習慣や文化の違い、それぞれの個性など。
- ・その場所に決められたルールの違いなど。

イ)「あってはならない違い」の、共通する特徴を思いつくだけたくさん書きましょう。

- ・差別(国籍の違い、男女の違い etc.)
- ・まったく同じような人間なのに、生まれた国が違うからという理由で差別したり、男女の身体の特徴とかは関係ないのに差別したりすることなど。
- ・差別があるもの。
- ・人種差別につながる事。国籍、男女、etc.
- ・差別、その人の価値観、などが不相当だと思った。(平等じゃない)
- ・人種差別につながる。
- ・一部の人たちの為に、都合の良いことにすることはできないから。
- ・人種や性別、生まれの違いで差別されてしまうこと。
- ・その人は望んでいないのに差別されてしまうこと。

ウ)「どちらとも決めにくい」ものには、どんな傾向があるでしょうか。推測できることをできるだけたくさん書きましょう。

- ・上下関係の事が多い。
- ・人それぞれのものの考え方が違うので難しい・・・
- ・特に意味のないならわしなど、自分の身になってみたらなんとも言えないことなど。
- ・男女差別。
- ・アとイの間！ 文化や環境の違いになるか差別になるか紙一重だから。
- ・その場所によっての決まりごとがあるから。初めは差別→不平等かとも思いがちだ

が、かえってその人のためになることもある。クラブ活動での上下関係はこれからの社会であること。

- ・男女差別みたいになってる。男女で意見が分かれる。
- ・どちらをとっても、納得できる。
- ・差別の差によってできた違い。

ワークシート2

ア) 説得力があつて強い印象を受けた発言があつたはずです。何番の問いで、どういう内容でしたか。また、どんなところが印象深かったでしょうか。いくつか書きましょう。

- ・ 13) 国会議員というだけで、特別あつかいは許されない。
- ・ 20) 旅行は誰でもできるようでなきゃ楽しくない。
- ・ 23) なんで同じブラジル人なのに血のつながりで差別されるんだということ。
- ・ 14) 文化財が見えなくなったり～と言われた時。そんなコト考えもしなかったからびっくりした。
- ・ 14) 京都のことです。普通に文章を読むと見えてこないことがあるけど、日本の文化財として、とてもいいものを京都（他のところでも）はもっているからビルなんかをたてて、それがこわれるのも良くないことだし、ビルの建てすぎは環境破壊になると思う。
- ・ 1) かみの色とか先生はべつにいいんだとゆうこと。
- ・ 13) など、特定の人だけに認められる事は、良くないと思うから。
- ・ 30) 貧富の差で、勉強ができないのはおかしい。
- ・ 37) 女性の色気で商品売るのはどうかと思う。
- ・ 4) 先生によって態度を変えるのはよくない。

イ) このカードゲーム「ちがいのちがい」をやつて、感じたことを書きましょう。

- ・ 各国や国内の文化や、人口の違いによって、さまざまな決まり事や、特徴などがわかりました。
- ・ 人それぞれの物の考え方が違うので、相手の意見とかが聞けてとても良かったです。
- ・ けっこうそれぞれの人が思っているちがいは自分の思っているちがいと違うんだと思いました。なかなか個性や価値観の違いも出て、たのしかったです。
- ・ もう一つのグループと合っていることがあまりなかったから、一人一人の意見や感覚の違いを感じた。
- ・ 人の意見は聞いてみるもんだと思った。自分が正しいと思っていたコトも意見を聞くと間違えて見えてきたりするものだと思った。
- ・ みんなひとそれぞれやっぱ違う考え、意見をもっているなあとあらためて感じました。こういう考えによっての違いがあるから時にはあまり納得のいかないようなことがあるのかもしれない。だけど、調和された意見ではみんな納得することが多い。

だからこういう形で話し合うのはよかったと思います。

- ・それぞれ考え方が違うと思った。今まで考えたことがないようなことを考えた。
 - ・世の中には、文化や習慣、条件などによって、様々な違いがあることが分かった。
 - ・個人個人のとらえ方によってこうも意見が違ふんだなということを改めて知った。
- 男女の問題が非常に難しい今後の問題になりそうだ。

ウ) このゲームをもっと面白くするために、新しいカードを作るとしたら、どのような内容が考えられるでしょうか。2つずつ、案を作りましょう。

「あっていい違い」の具体案

- ・一年前からバイトを始めた A さんは、新人の N さんより時給が高い。
- ・Mさんは彼氏には優しい。
- ・ちっちゃい子は、ジェットコースターとかにのっちゃいけない。
- ・A 君の朝食はパン食で B 君は和食だ。
- ・A 君はみかんが好きだけどインド人はカレーが好き。

「あってはならない違い」の具体案

- ・I 先生はクラスによって教え方が違う。
- ・日本人じゃない人は、日本の学校に入っちゃいけない。
- ・女性のための食べ放題。

<今日のふり返し>

今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・今日は今までの中で一番相手の考えが聞けた日だと思います。
- ・相手の意見を聞く事によって、自分の考え方もいろいろと変わってくるので楽しかったです。
- ・初めてたくさんの人と協力してやった授業なので、楽しかったです。
- ・自分が思っていたことと他人が思っていることはやっぱり違うし、他人と話をして意見を聞くことは大切なのだと思った。
- ・遊びながら考えれて良かった。自分の考えと他の人の考えの違いを知った。他の人の意見に「なるほど」と思ったコトも多々あった。
- ・今日の話し合いは、特によかったと思う。こういう形で、(机をつけて) やると意見がしやすいと思う。
- ・個人の考え方のちがいとかわかった。
- ・様々な「違い」の中にも、沢山の見方があるので、そのことを良く考えたいと思った。
- ・身近にある違い、差別を知った。自分も気付かぬうちに差別してるかもしれん。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 自己分析しましょう。

第五回 5月15日

前回は、あっていい違いと良くない違いとについて、考えた。後者が、どういう理由で良くないのかということ、もう少し追求する。

その大きな理由は、ステレオタイプや偏見と呼ばれるものへ意識を向けたいということがある。それらが、どれだけ身近にあって、またそれが正確さの無いものであるかを理解していくことが、今回の目標となる。しかし、これは、いきなり外国の話などで始めると生徒達に直接的でなくなりがちなので、まずは、ジェンダー（社会的な性別のありかた）に関する事で始める。男女の扱い・扱われ方の違いは、生徒たちにとっても自分自身のことであり、ステレオタイプの問題点に気がつくには、特に身近で分かりやすいと思われる。

（1）6行の文を並べかえる

<やりかた>

以下の文を、一行ずつ、カードに切り離しておく。それを配って、並べてもらう。「いいです、というまで、お互いに話さないでください。」という指示を出しておかないと、教えあってしまうかもしれないので、忘れないようにする。

<ものがたり>

- ・路上で交通事故がありました。
- ・大型トラックが、ある男性と、その息子を、ひいてしまいました。
- ・父親は、即死しました。
- ・息子は病院へ運ばれました。
- ・その息子の身元を、病院の外科医が確認しました。
- ・外科医は、「息子！これは私の息子！」と悲鳴をあげました。

これはよく使われているゲームだが、あっさり終えてしまう人と、不思議なほどうまくできない人とが、あらわれる。つまり、「外科医＝男」という先入観がある人と無い人で、とても簡単な真実にすぐたどり着く人となかなかたどり着けない人とにわかれる。

現実社会には、女性で外科医という人は大勢いる。「女は・・・」「男は・・・」というステレオタイプで、客観的現実とは関係ない考え方に影響されてしまうことが、少なくないのだということを、気がついてもらう。自分たちも、男女といった身近なことでも思いこみの害があり、これは身近でない相手（個人、集団、国家いずれも）、特に国際関係などでは、もっと大きな問題を引き起こすことにつながっていくことが多く、そして、相互理解には、そのような誤った見かた・姿勢を正していくことがとても大切なのだ、という話

をする。

(2) 男女のステレオタイプを、文章から考える

前のところで、ジェンダーのステレオタイプと自分も無縁ではないことに気づく。それが、個人的なものにとどまらず、世の中には、男女の役割をパターン化していく歴史や雰囲気をもともとあることと、つなげていこうという試みである。

古い物語には、ジェンダーのパターン化が多く見られる。誰でも知っているような童話からいくつか例に挙げて、男女のステレオタイプという観点で分析してみる。

<やりかた>

「童話で、主人公が男のもの、女のもので、それぞれどういうお話しがあつたか、思い出して挙げてください。動物が主人公のものは、除きましょう。」といって、いくつか言ってもらおう。黒板を左右に区切って、一方を“主人公は女”、もう一方を“主人公は男”と分けて、書いていく。

これらの物語で、主人公に共通する性質を、考えてみる。

出てきたもの

主人公は女：白雪姫・シンデレラ・赤ずきんちゃん・かぐや姫

主人公は男：桃太郎・一寸法師・ジャックと豆の木

これらについて、主人公の性格設定について、男女それぞれの場合で似たところを考えてもらった。

結果として見えてくることは、女主人公は、キャラクター設定がはっきりしていなくて、どんな性格の人間だったかよくわからない。男主人公は、行動的で自立しており、性格付けがはっきりして個性を持っている。男の子の童話には、女の子が大切な役割として出てこないのはとても重要なポイントだと思われる。主人公が男の場合は女を必要としないが、女は男が出てないとストーリーが成り立たない、という筋立てになっている。作者がわからないくらい古い物語の、典型的パターンといえる。

現代の文学は、様相は変わってきている。「不思議の国のアリス」などは、少女アリスの冒険 SF 小説といえるだろうし、宮崎駿の映画では、自分で決断して行動する女性たちが大勢出てくる。

しかしながら、一般には、現代社会では既にジェンダーのステレオタイプが無くなったといえるだろうか？

「男の子らしくしなさい！」「男の子のくせに！」

「女の子らしくしなさい！」「女の子のくせに！」

これらのせりふは、どんなときに使われるか、考えてみて、今の世間でどういわれがちなのかを、あらためてはっきりさせてみる。そのために、「男の子らしくしなさい！」「女の子らしくしなさい！」と言われる場面を書いてもらった。そして、それらが、本当に性別

と関係しているものなのかを、考えた。

(3)

最後に、第三回「不公正な扱い」の時のカードをもう一度読み直す。そうすると、その良くない項目が、ステレオタイプ・偏見に満ちていることが確認できるだろう。目の前の個人が良い人か悪い人かは全く関係なく、ただ何らかのグループに入っていない・入っているから、という理由で、ひどい目にあっている例であったので。

授業者のふりかえり：

今回は、前回と違って、まったく盛り上がらなかった。失敗とでもいいだろう。

文を並びかえる問題。現代の高校生あたりでは、外科医が女性でも何の疑問も持たないらしいので、間違える生徒はいなかった。それで、「これを年齢の高い人たちにやると・・・」「違う文化圏の人たちにやると・・・」という話に進めていった。そうすると、へえー、そうなのか、という顔をしていたので、今後はそういう使い方をすることになりそうである。(使うとすれば)

童話類も、意外なほど生徒が物語を知らないという問題に直面した。少数は、たくさん知っている。ところが、シンデレラも桃太郎も知らないというのもいて(最初、冗談かと思ったが、本当だった)、とにかく基本的な知識背景が共有できていなかったため、話が進まなかった。学習者集団の特性と計画したものが合っていなかった例といえる。授業をするほうが予想・予定していたことが、全然そうならないこの日のような場合は、冷や汗をかきながらアドリブで展開することになっていく。参加型学習の恐ろしさは、このように、やってみないとわからないところがある点であるだろう。しかし、やる前からわかってしまっているようでは、単なる形式に押し込めたものに墮落している可能性もでてくる。ほんとうに、楽ではない。

(配布プリント)

(1) 考えたこと・感想

(2)

ア) リスト作り：

(M)

(F)

イ)

ウ) これらのせりふは、どんなときに使われるだろうか。

(a)

(b)

(3)

ア)

イ)

ウ)

<生徒のコメント>

(2)

ア) リスト作り:

M: 桃太郎 ・一寸法師 ・浦島太郎 ・ピノキオ ・金太郎

F: かぐや姫 ・白雪姫 ・ラプンツェル ・シンデレラ ・赤ずきん

イ)

M: 旅に出る。 ・たいてい悪者をやっつける。 ・願い事がかなう。 ・主人公が強い。 ・戦う。 ・野蛮。 ・最後に何かもらう。 ・楽しく痛快な話が多い。 ・悲しいお話しとかはあまりない。 ・困っている人を助ける。

F: たいていひどいめにあう。 ・でも幸せになる。 ・ラストは王子様と幸せになったり、そうでなかったり。 ・メルヘン。 ・恋愛。 ・ロマンチック。 ・「姫」が多い。 ・王子様が出る。 ・最初不幸でハッピーエンド。 ・かわいそうだったり悲しい話が多い。 ・ハッピーエンドばかりではない。 ・性格的におだやかな人が多い。 ・不思議なことが多い。 ・王子様との HAPPY END が多い。

ウ) これらのせりふは、どんなときに使われるだろうか。

(a) 「男らしくしなさい」

・ウジウジしとる時。 ・意見があいまいな時。 ・悩んでいる時。 ・暗い時。
・決断(判断)を迷っている時。 ・弱々しい。 ・度胸がない。 ・男の子が泣いている時。 ・ちょっとしたケガで泣くと。 ・ちょっとした事をガマンできない時。
・メソメソしてたりする時。 ・イジケてる時。 ・いくじがない時。

(b) 「女らしくしなさい」

・だらしない時。 ・やんちゃな時。 ・手伝いをしない時。 ・言葉が悪い時。
・うるさくしてるとき。 ・口が悪い。 ・礼儀正しくない。 ・みだしなみ。
・遊んでてケガした時。 ・男の子と同じことをすると。 ・乱暴なことをした時。

今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

・今日は、童話にもそんな男女的差があるのにびっくりした。僕はけっこう女々しいですよ、ハイ。男らしく生きないとなあと思った。男は強いのに懂れますもの。
・昔の童話などの中にも「男は～」 「女は～」 という似たような共通点があることが分かった。
・何にも考えないでよんでた本が実はちょっとムズかしかったんだと思った。
・昔から童話にもあるように、男女の役というのがきまってしまっている。いつから本当に決まったのか。今日の文ならびかえはよく考えてみるとこういう観念からもきていると思った。

- ・一番最初にやった文章の並びかえに引っかかって少し悩んだ。
- ・男と女の思いこみについて。「男らしく」や「女らしく」は実際の男女とは、ずいぶん違う。それは童話にまで出てきている。それが当たり前～ではない。
- ・私達が小さかった時に読んだ本にはそれぞれ特徴があったという事に初めて気がついた。だからというわけではないかもしれないけど男の子は強くなきゃ男らしくないとか、女の子がやんちゃにしたら女らしくないとか考えてたのだろうかと思った。
- ・古い物語や童話を出し合ったりしたのが楽しかったです。
- ・ステレオタイプ。「女の子は女の子らしくしなさい」「男の子は男の子らしくしなさい」なんでそういうことになるのか、自分は自分、それでいいと思います。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 自己分析しましょう。

- ・今日もビバ能動的でした。AAA くらい。良かったところは意見がいっぱい自分で出せたことです。悪かったところはテンションが低めだったことです。
- ・少しはできたと思う。
- ・自分の考えがあんまり出なかった。
- ・自分が「こうだ」と思っていることが無意識のうちにあった。子どもの夢として昔話ははじめから男と女の役が決まっている。
- ・今日はとても体調がよくないので積極的に授業に取り組むことができなかった。
- ・いっぱい考えた。悪かったところは人見知りしてあんま話し合えない。毎回のコトだけど・・・
- ・発言などをしたりして、なかなかいいかんじで参加できたような気がします。悪かったところは、班の人々とあまりしゃべらなかったところです。
- ・自分の意見はたくさん出せたけど相手の意見をもっとたくさん聞きたかった。

授業について

- ・もうちょっと一人一人が意見出し合えたらと思う。
- ・深くは考えなかったと思う。
- ・テーマ選び・展開は、とてもおもしろかったのですが、まだみんな慣れてはいないので、大変っぽかったです。

第六回 5月30日

ここまで、ものの見方・考え方の基本として「偏見やステレオタイプを脱すること」を意識できるようになることを学んできた。それを経ているので、そろそろ、知的に情報判断をするような授業にはいいだろうと思われる。そこで、写真やビデオなどの視覚的な情報から、学んだことの応用へと入っていく。

活動：「写真から、学ぶ」 (Toto 出版 写真集「地球家族」を使って)

写真には、情報量が多い。そこからできるだけ推測する力を働かせながら読みとっていく。自分の目でよく見ることを、学ぶ。

「地球家族」という写真集から、写真を選んで使う。

ただ、昨年の経験から、一枚を練習として全員で観察・分析して、いろいろな角度の見方ができることを知った上で、個々の観察へ進んだ方が良さそうだと感じた。そうでないと、「この写真からわかることは？」という質問に、2～3行しか書くことができなかったりする。

(1) 全体で一枚の写真を見る

- 1) 一枚の写真を見る。言葉や文字のデータ（文章や国名など）は出さない。
 - 2) それを見て、「この写真からわかることは？ また、推測できることは？」（後者は、確実ではないが多分そうだろうというもの）という質問を出す。時間は、5分間。各自で、カードに箇条書きにしていく。
 - ・まずは何も互いに話さないで、その絵から推測されることを、書いてみる。
 - （書くのに詰まっていたら、客観的に正しいと思うことと、主観的にそれっぽいかなと感じることの両方を分けて書こう、という指示をすると、自信のない事も書ける）
 - ・よく言われる "5W1H" について話す。ものを分析的に見る目安となるものとして。
 - （筆が進まないようなら、指示のしかたを、「ひとり10項目、書きなさい」などと明確にすることもできる）
 - 3) それを発表していく。黒板にメモしておく。
 - 4) ひとつおりの出たところで、黒板の項目を、どういう観点のものか確認する。つまり、「地理」「気候」「風土」「人間関係」「所有物」「自然環境」「健康状態」など。例えば、
 - 「いつ」：季節、朝・昼・夜、
 - 「どこ」：国、地域、南・北、暑い・寒い、湿気、山・海、都会・田舎、天気、
自然環境、人工的環境（安全か、など）
 - 「誰」：写っている人数、年齢、仕事、
 - 「何」：衣食住 特に、日本では見慣れないものと、日本にはあるのに写真の中には写っていないものに、注目
- (2) 数枚の写真を使って

5) さまざまな観点があることを生徒が知ったところで、今度は数種類の写真を使って、あらためて写真から読みとることを試みる。

6) ひとり一枚ずつ見て、読みとれることを書き出す。5分たったら、写真を隣にまわす。回ってきた写真で、同じように読みとりをしてみる。これで、同じ写真を複数の人数が観察することになり、つまり、観察者による違いが明らかになってくる。

7) 各自のメモを、比較する。

- ・グループに分かれて「見て推察したことが同じものには○を、違うものには？を、ひとりだけ気づいたことには！」をつける。違う理解をした事柄について、お互いにどうしてそう見たかを話す。

- ・その結果を、全員に紹介する。

人によっていろいろな見方があることを、理解する。それはまた、正しく見ることを学ぶものでもある。

* 外国の写真から学ぶ活動全体について

男女のステレオタイプについてやったあとに、外国の様々な写真を見て考えるのは、もちろん、教員側の意図としてはつながっているものだが、生徒達には、先にそのことを言わないで置く。多少なりとも感が働くならば、気がつくだろうが、それはそれでかまわないし、それだけよく分かってくれているのはいいことである。

ステレオタイプで考えることは、真実を自分の目でみないことであるから、未知の事象を理解するには大きな妨げである。よく分かるとは、自分の能力でいろいろと考えられる想像力が必要なことでもある。

間違いを恐れて、何も自分で考えず判断もしないようになってしまつては、困る。しかし、知りもしないで分かっているかのような勘違い・傲慢さも、いけない。

そうすると、

- ・謙虚であり、自分の誤解や知識不足を受け入れられる心の状態
- ・正しく理解しようとする意志と探求心

このふたつが備わることを目指しながら、それを生徒達が実行していけるようになるための考え方や技術を、授業を通して伝えていくことが、役割といえるだろう。

<やりかた>

写真を数枚、用意する。それを見ながら、「どういう場面を写した写真だろう？」ということ、考える。

生徒に話してもらうなかで、どのような声が出てくるか、予測は不明で、そこは教員側にとっては怖いところ。

- ・ステレオタイプによる勘違いの可能性に、気がつく
 - ・真実は分かりにくいことがあることに、気がつく
- このふたつが重要になる。

可能性として、生徒が偏見にゆがんだ発言や差別的な感情表現をすることもありうる。そのような場合にどう教師が応じるかは、基本的にアドリブになる。難しいことのひとつは、生徒の言ったことを、「それは間違いです。」「そういうふうには言ってはいけません。」のように封じてしまうと、もう生徒は思いついた通りをまっすぐしゃべるのはやめてしまう可能性が高いから、それができない点である。しかし、よくないことは、(生徒が自然に納得できるような流れが望ましいが) その場で理解させなくてはならないのも、確かである。それゆえ、生徒の反応によって、教師には、善悪の判断、何がどう良くないかの理屈、それをどう生徒が前向きに受け入れられるかという技術的(話術的)能力、といったことが瞬時に要求される場面が、ありうる。まともに考えれば考えるほど、これはたいへんなことになる。ただ、誰にも出来なくなるほど真面目になるとかえって無意味になるだろう。「それはちょっとおかしいはずだけど、理由は今すぐは上手に言えないから、次回まで待つて」のように、その場で出来ないことは出来ない、分からないことは分からないと、正直に言うつもりで授業にのぞむ、というのがいいのではないだろうか。この際、教員は何でも分かっている答えられなくてはならない、生徒に教えなくてはならない、というパターンから、抜け出してしまうのもおもしろそうである。

(配布プリント)

() 月 () 日

(1)

(確実)

(おそらく)

A

B

C

	(確実)	(おそらく)
D		
E		
F		

<今日のふりかえり>

今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

・物事を色々と考えていくという大切さが学べました。自分の意見や相手の意見も聞けて楽しかったです。

・自分が、一つの写真からけっこう多くの事を読み取れるんだなと思いました。

・写真は多くの色々な事を語っている、という事を知った。私は、友達の写真や、新聞でも、記事の内容を見てから写真を見るから、いい記事では（笑っていて、記事の場所で）っていう感じで、普段考えないし、日本のものでは日本の地域が当たり前って感じだから、写真だけみて、創造するというのは、ちょっとむずかしいと思った。

・一つの写真から読み取れる事は、だいたい同じだった。だけど、それぞれ個々だけが気付く点もあった。視野を広く持ちたいと思った。

・写真を見て、自分では見落としがないつもりでいても、まだまだ見えてない部分があったので驚いた。

・写真はいろんな事を表している。表面的にしか見なければ、本当に写真上でおこっていることしかわからないが、人と物の関係で見ればまたさまざまなことが見えてきた。自分が見ようとしただけで、写真ははじめからたくさんのことを語っている。

・写真をみていろいろ考えるのは初めてだった。時間とかはあんまりわかんない。

・写真などの、一瞬の風景を写したもののの中にも、様々な情報があるということ。それが自分にとって、様々なものの見方をできるようにするために役に立つことが分かった。

・自分一人で考えるよりも人数が多い方がたくさん意見がある。

・一枚の写真でよく見ればたくさんの情報が得られること。逆によく見なきゃわからないこと。

・ヘレンケラーって日本に来たんだあ。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 自己分析しましょう。

・今日も自分の意見がたくさん言えたし、相手の意見もたくさん聞くことができたので良かったです。

・結構、意見を出したりして、積極的に参加できたと思います。

・沢山、写真から情報を読み取れて良かった。

・今日はけっこう真面目に取り組めたんじゃないかなと思う。

・能動的に考える事ができたと思います。内面を見ようとすれば書ける事がたくさんあった。

・2枚目はちゃんとできたけど、1枚目はちょっといみわかんなかった。

・よくわからなくてこまったけど次は参加できるようにがんばる。

・(良) 今日自分の中で一生懸命やったし、意見もたくさんでた。

(悪) 回りの人々があまりにも接しにくく、あまり話し合えなかったこと。

今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういう

ところでしょうか。 分析・評価しましょう。

- ・まだまだ班員全員が一つになりきれていないところです。まとまればもっと授業が面白くなるんじゃないかなと思いました。
- ・自分がどこまでちゃんと情報を感じ受け取る事ができるのか。考えをせばめず、広くものごとを考えることだと思う。
- ・写真を見ていてもあまりおもしろくなかった。
- ・もうちょっとわかりやすい写真を出してほしい。

授業者のふりかえり：

いわゆる、「メディア・リテラシー」に含まれるもの。この後に、ビデオを見て分析したり考えたりする授業へ進む。しかし、写真をただ見せただけでは、ほとんど言葉が生徒たちから返ってこないことは過去の経験から予想していた。それで、展開のしかたについては発言がしやすいように準備をしたのだが、それでも、さほど活発とはいえなかった。生徒たちが、感ぜない・考えないというわけではなく、おそらくは、それらと言葉とが結びつかないのだろう。言葉と結びつけて文を構成する練習があまりなかったのではないかと思う。後から考えたのだが、先にビデオを見て考えることをやってから、その後に写真へと進む順番が良かったかもしれない。静止画のほうが、生徒には難しかったのではないだろうか。

第七回 6月6日

(1) 写真を見て、考える

前回にやり残していた、部分を見て全体を想像するというもの。これは、積極的により深く考えることを学ぶための活動でもある。

最初は、全員で一枚の写真を使う。

(ア) 一部分だけ切り出した写真を見る。その周りの場面を推測して、鉛筆で描いてみる。

(イ) 書いたものを比較する。似ているところ、いないところなどを、検討する。

(ウ) 切り出す前の元写真を見る。

次は、数人ずつで、違う写真を使って考える。

(エ) 周りの情景を考えて、描く。

(オ) 相互に、比較する。

(カ) 切り出す前の元写真を見る。

(キ) 元写真を分析する。それと同時に、一部分だけを見ていたときとの違いを確かめて、その違いの生じた理由を考える。



グループに分かれて、検討

(2) 「ビデオを見ながら、考える」

1993年と古いのだが、自分がバングラデシュという国へ行ったときに撮影してきたビデオを見せる。これは、シャプラニールという農村開発援助のNGOの活動現場を見に行く会に参加したもの。テープのうち、風土や人々の生活が写っている前半部分を使う。NGOの活動についてかなり写っている後半もあるが、それはもう少し先へ行ってからの予定。

テープの中の、いくつかのポイントから、話を広げていくことができる。

いつか触れなくてはいけないと思えるテーマはいくらでもあるのだが、今回は、テープに写っていることから直接的に触れられることを、少しずつ（浅く）話すだけにする。たとえば、生きていた鶏をさばく場面があり、これは現在の生徒たちの多くには、かなり衝撃的と思われるので、食べることの意味などを深く追求しようとすれば何時間分にもなるが、今回はそうはしないでおく。

まずは一回通して、前半の17分（風物に関する部分）を、通してみてもらう。

その時点での、考えたこと、感じたことを、メモする。

(用紙1)

次に、巻き戻して、少しずつ検証していく。

(用紙2)

・良さそう、よくなさそう、どちらともいえない、の三つに区分けした紙に、ビデオの該当する場面を(2分くらい)見てから、すぐに気づいたことをメモする。

・そして、何にどう関心を寄せたか、順番に話してもらう。

・その後は、生徒の発言や疑問を受けながら、様々なことを解説する。

そのようにして、前回までの授業で、“観察すること”を勉強したので、それを“応用する時間”とする。

この場面の、“解説する”ということについては、ある程度の注意が必要だろう。あまり、自分の解釈をしゃべってはいけない、つまり「こういう事実があるから知っておけ、憶えておけ」的になってはいけない、ということがある。生徒が気がつかないポイントについて触れて、面白がらせたり驚かせたりするような話ができればいいはずだと考えられる。生徒の想像力を刺激したいものである。

(配布プリント)

() 月 () 日

バングラデシュ ビデオ 第一部「バングラデシュの風物」

用紙 No.1

あなたが気づいた特徴について、書いてください。

1 気候

衣食住

2 衣類

3 食事

4 住居

5 その他

バングラデシュ ビデオ 第二部

用紙 No.2

よさそう

どちらともいえない

よくなさそう

<気候>

<モスク>

<食>

<衣類>

<農村風景・交通>

<村>

<学校>

<遊び・化粧>

<村の風景>

<調理>

<音楽>

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

<生徒のコメント>

<今日のふりかえり>

今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・バングラデシュの自然の多さはいいなと思った。ただむし暑いのはちょっとヤダ。
- ・日本とあやとりでかぶっていたところ。
- ・バングラデシュのビデオを見て、日本との気候の違いや、生活の違いを見たこと。
- ・ビデオみて、日本とちがうところばかりだったから、びっくりした。あんまりいいところなかった。絵は、全然かけなかった。
- ・一部の写真から回りの風景は何通りもうかぶことができる。意外に考えるとむずかしいものだ。でも（自分で想像して）絵を描くことは楽しかった！！
- ・日本以外の国のことをやって、ようやく国際理解の授業になってきたような気がした。
- ・バングラデシュのビデオは、ちょっと衝撃だった。生活の違いを感じた。日本はとても豊かだと思った。
- ・部分的な写真はやっぱりむずかしかった。世界は本当に広くて、想像以外（？）という感じだった。ビデオも写真と同じく、いっぱいいろんな事を語っているんだと思った。
- ・ビデオを観たり、絵を描いたりして、普通の授業にはない楽しさがあって良かったです。
- ・バングラデシュのビデオは、自分たちの生活とあまりに違っていてビックリした。貧しそうな感じがしたけど村人はすごく明るく元気で楽しそうでした。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

- ・（10）ない知恵しぼってアイデアをふくらまし、そして積極的に授業に参加したから。
- ・（10）今日はかけもしない絵もかこうとしたから。
- ・（7）前半の授業（写真を見る）でもっと頑張りたいかった。後半は、良くできた。
- ・ふつうにやった。
- ・（8）時間以内に絵を作成できなかった。ビデオは、いろんな情報を受け、書けたと思う。
- ・（9）今日は全てのことを真面目にやった。
- ・（8）（良）一生懸命考えたから良かった。（悪）少し眠かった。
- ・（9）自分で楽しい授業ができたこと、自分から参加していったこと、などで9点です。
- ・（9）あまり絵が上手く描けませんでした・・・ (>_<)

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点（10点満点で）

理由：

- ・（6）写真のパーツがせますぎ！ってゆかわかりにくすぎ！ ま、その分必死だったけど。
- ・絵かくのはやめたほうがいい。よくわかんないし。
- ・（9）時間がちょっとたりなかった。絵が（あまり）描けなかった。プリントにいろいろ書けた。
- ・（5）まだよく授業の意味が理解できない。おもしろみがない。
- ・（6）時間がいっぱいだったと思った。ビデオの案は良いけど見にくかった。
- ・（6）ビデオが見えにくくて大変でした。
- ・（9）世の中の普通の人々の生活が知れて良かったです。

授業者のふりかえり：

ビデオ映像を使う上での問題として、「つい、なんとなく見て終わってしまう」という危険性がある。たとえ強烈なインパクトがあるものであっても、「すごかった！」で止まってしまって、何がどうだったのかという思考に至らないことがありえる。ワークシートを用意するなどして、見たものをコトバに変えていく段階を作ることで、自分自身の内側に入ったものを発見したり整理したりできる。

いわゆる「貧しい国々の映像」は、かわいそう、行きたくないところ、という印象を持たれがちなので心配もあったが、アンケートの様子からしても、そのような受け取られ方にはなっていなかったのだから、安心した。このあたり、教師がどのような流れの中でどうビデオを見せるかによって、生徒の受け取る方向性は大きく異なるはずである。

第八回 6月13日

(1) バングラデシュのビデオ

前回のビデオを、もう一度利用する。

(ア) 各自が、用紙1に記入したことを、発表する。
他の人の着眼点や、考え方を聞くことに、大きな意味がある。

(イ) 今度は、用紙2を開いて、ひとつのテーマについて順にメモを読み、その部分をビデオでも見直す。ビデオをまわす時には、教師が解説。

・・・ビデオを見終わったところで、来週はカレーを手で食べてみるか、尋ねる。イエスでまともだったらやるし、ノーであればやらない。

(2) 外国からの物

ビデオの中のことは、遠い世界のように感じられがちだが、イメージ的に少しでも近づけていきたい。外国と自分の日常生活が、それほど縁遠いものではないことに気がつかせる。

(ア) 自分の持ち物から、外国で作られたものを探す。made in ... などと書かれているものがいくつか出てくるだろう。
見つけられなかった人は、部屋の中から、外国製の品物を探し出す。

(イ) 国を、地図で探す。

(ウ) その国から、連想することを、書き出してみる。
何について、書くことができるか？ それは、前に出てきたリストを元にできる。

「いつ」：季節、朝・昼・夜、

「どこ」：国、地域、気候、山・海、都会・田舎、

「何」：衣、食、住

いままでの学習で、ステレオタイプ・偏見というものを考えてきたので、自分で、それらにとらわれてしまわないように気をつけて、考えてみようという言い方をする。

土地の産物は、環境などからの必然性と結びついていることをイメージさせたい。偉い、偉くない、というような順番をつけないで考えられるようにしたい。

(配布プリント)

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、
悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どう
いうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：___点（10点満点で）

理由：

<生徒のコメント>

6月13日

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・手でカレーを食べるのを体験してみたいと思う。
- ・前回の授業に引き続いて日本の文化とバングラデシュの文化の違いを体験できて良かったと思います。カレーを作ってみるのもいいと思います。
- ・国によって物の価値が違うことをすごく感じた。ノートとか教材でも、日本ではいっぱいあるのにバングラデシュではとても大切なものという事にちょっとびっくりした。他人の意見を聞くと、気づかなかった事とかがあって、ビデオ観て納得した。カレー作りは、手で食べるということはあまりやらない事なんで、大変そうだけど、おもしろそう。ちょっとやってみたいと思いました。
- ・みんなは色々考えてるんだなーと思った。人によって見方が違う！！
- ・バングラデシュの文化がすこし分かっておもしろかった。
- ・熱帯のフルーツが食べてみたいと思った。勉強ができない（充分に）のはかわいそうだと思った。
- ・みんなちがうことを思ってたんだなあと思った。カレーは作らなくていい。
- ・もう一度バングラデシュのビデオを観て、この前の時よりもいろいろ考えることができた。
- ・カレーを手で食べるの、一度はやってみたいと思った。
- ・考える部分が違うと思った。何回か見るとよく分かる。そっちの授業は楽しそうだからやってみたい。
- ・みんなそれぞれの見方や意見があってよかった。なんで包丁が上向きなのか、あぶないじゃん。貧しいけどいいところだなと改めてわかった。カレー食いたい、かな？

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

- ・（10）自分の意見がしっかり言えたのが良かったし、回りの意見も聞けたので色々な考えができた。
- ・（8）前回、メガネを忘れてしまって、画面がよく見えなくて、ビデオがよく見えなかった所もありましたが、まあまあ、発言できたと思います。
- ・（6）今日は眠かった。
- ・（8）2時間目からだったけど、それなりに真面目にやった。
- ・（8）ちゃんと前回の授業でかけていたからよかった。
- ・ちゃんとできた。書いてあることをゆっただけだった。
- ・（8）自分の考えが言えたから。
- ・（5）途中参加だから。
- ・（10）今日も自分の意見をはっきり言えたし、がんばった。でももうちょっと声が

出れば・・・

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点（10点満点で）

理由：

- ・（7）自分の意見を言わない人がいる・・・
- ・（8）みんなで意見を出し合って、楽しい授業ができたと思います。
- ・（6）
- ・（5）おもしろ味が足りない。
- ・（8）問題点特になし。
- ・（10）みんなが様々な事について意見を言えたから。
- ・（9）特に悪い点はない。

授業者のふりかえり：

この次の回で、カレー体験をすることになる。ただ、この種の活動は、強制するわけにはいかない。こちらが良いと思っても、やりたくない生徒が多ければやめるつもりでいた。やりたくないとした生徒が2人だけだったのでやることにしたが、無理矢理そのふたりにも食べさせようとは思わない。まわりにつられて自然に口に入れれば、それが望ましいが、こちらの都合を押しつけないことにしている。だいたい、カレーに、つまり液状のところに手を入れて食べるという行為は、日本の食生活にはないので、何の下ごしらえもないところで持ち出せば全員に拒否されても当然といえるようなことである。それが、たった2人までになっているのだから、生徒に感謝すべきところだろう。

(配布プリント)

・・・ホームルームで、配ってもらったプリント・・・

三年生選択 「国際理解」 選択者へ

先週、「カレーを食べる？」という質問をしました。反対が3人以上だったら、やめるつもりでした。みんなの書いてきた反応を読んだところ、2人でした。これは微妙な数で、どうしようか今日まで迷っていたのですけれど、やることにしました。ですので、明日は、家庭科・調理室に集合してください。

もちろん、食べ物の好き嫌いというものがありますから、必ず食べろと強制はしませんので、安心してください。

手をちゃんと洗わないといけませんから、ハンカチは必需品です。忘れないで。

四月の初め、第一回目の授業で、国際理解の要点は人としての姿勢にある、ということをお話しました。ステレオタイプや偏見を乗り越えた考え方や行動ができることが、目標です。食べ方という基本的なことにも、ステレオタイプ・偏見は存在します。

「棒きれで食べるなんて、子供のいたずらみたいで、下品」というのは、どこが変だと思うのでしょうか。(もちろん、この“棒きれ”とは、箸のことです) このような言い方をする人は、“棒きれ”で食べる習慣の人々を尊敬する気持ちは持てないでしょう。つまり、偏見によって、相手を低く見てしまうため、他人を大切にできないということなのです。

実際に手で食べてみると、様々な合理性が発見できます。そして、それは体験を通してしかわからないものです。言葉だけでは、肝心なところが理解できないものです。明日は、理屈は脇において、経験的・感覚的に、理解してほしいと思います。そして、ステレオタイプ・偏見というものにとらわれないような、見方の広い人になってもらいたいと願っています。

* 朝の一、二限なので、それほどたくさんは作りません。朝食はふつうに食べてください。

* 途中までは準備しておきますが、自分たちで料理は完成させます。

第九回 6月20日

先週までで、「ステレオタイプ」について、頭の中で考えることをしてきた。今回は、具体的な行動によって、みずからそれを乗り越えてみる経験をするのが、目標。

そのために、カレーを手で食べてみる。

多くの人が、手で食べるのは野蛮だ、不潔だ、などという偏見を抱いている。おにぎりや煎餅は手で持っているのにも関わらず。また、昨日洗った箸と、たった今洗ったばかりの手では、どちらがきれいか、客観的に考えれば事実は明らかである。しかしながら、液状の柔らかいところへ指を入れるのは、日本では馴染みのないことなので、ある程度の恐れを抱くのも、不思議ではない。そういう、自分には馴染みのないことを、場面によっては進んで行動する体験をさせてやりたいものである。どんな人に対しても、どこへ行っても、何の客観性もなく自国のやり方を絶対視しているのは、人間として恥ずかしいことであるし、周囲を不愉快にするものでもある。

ただ、あまり理屈っぽくなく、今日は体験の日、と割り切ってもいいだろう。

今年は、午前中一、二時間目なので、あまり昨年のように盛り上がりたかもしれない。時間割の五、六時間目になるように、昨年の秋に教務へお願いをしておくべきだった。

カレーの作り方

- ・タマネギは時間がかかるので、これは、今回は事前にいためておく。
- ・ニンニク。ショウガ。
- ・コリアンダー、ターメリック、パプリカ、カイエンヌペパーを5 : 4 : 3 : 1で。
- ・鶏肉。
- ・カルダモンと、テジュパタ。

米の炊き方＜湯取り＞

- ・水は、米の4倍を、注ぐ。
- ・グラグラと沸かす。ふたはしない。粘りが浮いてきたぶんを、すくって捨てる。
- ・米の芯がなくなってきたら、湯を捨ててしまう。
- ・蒸らさないで、蒸気をとばす。

あとは、生徒たちの様子を見ながら、「ある程度、成り行きまかせ」で進めていきたい。あえて、そう考えるのは、これまでの五回は、とてもよく準備しておいて、こうきたらこうする、こうなったらこの手を出す、ということが事前にシミュレーションされていた。しかし、常にそうでなくてはいけない、とも思えない。今回は、理屈を必要としない生の体験があるのだから、話を事前に設定しないで、自然な流れの中で自然な対話が進むことを、ねらってみる。言葉よりも、生徒たちは自分自身の指先から多くを学ぶだろうし、そこから出てくるものを教師が受け取る側になる授業のありかた（ふだんとは反対の立場）を試みることになるだろう。

(1) 材料を知る

材料を（米、小玉葱、スパイス類）を並べる。米は生のものを二種類（ジャポニカ米とインディカ米）まず触らせて、違いを感じてもらう。スパイスは匂いをかぐ。粉末でないもの、今回はコリアンダーシード、カルダモン、そしてテジュパタ（月桂樹とそっくりな葉）は、じかに触って確かめる。

（２）米を炊く

炊く米は二種類、用意した。一方は、ジャポニカ米の代表でコシヒカリ、もう一方は、タイ産のインディカ米。前者は、日本で普通にやるとおりに炊飯器で、後者は南アジアで一般的な、大きな鍋で湯取り（大量の水でゆでていき、頃合いを見計らって湯を捨てる）で炊いた。この、湯取りすることには、カレー本体と同じくらいの意味がある、重要なポイント。

玉葱が炒められたところで、他の材料と水を入れ、後は煮ていく。そちらを待つ間に、湯取りにする意味を説明する。

- ・日本のお米は、炊いたとき見た目に艶があって、光るのがいい、とされている。ところが、それは海外でも同じだと思ってはいけない。

- ・湯取りにすると、お米の表面に、ひびがたくさんはいる。そうすると、見たところ、艶は全然ない。そして、わざとそうするのは、カレーをかけたときに、そのひびからとてもよく吸い込んでくれるようにという意図があつてのことである。

- ・つまり、ジャポニカ米を日本風に炊くと、カレーを吸い込んでくれない。だから、混ぜても一体感がなくて、ものたりない。インディカ米を湯取りすると、とてもよく吸い込んで、おいしくなる。

- ・これは、地元の食材を、その特徴が生きるように調理している、よい例である。（何が何でも日本のお米が一番だ、などという言い方が、底の浅いステレオタイプ、またはナショナリズムによるものに過ぎなかったことに気づくポイントともなる。）

- ・よく混ぜるほうが、おいしい。そして、じゅうぶんに混ぜるには、箸よりも、指でやったほうがうまくいく。つまり、食材や調理法と不可分なものとして食べ方があり、カレーに適した方法として、指が使われている。

こういう話をしながら、お皿などを並べていく。冷蔵庫から、ヨーグルトを冷水で少し伸ばして砂糖を溶かしたもの（いわゆる、"ラッシー"である）も出す。これも、相性という考察に役立つ飲み物。

（３）米の性質の確認

お米が炊けたところで、小さなガラスの器をふたつ出し、片方にジャポニカ米、もう片方にインディカ米をよそう。器の底から、中が透けて見える状態。そこに、お玉で一杯ずつ、カレーを注ぎかける。

ジャポニカ米は、すぐに器の底まで、カレーが通り抜けてくる。

インディカ米は、器の底が、カレー色にならない。白い米が見えている。つまり、途中で米が吸い込んでいるのだということが、目で見てはっきりとわかる。

(4) 食べる

指で食べるやりかたについて、軽く説明。
(簡単にいうと・・・)

人差し指・中指を下にして、スプーンのようにすくい取る。それを、親指の爪の方で押して口の中に入れる。

「個人的経験では、身体を机にまっすぐ向けていると、なぜか食べにくい。左肘をテーブルについて（日本では「お行儀悪い！」といわれるが）、身体を少し斜めにすると、なぜか上手に口元へ運ぶことができる。」という話をした。



調理室で、カレーを手で食べる授業

あとは、しばらく、雑談。あまり授業っぽくしゃべると、生徒にはうるさいだけだろうし、あれこれ感じたり考えたりしているのを、じゃましてしまう。

ヨーグルトの話。カレーは、もちろん、辛いのが普通である。そして、辛さを鎮めることができるのはなにかというと、「甘いもの」「乳製品」である。つまり、カレーの合間に飲むのに最もいいのは、甘いヨーグルトなのである。ダッカの町中では、素焼きの壺に入れた、屋台のヨーグルト売りが出ている。

しばらく食べたところで、魚の焼いたものを出す。これは、指で食べる場合の問題点を感じる目的。できれば、小骨がたくさんある小魚を用意する。それを手で触ると、骨が指先に時々刺さったりするし、案外、身ははずしにくい。焼き魚などには、箸の方が高機能なのがある、というものであった。

穀類や豆にスープを混ぜて食べるには指が便利で、それらが主になる地域では自然と指文化になる。魚を食べやすいことが重要になる日本のような地域では、おのずと箸が使われる。そう考えると、どちらが偉いとか野蛮だとかいう見方が、客観性や論理性のない、視野の狭いものに過ぎない、ということもわかってくる。

今年は、時間をうまく使って、後かたづけまで全員でやれるようにしたい。

(配布プリント)

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きまじょう。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、
悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どう
いうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

<生徒のコメント>

6月20日

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

・カレーの味がうすかったこと。日本のカレーと違い、意外と油っこくなかったこと。手で食べるのはやっぱり日本人にはあわない気がする。タイ米よりコシヒカリの方がかなりうまかった。

・食べ方にもいろいろあるとおもった。味がうすかった。

・カレーを手で食べるのは、難しいと思っていたけど、やってみると思っていたより食べられた。こういうことをするのは初めてだったけど、面白かった。

・スパイスから作ったからびっくりした。水っぽくて、カレーじゃなくて黄色い水みたいだった。

・普通に片手で食べればいいのかと思ったけど、食べる時の体の向きもあった。たしかに、右左、どちらかのひじをついた方が食べやすかった。ヨーグルトの飲み物がカレーにあるというのははじめてであった。でもこの組み合わせで初めて食べると、腹をこわしそうな感じがした。

・カレーの味がやたらと薄かったし、食べた後腹が痛くなったので困った。

・手でカレーを食べた。自分でやってみれば“汚い”って意識はなかった。

・今日、カレーに入れた調味料(?)がいっぱいあったけど、全然見たことのないものばかりでした。木の実に多くて、辛そうなものばかりで、いつも作る時は市販のルーを買ってそれを入れて出来上がりだったんだけど、それは日本のお米との相性を考えて作られたものだと知った。地域で取れるものによって、はしや手ナドわかれているということを知った。魚は手じゃすぐくたべにくかった。手で食べるのは意外と大変。

・みんなでカレーを作って食べた！ それも手づかみで。日常ではなかなか体験できないようなことができて、とても楽しかったです。カレーもとてもおいしく、すごくいい経験が出来たと思っています。

・カレーを色々なスパイスから作ったのは初めてだったのでとっても面白かったです。手で食べるのもやっぱり難しくてポロポロしてたのですが、だんだんなれて上手く食べれるようになり楽しかったです。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

・（10）今日も積極的にやったし、いい体験ができてよかったと思う。トリ肉がうまかった。

・（10）食べたし、片づけもしたから。

・（8）食事の準備、片付けができた。

・（10）かたづけとかちゃんとやった。

- ・(10) ちゃんとできたと思う。
- ・(9) 自分なりに真面目にやったと思ったから。
- ・(10) 作ったし食べた。
- ・(9) 飲み物を用意したり、皿洗いをしたりして、とても積極的に参加しました。
- ・(10) 進んでカレー作りに参加していきました。

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点 (10点満点で)

理由：

- ・(9) いい体験ができたし、いろんな香辛料も知ることができた。ただカレーの味がうすい。
- ・(7) 味が・・・
- ・(10) 良い経験ができた。
- ・あんまりおいしくなかった。
- ・(8) ご飯を食べるとき(カレー)ちゃんと手を洗った方がいいなと思った。
- ・(5) カレーを作ること自体はおもしろいが、味が薄い。
- ・(8) カレーはおいしかった。のみものはちょっとキツかった。減点2。
- ・(10) 日常ではなかなか体験できないことができて、とても楽しかったです。
- ・(9) カレーが初めて食べた味なので不思議な感じがしました。飲み物が少し微妙でした。

授業者のふりかえり：

今回の最大の問題は、カレーがあまり上手にできなかったところにある。去年は、5・6時間目だったので、生徒は昼休みにはいたら調理室に集合し、みんなで玉葱の皮むきから始めて作って食べた。つまり、時間も人手もあったので、玉葱をたくさん使った。それが、今年度は1・2時間目なので、自分ひとりで準備したため、炒め玉葱の量が足りなかった。とても残念である。ほんとうはもっとおいしいんだよ～と、口でどれだけ言ってもダメなものはダメで、これは反省しなくてはいけない。今回に限らず、国際理解の授業は、失敗すると、困った誤解を植え付ける危険がある。

第十回 6月27日

(1)「心の健康」について

この回が一学期最後になるので、まとめを意識して、焦点を当ててきた「ステレオタイプと偏見」について振り返る。

現実の社会は、多様なグループが折り重なっている。男と女、学校、地域、習慣、国籍、その他のいろいろなグループがある。主な問題は、ふたつ。しばしば、グループ間に上下をつけることと、ひとりひとりの人間を無視して「あのグループはみんな・・・だ」という乱暴な決めつけがおこなわれること。このふたつの問題から抜け出せることが、人々と対等につきあう、そしてつきあってもらえるために、欠かせないものである。

心理学的に、強い偏見を持つ人には、次のような傾向があることがわかっている。

- ・愛情よりも、服従を強いられてきた。
- ・子どもの頃、欲求不満をコントロールする力を身につけなかった。
- ・自分の行動（特に、過ちを犯したとき）に、責任を取らない。
- ・身代わりを作って、他人のせいにする。

これらの結果、他人を攻撃する排他性、差別を持つようになる。これは、健康な心とは言えない。誰かを悪く言うことが気持ちよく感じる状態は、心の病気と言うべきかもしれない。（悪口を言うときに、目を輝かせて、すごくうれしそうになる人がいる）この、他人を悪く言う場面は、身近なことから、国際紛争まで、至るところで見られる。しかしながら、落ち着いて安定した状況を壊すゆがんだ心理である。健康な社会は、健康な心から、ということができるだろう。

(2)「もし、私が・・・だったら」

一学期の最後には、バングラデシュのビデオを見て、その習慣に基づいた食事の実習をしてきた。それを元にして、自分がもしバングラデシュ人の誰かだったとしたら、という仮定で想像してみる。

（誰か、の例：小学生、赤ちゃんのいる母親、リキシャの運転手、稲作農民）

3～4人がひとつの設定で考えるので、その後に各自が考えたことを話していくと、同じ設定でも違うことが思い浮かび、価値観が異なることを感じ取れる。

もし、私がバングラデシュの（ ）だったら、

- 1) どういう趣味があるでしょうか？
- 2) 何が、大切だと思いますか？
- 3) 世の中で最もいけないことは何だと考えるでしょうか？
- 4) 将来、どうなりたい、どうしたいという希望をもっているでしょうか？

(3) 自分の理想の環境・暮らしを想像してみよう

自分自身にとって、落ち着いて楽しく暮らせるための条件を、考えてみる。

(自然環境、職業、衣類、食事、住居、趣味、一日の過ごし方、休日の過ごし方)

さまざまに異なる価値観を、聞いて受け入れる感覚を持ってほしい。

(4)・・・時間が早く進んだなら、「ステレオタイプを打破する」

(実際にはおこわなかった)

以下の文について、自分だったらどう反応するか、せりふを考えて書く。(文章は、UNESCOの作成した冊子「開発のための教育」から)

文1：

学校の先生が繰らすに4人1組のグループで作業をし、その報告を書きなさいと言いました。家族で途上国から来たテオが、あなたのグループにいます。グループが図書館に行こうとすると、マルクという学生が来て耳元でささやきました。「テオが僕たちのグループにいるなんていやだな。あいつの国の国民はみんななまけものなんだぜ。他の国がお金や食べ物や薬をくれるのを座って待っているんだ。テレビでやってたよ。自分たちじゃ何もしないんだぜ。だから、ぼくたちであいつの分まで作業しなきゃならないよ、きっと。」

文2：

あなたのクラスの先生はここから車で二時間のところにある博物館へ、一日見学を計画しています。先生は、父母の誰かが一緒に行って手伝ってくれるかどうか聞いてくださいと生徒に言います。あなたは、「たぶん、おばあちゃんが行けると思うので、聞いてみる。」と言います。でも、先生はこう言います。「ありがとう。でも、この見学はけっこう長い時間かかるし、長距離を歩くことになるから、おばあちゃまはすぐに疲れてしまわれるかもしれないね。お母さんかお父さんに来てもらえるといいね。」

文3：

途上国から来た家族が何世帯か最近になってあなたの町に移り住んできました。廊下で、友人のひとりが寄ってきて言います。「ああいう貧乏人が近くに住んでいるなんて気にさわるわ。父が言うには、あの人たちは仕事を探しにこの国に来たんだって。それで、私たちみたいに前からここで暮らしていた人たちの仕事を奪っていくんだって。みんな自分の国に戻ってほしいわ。」

文4：

今日はソニヤがあなたのクラスに入った最初の日です。ソニヤは車いすを使って動き回ります。休み時間の直前、クラスメートのひとりがあなたに言います。「外に出かけるときは、ソニヤにコートをかけてあげなきゃね。きっと自分じゃ着られないと思うから。」

文5：

イエナはあなたのクラスにいる外国人の女の子です。ある日、食堂でお昼を食べていると、友達のひとりが言います。「あの気味の悪いイエナのお弁当、見て！ ものすごく臭わない？ あの子の国の人たちって、よくあんなもの食べられるわね。」

文6：

あなたは男の子で、もうひとりの男子と、リマという女子と一緒に化学の実験をしなければなりません。それで、仕事をどのように分担するか話しあっています。するともうひとりの男子が言います。「きみが材料の測定をして、ぼくがガスバーナーに火をつけて、そしてリマが記録をとるっていうのはどうかな。女子の方が字がきれいだからさ。」リマは黙ったままです。

(配布プリント)

() 月 () 日 ワークシート

(1) もし、私がバングラデシュの (

) だったら、

1. どういう趣味があるでしょうか？

2. 何が、大切だと思いますか？

3. 世の中で最もいけないことは何だと考えるでしょうか？

4. 将来、どうになりたい、どうしたいという希望をもっているでしょうか？

(2)

自然環境：

職業：

衣類：

食事：

住居：

趣味：

一日の過ごし方：

休日の過ごし方：

一学期末アンケート

三年生 選択「国際理解」 一学期をふりかえって
() 組 () 番 氏名 ()

用紙 1
)

一学期は、以下のような展開で、学んできました。

一、二回目：「自分って何？」ということについて、考えてみる

三回目：まわりとの関わりの中で、どう行動するかを考える

四～六回目：ステレオタイプ、偏見について

七～十回目：ものの見方、考え方

ふり返ってみて、現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

<自分自身について>

来学期以降について現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

<自分自身について>

自己評価

() 組 () 番 氏名 ()

自分で、以下の項目について評価をしましょう。

1. 一学期をふり返って、授業への集中力はありましたか。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点： ____ 点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

2. 一学期をふり返って、授業で十分に努力はできたでしょうか。

良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点： ____ 点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

3. 総合的に、自分で自分に成績をつけるとしたら、何点ですか？

自己採点： ____ 点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

その他、何かコメントがあれば、この下へ。

<生徒のコメント>

三年生 選択「国際理解」 一学期をふりかえって

用紙 1

() 組 () 番 氏名 ()

ふり返ってみて、現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

- ・今までは、この様な授業をしたことがあまり無かったけれど、やってみて良かったと思う。
- ・考えたりするのが大変だった。
- ・いろいろな考えがあるからこういう国際理解という考え方も逆に型にあてはめてしまうこともあると思った。
- ・1人1人が必ず意見する。ある1つのことに関して想像したり、偏見がどこか自分の中にあったことが気づかされたり。
- ・あまり国際的な事は学べた気がしない。
- ・いつも授業の始まった辺りでは何がやりたいのかサッパリだったけど、終わり頃にはだんだんと消化できている不思議な授業だった。
- ・最初は普通の授業と違って、何という答えを求めているのかわかんなかったけど、考えて、皆の答えを聞いて、先生の話聞いて……。そしたら、今まで全然考えてなかった事で、自然に思っていた事が違うということがよくわかった。
- ・他の授業と比べて、とても面白くて、いいと思います。正直言って、「国際理解」を選択して、良かったと思います。仲間と協力しあったり、カレーを素手で食べたり、けど、いつもまわってるカメラがあやしかったです。
- ・今までの授業では、自分の考えや意見を発言することはなかったのですが、この国際理解というものは、自分の意見を発言したり相手の意見を聞いて、自分の考えを深めると今までにない面白さがありました。
- ・知らず知らずに自分も偏見を持っていることに気付いた。もっといろんな見方ができればいいと思う。

<自分自身について>

- ・今までとは違ったものの見方ができる様になったと思う。
- ・最初より意見とかいえるようになったと思う。
- ・想像することより自分自身の夢とかきかされると困ってる自分がいた。
- ・初めは、みんなのことよく知らないし発言しろと言われてもいきなり無理だった。でも授業をこなすうちに周りにもなれてちゃんと言える（答える）ことができるようになった。自分を少しでも広い見方で見れるように → 国際理解がわかった。
- ・自分が学びたいことと違ったので真剣に授業に取り組めなかった。
- ・一回めよりも二回めの方が、二回めよりも三回めの方が～・・・みたいにだんだんと考える幅が広がったと思う。
- ・普通の授業と違って答えのない発表があって、苦手だけど、間違いはないし、意見を言わないよりは言おうと考え方がちょっと変わった。

- ・僕はまだ自分自身について、よくわかりません。きっと一生、わからないでしょう。
- ・私はこの授業で自分の考えを発言してきたと思います。(初めは)自分の意見を言うのが、はずかしかったですが、今では早く自分の意見をみんなに聞いてもらいたいと思っています。
- ・この授業をやって、いろいろな理解をできるようになった気がする。あと僕は自分についてある程度解っていると思うので、1, 2回めの授業は難しくはなかった。

来学期以降について現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

- ・同じ様にやっていきたい。
- ・班とか自由にしてほしい。しゃべれない人の中に自分一人とかになったらやだ。
- ・いろいろな面から見ていくようにしたい。
- ・このままでいいと思います。
- ・もっと国際的な事の知識が増やせるようにしてほしい。
- ・発展途上国よりもアメリカの“主張する社会”みたいなのを学んでみたい。日本とは全然違うから。
- ・もっと色々な外国とかの事を知りたい。
- ・さらに楽しくなればいいと思います。あと、何人かまだヤル気のない人がいるので、その人たちがヤル気になればもっと楽しくなると思います。
- ・もっと、いろいろな考える授業をやってみてもいい気がする。

<自分自身について>

- ・さらに多くの考え方ができるようにしたい。
- ・想像力とかもっとついてきたらいいと思う。
- ・日ごろの行動は周りにとっていいことなのか考えたい。
- ・自分の積極性を強めるべきかもしれない。
- ・来学期は今学期より真面目にできたらいいと思う。
- ・視野を広くして、大きくなりたいと思う。
- ・想像するという事をがんばる。
- ・よくわからないですけど、自分の知らない自分ってのをもっと見てみたいのです。
- ・もっともっと自分の意見を発言し、相手の意見を聞いて、世の中を理解していきたいです。
- ・世界の人々のことを理解できるようになればそれでいい。

自己評価

1. 一学期をふり返って、授業への集中力はありましたか。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・（10点）いつも前向きで、積極的に授業に向かっていったと思うから。いろいろと自分の意見も述べたし、一生懸命考えてたし、たぶん気を抜いたことがないでしょう、ハイ。
- ・（9）自分の考えをしっかりと持ち、発言することができました。最初は、はずかしがってしまい大きな声で発言することができなかったので -1 点です。
- ・（9）自分でも真面目にやっていたと思います。積極的に授業に参加していました。ただ、声が小さかったと思うので9点です。
- ・（5）やる気？はあるけど、考えを書いたりするのは、最初の方はとくにあまりできなかった。
- ・（8）遅刻・欠時をしなかった事。沢山考えて色々な角度から物事をとらえようとした。
- ・（5）前半は不真面目だったが、後半は真面目に授業に取り組んだから。
- ・（8）授業にあった態度でちゃんと取り組むことができたと思う。時間以内に考えなければならぬ所ができなかった。聞かれても答えられなかった。
- ・（5）途中参加という形だったので、初めはこの授業のことを理解しようとしなかったから。
- ・（3）集中は、あんまりしなかった。2時間も集中してられない。
- ・（8）自分なりに、授業の題材について、考え、意見を持つ事ができたから。

2. 一学期をふり返って、授業で十分に努力はできたでしょうか。

良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・（10）かだいについて一生懸命考え自分なりの考えを述べる事ができたから、常に指される（意見を聞かれる）気でいましたからね。
- ・（8）自分の意見をしっかりと持ち、この世の中のステレオタイプや偏見について考えてきました。 まだ少し偏見が（色々な意味で・・・）あるので -2。
- ・（8）努力はしていたのですが、まだうちとけていない所があるので8点です。
- ・（3）自分なりに、がんばった。と思うけど、まだ、ちょっと？がんばれると思う。

感想しかかけなかった。書くのが遅いかも。

- ・(7) 良：いっぱい考えた。 悪：たまに眠かった。
- ・(3) 努力するような場面があまりなかったから。
- ・(9) 初めより、物事について考え、答えられたと思う。
- ・(7) 良かったところ → いつもより多く考えたから。
悪かったところ → 思うように言葉にできないこと。
- ・(10) 想像をいっぱいした。
- ・(7) もっと沢山の意見を持てる様になると良いと思った。

3. 総合的に、自分で自分に成績をつけるとしたら、何点ですか？

自己採点：___点（10点満点で）

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・(10) がんばったと思うよ、自分。ただもう少し頭がやわらかければいろんな見方ができたと思うが、でも10をつけてもいいと思う自信がある。それだけ授業に熱心にとりくめたと思う。
- ・(9) 自分なりにこの授業に進んで参加することができたと思います。 書くのが遅いので -1。
- ・(9) 毎日休まず授業に出れたし、授業を楽しんできたからです。
- ・(5) もっと自信を持って意見をいえるようにする。
- ・(8) テーマに対していつも頭使って考えてきたのと、授業を休まなかった。
- ・(6) 授業を真剣にやろうという意欲がわくような内容ではなかったので、所々、手を抜いてやっていたから。
- ・(9) 授業に協力できたと思うし、自分も授業を通して考えを広げることができた。
- ・(6) ちゃんとやってた感じがするから。
- ・(10) ちょーがんばった。朝からいろいろ考えたし。早起きした。
- ・(8) 意欲を持って、授業に参加することができたと思うから。

その他、何かコメントがあれば、この下へ。

- ・あのビデオ、なんなのですか？

第十一回 7月11日

今回は、期末考査後の中途半端な授業になる。前後との連携を考えたものにはできないので、単発的なものにせざるを得ない。

テーマは、風土と文化の関係を考える授業とする。ある程度の知識がある、イギリスの風土と文化を、必要に応じて日本と比較しながら考える。

(1) 物語

以前にジェンダーの問題を考えたとき、世界のおとぎ話を題材にしたことがあった。それを思い出しながら、今度は、別の角度から考える。

設定：「外国の、人間と人間でないものが同等に出てくる古い物語を、挙げてみよう」

これは、日本には無数にある。かちかち山とか。現代物では宮崎アニメも。

外国の、有名なそのような話を挙げていくと、意外なほど特定の国の話ばかりになっていく。それが、イギリス。

マザーグースものに始まり、誰でも知っているクマのプーさん、ピーター・ラビット、不思議の国のアリスといったファンタジー。そして、怪奇文学では、ジキルとハイドだけでなく、ドラキュラ、フランケンシュタイン、透明人間なども、作者はイギリス人。

ヨーロッパのなかで、“人間でない存在”の活躍ぶりが突出している。これは、どういうことから来ているのだろうか。

(2) 環境と、世界観

イギリスと日本との類似点を探していくところから、そこで生まれる物語の特徴・傾向を見つけていく。

どちらも“雑然とした”自然環境が特徴。人と自然との境目があいまいな自然環境から、人とそれ以外の区別がはっきりしない世界観が生まれるという推測が可能になる。

子どものころからなじんできた世界観が、大人になっても大きな影響を持ち続ける。

伝承物語の典型が、神話であり、しばしば古来から伝わる宗教でもある。それらを根拠に、時には命を奪い合うことにさえなっているのが、現実の社会である。

いくつか、国際紛争から、その実例を挙げる。

伝統や文化が、いけないものではない。しかしながら、それらが争いの原因になることはくい止めなくてはならない。

自分の属するものに、価値を感じて大切にすることは、よい。

往々にしておこなわれる、それと他者とを比較して、優劣・上下をつけること、これが良くない。このことに敏感になり、自分の価値を守ったり高めたりするために他をいやしめたりする悪い意識を持たないようにすることが、世界の諸事情を、歪まない目でまっすぐ見られるようになるために、必要。

一学期は、どのような姿勢で臨むかという、「さまざまな事象の見かた」を勉強した。それを土台にして、二学期は、具体的な事柄を検証していく。

一学期を通じての、授業者のふりかえり：

一学期は、少しずつ自分の意識を広げていくような展開をしていった。

- ・自分自身について
- ・自分と、目の前の人
- ・自分と関わりのあるかもしれない人
- ・遠くの人たちまで自分と結びつけて考える

その過程で、どのように相手を見て、どういう関係を作るかという、人間的な姿勢について考えてきた。その結果が、生徒の一学期末アンケートである。

教師は、こうしたい、こうあるべきだという考えの元に授業の計画を作るものでありながら、実際に生徒に向かったらそれを押しつけないということは、矛盾があるようにも思えるところである。強制はしないけれども誘導してしまいうのであれば、たいして変わりはない。しかし、逆に、生徒がどんな方向へ行こうとかまわないというのでは、教育に目標がないということになってしまう。

自分では、この講座を「平和のための教育」と位置づけているので、無責任に拡散させない方向である。同時に、これは老子的であるが、ある程度広い範囲を視野に入れながら、自然の大きな流れを生徒が感じるようであれば、おおよそおさまるべきあたりに自然におさまっていくのではないかという、ある種の性善説的な期待に基づいている。良い意味で、なるべきようになるようだ、というのが印象である。ラブレーの「ガルガンチュワ物語」では、理想的な学校にある唯一の校則が「やりたいことを、やる」というものだそうである。生徒たちは、ほんとうにいいことを深く考えると、もしくは「深く考える」という習慣を持つことで、自然と良い人間的姿勢を備えていくものなのではないだろうか。教師がよけいな解説をしなくても。

二学期

絵本「世界がもし100人の村だったら」を使い、世界の状況について考える
(第十二回～十五回授業)

一学期は、ステレオタイプ・偏見でゆがんだ考えを持たないようにするという姿勢について勉強した。要点は、自分で深く分析し考えること、他の人の意見をよく聞き理解すること、のふたつであった。(逆に、理解しないで鵜呑みにするのは、最も良くない)

それを生かしながら、二学期は、世界の様々な状況について学ぶ。最初は、2001年にe-mailで話題になった「世界がもし100人の村だったら」を使って、以下のような手順で進める。

<手順>

- (1) 様々な事柄の人口比を、各自で推測してみる。(プリント part1, part 2 を参照)
- (2) みんなの推測を言う。どのくらいばらつきがあるかを知る。ひととおり聞いたところで、その平均を出す。この数字は、日本の人の考えるところの平均ということができるだろう。
- (3) 元の文章を紹介し、実際の数字を確かめる。項目によっては、推測値と大きく違っているだろう。特に差が大きかったものには、注目。
- (4) ひとつひとつの項目について、それがどういう意味を持ち、どんな重要性があるかを考える。
- (5) どの項目について、より詳しく知ることが必要になるかを相談する。その結果選ばれたものを、次回以降の授業で重視して大きく扱う。つまり、二学期の大きな方向を生徒の意志を取り入れて決めるという意味である。

17種類の項目を、数回に分けて、考えていく。

本の中で挙げられている1～16までの項目について、それぞれに設問を用意する。:

第十二・十三回 Part 1 (1-7) 9月5日・12日

(配布プリント)

「世界がもし100人の村だったら」より

Part 1

世界には63億人の
人がいますが
もしそれを
100人の村に縮めると
どうなるでしょう。

<1>

推測値

皆の考えの平均値

100人のうち

() 人が女性です () ()

() 人が男性です () ()

<2>

() 人が子どもで () ()

() 人が大人です () ()

そのうち () 人が
お年寄りです () ()

<3>

() 人が異性愛者で () ()

() 人が同性愛者です () ()

<4>

() 人が有色人種で () ()

() 人が白人です () ()

<5>

() 人がアジア人です () ()

() 人がアフリカ人 () ()

() 人が南北アメリカ人 () ()

() 人がヨーロッパ人 () ()

あとは南太平洋地域の人です

< 6 >

- () 人がキリスト教 () ()
() 人がイスラム教 () ()
() 人がヒンドゥー教 () ()
() 人が仏教を信じています () ()
() 人は、木や石など、すべての自然に
霊魂があると信じています () ()
() 人は、ほかのさまざまな宗教を
信じているか
あるいはなににも信じていません . . () ()

< 7 >

- () 人は中国語をしゃべり () ()
() 人は英語を () ()
() 人はヒンディー語とウルドゥー語を () ()
() 人はスペイン語を () ()
() 人はロシア語を () ()
() 人はアラビア語をしゃべります . . () ()

これでようやく、村人の半分です

あとの半分は

ベンガル語、ポルトガル語

インドネシア語、日本語

ドイツ語、フランス語などを

しゃべります

いろいろな人がいる

この村では

あなたとは違う人を

理解すること

相手があるがままに

受け入れること

そしてなにより

そういうことを知ることが

とても大切です

生徒が、人数を予測した数値 Part 1

ふたつに分けている事柄（1～4番）は、片方のみを尋ねた。100からそれを引いた数字がもう一方の数字と考えればよいと思われたためである。

< 1 >	生徒推測の平均値	本の数値
100人のうち		
() 人が女性です	 (51.4)	 (52)
() 人が男性です	 ()	 (48)
< 2 >		
() 人が子どもで	 (31.8)	 (30)
() 人が大人です	 ()	 (70)
そのうち () 人が お年寄りです	 (25.1)	 (7)
< 3 >		
() 人が異性愛者で	 ()	 (90)
() 人が同性愛者です	 (9.5)	 (10)
< 4 >		
() 人が有色人種で	 (70)	 (70)
() 人が白人です	 ()	 (30)
< 5 >		
() 人がアジア人です	 (30.6)	 (61)
() 人がアフリカ人	 (21.2)	 (13)
() 人が南北アメリカ人	 (22.2)	 (13)
() 人がヨーロッパ人	 (26.7)	 (12)
あとは南太平洋地域の人です		
< 6 >		
() 人がキリスト教	 (26.4)	 (33)
() 人がイスラム教	 (19.0)	 (19)
() 人がヒンドゥー教	 (14.8)	 (13)
() 人が仏教を信じています	 (15.4)	 (6)
() 人は、木や石など、すべての自然に 霊魂があると信じています	 (15.4)	 (5)
() 人は、ほかのさまざまな宗教を		

信じているか

あるいはなにも信じていません ・・(8.7) ・・・(24)

< 7 >

- | | | |
|----------------------|-------------|----------|
| () 人は中国語をしゃべり | ・・・・・(17.4) | ・・・(17) |
| () 人は英語を | ・・・・・(18.4) | ・・・(9) |
| () 人はヒンディー語とウルドゥー語を | (7.8) | ・・・(8) |
| () 人はスペイン語を | ・・・・・(6.9) | ・・・(6) |
| () 人はロシア語を | ・・・・・(5.8) | ・・・(6) |
| () 人はアラビア語をしゃべります | ・・(5.4) | ・・・(4) |

「世界には63億人の 人がいますが も
しそれを 100人の村に縮めると どう
なるでしょう。」という本の中の発問をきっ
かけに、ひとつずつ考察していく。

<1>

100人のうち 52人が女性です 48
人が男性です



問い：これは、男女比の問題。女性の方が、
かなり多いことがわかる。自然な出生率において違いがあるのは確かだが、それ以上に差
が開いている。それはなぜだろうか。生徒に、さまざまな意見を考えて出してもらおう。

参考

男女人口比データ (<http://www.hhs.se/personal/suzuki/o-Japanese/po06.html>)

女性1に対する男性の割合

< OECD >

- 1 トルコ 1.02
- 2 韓国 1.01
- 3 アイスランド 1.00
- 4 オーストラリア 0.99
- 4 ニュージーランド 0.99
- 6 カナダ 0.98
- 6 デンマーク 0.98
- 6 アイルランド 0.98
- 6 オランダ 0.98
- 6 ノルウェー 0.98
- 6 スウェーデン 0.98
- 12 ギリシャ 0.97
- 12 ルクセンブルグ 0.97
- 12 メキシコ 0.97
- 12 スイス 0.97
- 12 イギリス 0.97
- 17 ベルギー 0.96
- 17 ドイツ 0.96
- 17 日本 0.96
- 17 スペイン 0.96
- 17 アメリカ合衆国 0.96
- 22 オーストリア 0.95

22 チェコ共和国 0.95
 22 フィンランド 0.95
 22 フランス 0.95
 22 スロバキア 0.95
 27 イタリア 0.94
 27 ポーランド 0.94
 29 ポルトガル 0.92
 30 ハンガリー 0.91

<アジア>

1 ブルネイ 1.10
 2 中国 1.06
 3 台湾 1.05
 4 韓国 1.01
 4 マレーシア 1.01
 6 インドネシア 1.00
 7 香港 0.99
 7 ミャンマー 0.99
 7 フィリピン 0.99
 10 ラオス 0.98
 11 タイ 0.97
 11 ベトナム 0.97
 13 日本 0.96
 13 シンガポール 0.96
 15 カンボジア 0.94

出典：CIA The World Factbook

<2>

30人が子どもで 70人が大人です そのうち7人が お年寄りです

問い：年齢構成比について。

1) 何歳までが、子どもだろうか？ 何歳からが、お年寄りだろうか？

どんなことを基準に境界線を引いているのか、各自で考える。主観的な基準、客観的な理由、さまざま挙げてもらう。

そのあとで、いろいろな文化のなかでは、それぞれの伝統的な成人の基準があることを紹介する。(時間があれば)

2) 年齢別人口構成比のグラフを数種類用意する。どのグラフがどの国のものか、そのような構成比になっているのはどういう理由によるものかを、推測する。歴史、社会、経済、自然、その他いろいろな要因が考えられるだろう。

< 3 >

90人が異性愛者で 10人が同性愛者です

問い：性的傾向について。これは、現在の日本では、気軽にからかいのネタにされているものでもある。それだけに、ある意味、自分自身が偏見をどう持っているかということを取り返すには適切な課題かもしれない。

生徒へのテーマとして、例えば、

都知事・県知事の候補が、何も言わなかったときを得票率50%として、自分が同性愛者だといった場合、選挙の得票率は何%上下すると推測するかを各自で考えてもらおう。それを平均して、とりあえず今の日本の平均像としておく。その次に、同性愛者であることが犯罪となる社会を例にとりあげる。このあたりは、かなり難しい展開になりかねないが、社会的・法的な問題と、好き嫌いとをきっちり分けないといけない、というところを理解してほしい。

< 4 >

70人が有色人種で 30人が白人です

問い：英語では、"colored" と "white" の二種類に分けることが多い。日本では、白色人種、黒色人種、黄色人種の三種類を思い浮かべる人が多いだろう。Negroid, Caucasoid, Mongoloid, の区分である。

生徒に、この区分けの境目は、どう分かれているのかを尋ねる。この問いは、おそらくかなり難しいだろう。明確な境目など、実はなかったのだということに気がつかせたい。元々おおざっぱに分けただけのものであり、血液型の違い程度に過ぎない。それでありながら、日本でも、国籍や人種を理由にあのスポーツ選手はどうかのこうのと言われたりすることがある。また、外国でも、例えばセム族のイエス・キリストは有色人種なのだが、そういうことを頑として認めない人たちが存在する。偏見の生まれる原因は、かなり人工的なものに過ぎない、ということを理解してほしい。

参考

人種という概念について

1 : (<http://www.let.kumamoto-u.ac.jp/cs/cu/000609race.html>)

人種 (race)

科学的に証明することが絶対にできない人間を区分する分類概念。人種は、(1) 科学的にもはや有効とは言えない概念であり、(2) 社会思想的には常に否定的な意味で想起される必要のある用語である。この2つの考え方に即して説明する。

科学的に有効とはいえない概念としての「人種」

人間の生物学上の類別的概念としては、ブルーメンバッハ（1795）が主張した「→人種の最初の分類の中にすでに人種間の優劣についての言及がある」。これ以降、「人種は生物学的概念であり、民族は文化的概念である」という誤った考え方が定着していった。

人種が生物学的区分であると考えられた理由は、(a) 人種を生物学的な形質から大まかに区分することができるという仮説にもとづいていたり、(b) 人間の「自然な集団」というものがあると前提とする考えかたからでてきた。前者の仮説 (a) は形質の区分はつねに恣意的であり客観的な線引きは生物学上はできないことで否定された。後者の前提 (b) は、生物種 (species) としても亜種 (subspecies) としても「自然な集団」としての人間を生物学的に区分できないことで否定された。

ユネスコは人種に関する2つの宣言（1950,1951）をおこない、人種概念がそれにもとづく差別（人種差別）に乱用されないような説明をおこなったが、これすらも今日では古典的な人種概念の残滓がみられると自然人類学者の中には批判する者もいる（尾本 1997:103）。

否定的な意味で想起される必要のある用語

人種概念は、つねに人種差別思想とセットになって一世紀半以上も西洋思潮を支配し続けたため、人種概念が科学的に無意味であることを認識しても、人種差別思想はすぐには消滅することはない。おまけに、人種差別思想を廃絶することを目的に運動を展開した人類学者の間には「人種は生物学的区分であり、民族は文化的区分」という前提にもとづいて「人種間の優劣は存在しない」という主張をおこなったために、人種＝生物学的な人間の類別的概念という考え方が長いあいだに定着してしまった（今日でも不勉強な研究者は存在する）。

そのため、人種概念の相対化するために、人種差別思想と分けることのできない人種概念（科学史における人種概念）が、どのように歴史的に社会的に構築されてきたのかという研究が進んできている。もっともこの種の研究は、今日的では科学的に誤った概念の使い方を探し出し、その論理構築の誤りを指摘するという、科学史における勝利者史観とよばれる結論の論点先取的議論になりがちである。人種差別思想という誤ったものがなぜ支配的であったのか、それが恐ろしい力をもちうるだけの「常識」でありつづけたのかという説得力のある主張は、それほど多くは登場していない。

また、人種は混交するゆえに「混交は本当は素晴らしいんだ！」という表面的な異種混交をやみくもに肯定する議論も、人種差別思想における境界を前提にした対抗的思潮という点では論理的には単純な議論である。異種混交肯定の立場から反人種論について議論する際には、なぜそれがつねにマイナー位置しかとり得なかったのかという考察や証明が不可欠である。

人種差別思想とそれがもたらした社会的帰結が、近代の生んだ最も忌まわしいものであるという認識に立つならば、人種概念は否定的な意味でつねに我々が想起する必要のある思潮であることに変わりはない。

2 : (<http://www.asahi-net.or.jp/~dn8k-tkm/japan2-5.html>)

人種・民族構成 「日本には民族問題はないのですか？」

「民族問題」や「人種問題」の存在しない国はほとんどといっていいほどありません。

コソボ、ボスニア、パレスチナ、北アイルランド、バスク、チェチェン、チベット、ウイグル、クルド、東チモール……。世界には深刻で日常的な人種・民族問題が遍在しています。多数派による少数派の差別や弾圧、少数派によるテロははともすると際限なくエスカレートし、ついには大規模な虐殺や内戦がおこってしまうこともあります。

その一方で、多人種・多民族の共生が、文化を豊かにし、経済社会の活力をつくり出すというのも今や常識といっているでしょう。「単一民族国家」を力づくで創出しようとし「民族浄化」という名の大虐殺を推進したボスニアそしてコソボの悲劇は、逆に多民族国家の重要性を証明するとも言えます。

ボスニアやコソボほど悲惨ではないにせよ、日本にも、まぎれもない民族問題があります。「民族」という概念枠にはあてはまらなくても、多数派による少数派への差別や偏見があります。韓国・朝鮮人や台湾・中国人を中心とする在日外国人、アイヌあるいは被差別部落の問題はその典型でしょう。最近では、日本に出稼ぎに来る「ニューカマー」と呼ばれる外国人や日系人に対する差別の問題があります。

マイノリティーの人々やかれらを支援する人々の努力によって、法制度の改善や教育・マスコミにおける啓蒙活動は徐々に進展してきました。その結果、露骨な差別が顕在化することは以前より少なくなってきましたし、人々の意識もずいぶん変わってきたように見受けられます。

しかし、家探しに始まり、就職、結婚、学校などの様々な局面で差別の解消にはまだ道は遠いともいえるでしょう。日本社会に遍在する「平等志向」が、マイノリティーの人々をも包含するようなふところの広いものになれるかどうかは今後重要となるでしょう。日本社会の「平等志向」が「同質性へのこだわり」に転化してしまうと、「同化の強制」や「異質の排除」といった「いじめ」に直結してしまいます。

ついでにいえば日本は「単一民族国家」であるというような幻想は、ほんとうのところ過去も現在もほとんどの日本人はもっていなかったと思います。この幻想は、多民族国家であった「大日本帝国」の滅亡後、ごく数十年の間に形成されたとく新しいフィクションであったともいえるでしょう。

3 : http://www2s.biglobe.ne.jp/~t_tajima/nenpyo-1/se-0-7.htm

人種 race とは、人類を、体格、皮膚の色、毛髪などの遺伝する身体的特徴をもとに、ある意味で統計的な手法により分類した概念である。

現在生きている人類の学名は、「脊椎動物門・哺乳綱・霊長目・ヒト科・ヒト属・サピエンス種・Homo sapiens」で、現在の人類はすべて生物学上の同一の種に属している。したがって、人種とは、同一の種である人類をさらに細かい集団に分類したものである。人類学者の間では「人類を人種に分類する生物学的根拠はない」とする意見が一般的となってきた。

< 5 >

61人がアジア人です 13人がアフリカ人 13人が南北アメリカ人
12人がヨーロッパ人 あとは南太平洋地域の人です

問い：地域と、人口比。白地図を配って、アジアはどこを指すのか、などといった線引きを各自でやってみる。アフリカ・ヨーロッパ・アジアの境目はどこか、などということは、それほど意識しないでなんとなく言葉を使っているものである。

人種という区分け、地域という区分けは、案外いいかげんで境界がはっきりしていないという事実を意識させたい。

一学期の最初に、「・・・人」という区分けのしかたについて考えたことを思い出す。それが、特に普遍性のあるものではなく、人工的でその時代の都合にあわせて作ったという面があり、それでありながら、その区分けを権威あるものと宣伝し、それを根拠に紛争を起こしたり、差別や偏見を生み出したりしている。

一時的・恣意的なものと、そうでないことを整理して理解することは大切である。

* 統計について

教室の雰囲気を見て、統計というものの性質についても、少し触れておいた方がよいと判断されれば、話をしておく。

例えば、人口の調査など、どのくらい正確な数字を把握できるものなのかは、かなりあやしい。以前訪れたバングラデシュでは、稲作地帯で人口移動が少ないにもかかわらず、一回の調査に10年はかかるとのことであった。移動が激しい地域、政情不安定な国々など、調査そのものがおこなわれず、単なる推測値がひとたび何かに使われて発表されると、それが5年、10年と引用され続けていることもある。

さらには、自己申告による事柄はもっと揺れが大きくなる。民族などは、しばしば自分で選べるものである。(両親が別々の集団に属するとされる場合のように) 性的な問題は、更に本人の申し出しだい、調査のしかたしだい、と言える。統計もまた、絶対的なものではないということは知っておいた方がいいだろう。

< 6 >

33人がキリスト教 19人がイスラム教 13人がヒンドゥー教
6人が仏教を信じています
5人は、木や石など、すべての自然に靈魂があると信じています
24人は、ほかのさまざまな宗教を信じているか、あるいはなにも信じていません

問い：世界の紛争地図を見せる。そこで、発問。「宗教は、相容れないものなのだろうか？

どれかひとつが残り、他が減びるまで、争い続けるものなのだろうか？」

国際的なものだけでなく、例えばオウム真理教の事件も、みずからを高く、他を低く見るという上下関係を心の中に作ることが背景にあるという点では、同様である。宗教の悪用といえるだろう。ある程度は宗教問題を理解できることは、国際的な動向を考える際には必要なものである。

<6>の発問 「宗教は相容れられないものなのか？」に対する生徒の考え

- ・それぞれの宗教には、異なった価値観や信じるものの違いがあるので互いに受け入れられるというのは難しいと思う。
- ・ムリ。唯一神を唱えてる宗教とかあるし、信じるものが違う。
- ・受け入れられない。自分の信じている宗教が一番と考えていると思うから。私は、どの宗教もあんまり信じてないし、よくわからないけど、クリスマスもやるし、お正月もやるし、日本は相容れてる？
- ・やっぱそれぞれ信じているものが違うから、簡単には仲良くなれないと思う。
- ・無理だと思う。自分の宗教がぜったい正しいと思っているから、他の宗教を受け入れるのは無理。
- ・宗教によってものの価値や考え方が違うから、相手の考えを受け入れることはむずかしいと思う。考え方がバラバラだと何が良くて正しいのかさだまらず、お互いが理解できないので、宗教的な問題で紛争がおこってしまうと思います。宗教がみな統一していれば、少しは考えのずれがあってもその考えも考えてして受け入れるだろうと思う。

黒板に、生徒が考えた数字の平均を
電卓で計算して、書いていく。
日本の10代が考える平均値とも
考えられるだろう。



<7>

17人は中国語をしゃべり 9人は英語を 8人はヒンディー語とウルドゥー語を
6人はスペイン語を 6人はロシア語を 4人はアラビア語をしゃべります
これでようやく、村人の半分です
あとの半分は ベンガル語、ポルトガル語、インドネシア語、日本語、ドイツ語、
フランス語などをしゃべります

問い：言語について。

1) 国際連合で「公用語」とされている言語は？

- ・アラビア語 ・中国語 ・英語 ・フランス語
- ・ロシア語 ・スペイン語

2) 世界中には、いくつくらいの言語があるだろうか？

約6,500

3) そのうち、文字を持っている言語は、いくつくらいだろうか？

Windows XP では、135の文字に対応している。 (2005年現在)

言語 (http://www.geocities.jp/p451640/moji/etc/hjm_01.html)

◆世界には、3500をこえる言葉があるそうです。そして、それらの言葉の中には、それを書き表すための文字をもっているものがあります。言葉の数からすると、話し言葉だけで文字がない言葉が一番多いのですが、それでも世界には200をこえる種類の文字があるそうです。(この数字には、今は使われなくなった昔の文字も含みます)特に、アジア各地の言葉の多くが、独自の文字をもっています。

◆世界の文字は、それぞれに特徴のあるいろいろな形をしていますが、その仕組みや書き方もいろいろです。日本語の文字は、たて書きにも横書きにもしますが、世界の中には、英語のアルファベットのように横書きにしかしないものもあれば、モンゴル文字のようにたて書きにしかしないものもあります。また、同じ横書きといっても、アルファベットのように左から右に書くものだけでなく、アラビア文字やヘブライ文字のように逆に右から左へ書くものもあります。

◆また、今、世界で使われている文字のほとんどは、日本語のカナのように、文字そのものには意味がなく音だけを表す表音文字ですが(ほとんど唯一、日本語や中国語の漢字だけが、文字一字一字が意味も表す表意文字です。)、その表音文字の中では、ローマ字のように母音(a i u e o)と子音(k s t n hなど)を組み合わせるという仕組みのものが多くて、カナのように母音と子音の組み合わせをすべて一文字にしたものは、めずらしいようです。中には、インドのデーバナーガリー文字のように、ローマ字とカナの中間のような仕組みの文字もあります。

◆こうして、いくつかの文字を見ただけでも、世界は本当にいろいろなんだということを感じます。本当は世界中を旅行して、世界中の人と話をしたり、遊んだりできると楽しいのですが、なかなかそうもいきません。でも、世界の文字で遊んでみれば、ちょっとした世界旅行気分になれるかもしれません。そこで、これから世界各地の特徴ある代表的な文字をいくつか選んで、遊んでみることにしましょう。

いろいろな人がいる この村では あなたとは違う人を 理解すること
相手があるがままに 受け入れること
そしてなにより そういうことを知ることが とても大切です

(配布プリント)

2002年9月5日

<1> 差の理由を推測しよう。

自分の推測：

他の人の意見：

<2>

1) 自分の考えでは、() 歳までが子ども (理由)

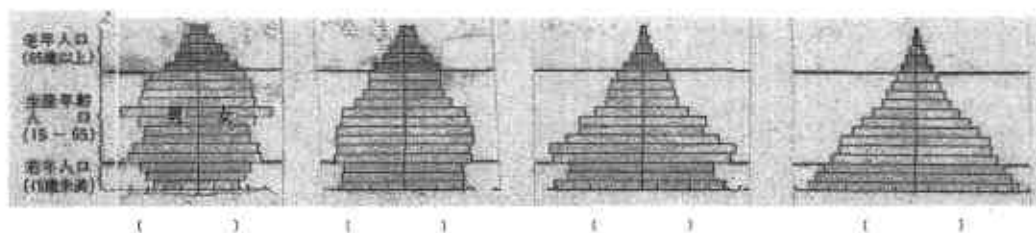
() 歳からがお年寄り (理由)

2)

－ 4カ国の年齢別人口構成 －

このグラフは、ブラジル、中国、日本、オーストラリアの4カ国の人口構成です。

どのグラフが、どの国のものでしょうか。()の中に、国名を書きましょう。



<それぞれのグラフの特徴>

< 3 >

自分の推測：

50% → () %くらいに変わる

そう考える根拠：

< 4 >

境界線は、どういうことを基準に決めているのだろうか？

自分の考え・

他の意見

基準についての、意見

< 5 > アジア・オセアニア・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ、それぞれの境目に、線を引いてみよう。



< 6 >

課題：

自分の考え、理由

他の意見、理由

< 7 >

1) (言語名を挙げよう)

2) 自分の推測値 _____ . . . ()

3) 自分の推測値 _____ . . . ()

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. <1>～<7>のテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。

ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

第十二回 (9月5日)

1. 今日ののテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。
ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。 <1>~<7>

- ・ 6) 心境により考え方が大きく異なってくるから。
- ・ 3) 興味があるってワケじゃないけど、簡単に理解できるものじゃないから、理解できるならしたい。
- ・ 7) なんで世界に人々は別の言葉を話すようになったのか？が気になるから。
- ・ 5) どこからどこまでがアジア人なのか、ヨーロッパ人なのか、それぞれどのような違いがあるのかを詳しく知りたいと思いました。
- ・ 1) 4) 興味があったから。
- ・ ふつうに好きな本よんだりしたい。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・ 平均寿命が30代の国もあるなんて、日本がどれだけぜいたくしているかをあらためて知った。有色人種などはたぶん欧米人(白)などが差別をするためにつけたのだと思う。あくまで推測だが。
- ・ 世界を100人で考えるとわかりやすいし、世界が身近に見れている感じがした。
- ・ 白人と有色人種の違いは顔を見ればわかることだけど説明するには境界線があまりないからむずかしい。白い人と書いて白人だけど色の黒い人もいる。やっぱり顔立ちでしょうか。白人なら目のほりが深く鼻が高い。
- ・ 「100人の村だったら」で、世界の状態がなんとなくで、分かった。ただ、ほんとにその数値で当たっているのかが微妙だと思った。簡単に調べられるものじゃないと思うから。
- ・ 日本史が知らないし、こんなことを考えてみたりしたことがないからむずかしかった。有色人種と白人との区別は考えて手もあんまり見つからなくて、この数字は何で表しているんだろうと思った。
- ・ 「人種というものに科学的な境目がない」のに人間はムダに他の人を傷つけたりしているということ。
- ・ 自分の考えが回りと違ってることが多くてビックリした。人それぞれのものの考えの違いがあるということに印象が残りました。
- ・ 「世界がもし100人の村だったら」で自分が推測したものと大きく違うものがあったので驚いた。
- ・ 世界にはいろんな人がいるんだなと思った。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（10）自分の考えをはっきり言ったと思う。これは僕の長所でもあると思うのでこれからがんばろう。
- ・（10）すべて聞いていたから。
- ・（8）なぜ女性の方が多いのかと言われてもよくわかりませんでした。（人口）お年寄りといっても貧しい国では37歳くらいで一生を終えてしまう人がいるとは知りませんでした。
- ・（8）少し眠かった。だけど、数字を考えるときはいっぱい頭使ってた。
- ・（3）全然わかんなくて、だいたいがこんきょのない考えで予想したから。
- ・（7）ちょっと眠ってしまいましたので・・・
- ・（9）自分の意見のwをはっきり言うことができました。とても楽しかったです。
- ・（7）授業に参加できた。意見が言えた。
- ・（8）できた。でもちょっとねちゃった。

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（7）よかったけど最後までできなかったという点は・・・ もう少し時間にゆとりのあるようにしてほしい。
- ・（8）国のことならちゃんと国名を言ってほしいと思った。
- ・人口が減りつつある日本だけど、その一方で爆発的に人口が増えている。このままでは地球はどうなってしまうのでしょうか。
- ・（8）本がおもしろいから。
- ・（8）みんなで、意見を出し合うのは楽しいです。
- ・（9）もう少し考える時間が欲しいと思いました。
- ・（8）世界を100人という単位で見ると面白かった。

1. 今日ののテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。

ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

- ・食糧の問題。
- ・6) 宗教の問題はとても難しいと思ったので、もう少し詳しく紛争などの話を聞きたかったです。
- ・6) 宗教の違いとかをもっとやりたいと思いました。
- ・栄養が充分でないこと。
- ・言葉について。理解するには話すことがいいから。
- ・6) 宗教問題はこれからも重要だから。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・栄養が十分じゃない人がいっぱいいて、日本はすごくめぐまれてるんだと思った。
- ・地域、宗教などの区別について。
- ・日本人の考えが、まだ世界に向いていないと思いました。もう少し世界の状況とかを見ればいいと考えられました。
- ・世界の状況を知って、日本は平和な国なんだなと思いました。
- ・私は宗教とかあんまり信じてないけど、日本では、クリスマスもあるし、お正月もあるし、両方を楽しんでる気がする。言葉はこんなにたくさんあって、文字はこんなに少ないと言うことを知って驚いた。
- ・私は必ず話をするには一つ一つの言葉、言語があるのだから、文字も当然あるものだと思っていた。6500の言葉に対して文字があるのが28しかない。日本にいるとあたりまえのことがあたりまえじゃない。勉強できない国もあるし。
- ・英語をしゃべる人がけっこう少ないこと。
- ・言語の多さにびっくりした。食不足の人は意外と少なかったが、食料は十分にあるのでなんとかしなきゃいけない。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

- ・(7) つかれてたからちゃんとやってない。
- ・(8) 意見が言えた。
- ・(9) 自分の考えをしっかりと持つことができました。
- ・(8) 眠かったです・・・
- ・(5)

・(9) 宗教問題について。宗教という部に所属していると考えも統一されてしまう。それが人間との間をもっと複雑にしているかもしれない。

・(10) よく考えたと思う。

・(9) 眠さに耐えてがんばった。

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点 (10点満点で)

理由：

・(9) 様々な問題について考えることができた。自分の予想とは全然違う数字がでてきて驚いた。

・(10) 少し難しかったけど勉強になりました。

・(8) とても興味深く、いいと思います。

・(9)

・(9) わけがわからないことをこたえさせようとする。

・(9) 問題はないが使うプリントが多くてゴチャゴチャしてた。

第十四・十五回 Part 2 9月19日・10月10日

(配布プリント)

Part 2

また、こんなふうにも 考えてみてください

<8>

村に住む人びとの100人のうち

() 人は栄養がじゅうぶんではなく.....()

() 人は死にそうなほどです.....()

でも() 人は太りすぎです.....()

<9>

すべての富のうち

() 人が59%をもっていて.....()

みんなアメリカ合衆国の人です

() 人が39%を.....()

() 人が、たったの2%を.....()

分けあっています

<10>

すべてのエネルギーのうち

() 人が80%を使い.....()

() 人が20%を分けあっています.....()

<11>

() 人は食べ物の蓄えがあり.....()

雨露をしのぐところがあります

でも、あとの() 人は.....()

そうではありません

() 人は、きれいで安全な水を.....()

飲みません

<12>

銀行に預金があり

財布にお金があり

家のどこかに小銭が転がっている人は

一番豊かな() 人のうちの1人です.....()

< 1 3 >

自分の車を

もっている人は

() 人のうち

.....()

1人です

< 1 4 >

村人のうち

() 人が大学の教育を受け

.....()

() 人がコンピューターを

.....()

もっています

けれど、

() 人は文字が読めません

.....()

< 1 5 >

もしもあなたが

いやがらせや逮捕や拷問や死を恐れずに

信仰や信条、良心に従って

なにかをし、ものが言えるなら

そうではない () 人より恵まれています.....()

< 1 6 >

もしもあなたが

空爆や襲撃や地雷による殺戮や

武装集団のレイプや拉致に

おびえていなければ

そうではない () 人より

.....()

恵まれています

一年の間に、村では

1人が亡くなります

でも、1年に2人

赤ちゃんが生まれるので

来年、村人は

101人になります

もしもこのメールを読めたなら、
この瞬間、あなたの幸せは
2倍にも3倍にもなります
なぜならあなたは
あなたのことを思って
これを送った
誰かがいるだけでなく
文字も読めるからです

けれどもなにより
あなたは
生きているからです

昔の人は言いました
巡り往くもの、
また巡り還る、と

だからあなたは、
深ぶかと歌ってください
のびやかに踊ってください
心をこめて生きてください
たとえあなたが、傷ついていても
傷ついたことなどないかのように
愛してください

まずあなたが
愛してください
あなた自身と、人が
この村に生きてある
ということを

もしもたくさんのわたし・たちが
この村を愛することを知ったなら
まだ間にあいます
人びとを引き裂いている非道な力から
この村を救えます
きっと

生徒が、人数を予測した数値 Part 2

< 9 > < 1 0 > の空欄は、他を聞いたので 1 0 0 からそれを引けば数字が現れると考えられるため。

< 8 >	生徒推測の平均値	本の数値
村に住む人びとの 1 0 0 人のうち		
() 人は栄養がじゅうぶんではなく	 (55.5)	... (20)
() 人は死にそうなほどです	 (20.1)	... (1)
でも () 人は太りすぎです	 (17.6)	... (15)
< 9 >		
すべての富のうち		
() 人が 5 9 % をもっていて	 (18)	... (6)
みんなアメリカ合衆国の人です		
() 人が 3 9 % を	 ()	... (74)
() 人が、たったの 2 % を	 (39)	... (20)
分けあっています		
< 1 0 >		
すべてのエネルギーのうち		
() 人が 8 0 % を使い	 (43)	... (20)
() 人が 2 0 % を分けあっています	 ()	... (80)
< 1 1 >		
() 人は食べ物の蓄えがあり	 (35)	... (75)
雨露をしのぐところがあります		
でも、あとの () 人は	 (65)	... (25)
そうではありません		
() 人は、きれいで安全な水を	 (34)	... (17)
飲めません		
< 1 2 >		
銀行に預金があり		
財布にお金があり		
家のどこかに小銭が転がっている人は		
一番豊かな () 人のうちの 1 人です	 (19)	... (8)
< 1 3 >		

自分の車を

もっている人は

() 人のうち (13.5) . . . (7)

1人です

< 1 4 >

村人のうち

() 人が大学の教育を受け (13) . . . (1)

() 人がコンピューターを (11) . . . (2)

もっています

けれど、

() 人は文字が読めません (29) . . . (14)

< 1 5 >

もしもあなたが

いやがらせや逮捕や拷問や死を恐れずに

信仰や信条、良心に従って

なにかをし、ものが言えるなら

そうではない () 人より恵まれています (51) . . . (48)

< 1 6 >

もしもあなたが

空爆や襲撃や地雷による殺戮や

武装集団のレイプや拉致に

おびえていなければ

そうではない () 人より (32) (20)

恵まれています

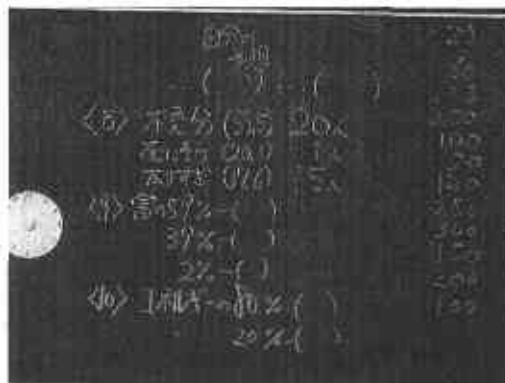
< 8 >

村に住む人びとの100人のうち 20人は栄養がじゅうぶんではなく
1人は死にそうなほどです でも15人は太りすぎです

問い：食料問題、特に不均衡について

1) 世界の食糧生産は、不足しているのでしょうか? ... No

つまり、100人の村には、100人ぶんの食料はあるのか、ないのか、ということ。無いのであれば、解決すべき問題は、食料生産を増やすことに他ならない。しかし、現実には、あるのに行き渡っていないことなので、どう分けあうかが重要なテーマであることに意識を向ける。



2) 栄養不足のほとんどは、女性と子どもです。なぜだと思いますか?

まずは、なぜ女性と子どもが栄養不足になってしまうのかについて、考えてみる。この解答はひとつではないし、地域や社会状況で異なる。生徒が、いろいろな理由を推測してみることで自体が目的。

3) 飢えで命を落とす子どもの数は、どのくらいの時間にひとりの割合でしょうか? ...
・ 7秒にひとり

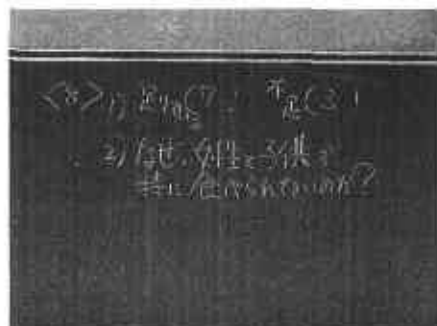
最初に数字の予測をさせてから、答えを発表。次に、どのくらいの時間でひとりが亡くなるのかを、生徒が見ている前で、計算する。

1年 = 365日 × 24時間 × 60分 × 60秒 = 31,536,000秒

31,536,000秒 ÷ 7 = 4,505,142人

単に大きな数字をいわれて終わりにするよりも、目の前で計算していくと、その数字の大きさが実感できるだろう。各自が実感できる7秒という時間で、ひとりが飢えで亡くなっていることを感じ取ってほしい。

ここでは、WFP (World Food Programme 国連世界食糧計画) が作成した「ハンガー・マップ」を使用した。



< 9 >

すべての富のうち 6人が59%をもっていて みんなアメリカ合衆国の人です

74人が39%を 20人が、たったの2%を 分けあっています

問い：前の食料配分に続く、富の配分について。

時計の文字盤を見ながら、円グラフにしてみる。20人が暮らす2%とは、時計でいえば1分12秒ぶんにあたる。

ここで、「自分がこの貧しい20人のうちのひとりだとします。50%の6人に対して、どんなことを考えるでしょうか？」

アメリカ合衆国は、世界最大の援助国でもある。それでいながら、いろいろな非難の対象になっている。その理由の一端が、この数字に表れているといえるだろう。

では、なぜ、アメリカ合衆国が巨大になっていったのか。さまざまな理由付けはできるが、一般的には、長い間自国内が戦場にならなかったからということには欠かせない。その目で貧困地域を見ると、それは紛争地域とかなり重なっていることに気づく。

<10>

すべてのエネルギーのうち 20人が80%を使い
80人が20%を分けあっています

問い：

「エネルギー資源といって、思い出すものは何ですか？」

石油、石炭、天然ガス、水力、原子力、風力、太陽光発電 など。

それぞれの比率を、黒板に書く。

どんなものを使っているかということと別に、使いすぎの問題も重要。

「世の中で、大規模な無駄遣いと思われるものを、挙げてみましょう？」

これも、ひとつの正解がある問題ではない。いろいろ出ると興味深いだろう。

自分個人としては、軍事予算が含まれるといたいところ。

<11>

75人は食べ物の蓄えがあり 雨露をしのぐところがあります

でも、あとの25人は そうではありません

17人は、きれいで安全な水を 飲めません

問い：保険・衛生問題。

「雨露をしのぐところがないと、どんな問題が出てくるのでしょうか？」

食料など蓄えることはできない。水に濡れる状況は、衛生状態の悪さでもある。病気の問題は、すぐに発生する。

きれいで安全な水が手に入らないとは、どういうことだろうかを考えると、昔からそうだった場合と、近年になって汚染でそうってしまった場合とがあることに気づく。そこで、ふたつの質問を考えてみる。

「水が汚れていると困ることをなるべく多く考え出しましょう。

「水が足りないと困ることをなるべく多く考え出しましょう。

生死に直結することとして、下痢の問題がある。日本などではちょっと理解しにくいの

だが、乳幼児の死因で最大のものが、下痢による脱水である。下痢対策に、経口保水液の作り方と、それを普及させる教育のふたつのことに言及しておきたい。



< 1 2 >

銀行に預金があり 財布にお金があり 家のどこかに小銭が転がっている人は 一番豊かな8人のうちの1人です

< 1 3 >

自分の車を もっている人は 7人のうち 1人です

問い：< 1 2 >は個人貯蓄。< 1 3 >は所有物。どちらも、財産。

貯蓄、つまり使う予定のないお金がある人は、100人のなかで8人しかいない。生徒に、「貯金している人は？」

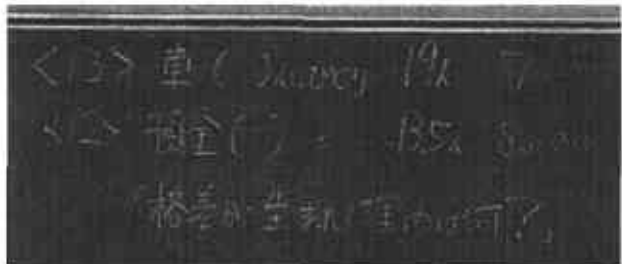
と尋ねてみる。しているならば、お金持ちの8人にはいつている。

貯めておかないと買えないものは、身の回りにたくさんある。つまり、それらを持っている人は、100人に8人くらいだということになるだろう。

「自分の家に、車がある人は？」と尋ねる。ある、と答える人が多いだろう。

「日本では、車を持っているのが、特別めずらしくはありません。でも、< 9 >を見てください。2%を分けあっている20人には、車を持つことは難しいでしょう。このような、所得・財産の格差が生まれるのは、なぜでしょうか？」

これも、ひとつの答えではない問題。たくさん考えが出てほしい。



< 1 4 >

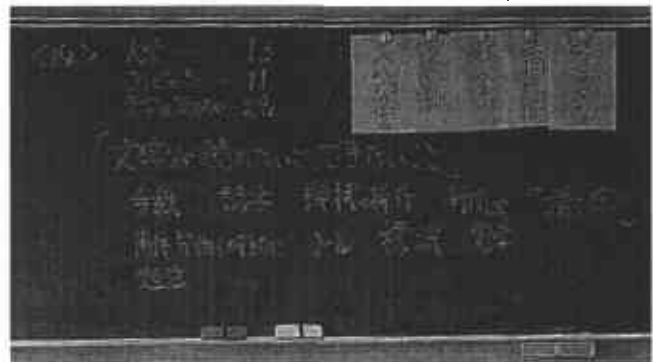
村人のうち 1人が大学の教育を受け 2人がコンピューターを もっていますが、14人は文字が読めません

問い：教育。

前の項目で、貧富の差について触れた。お金があると、教育を受けることができ職業で有利になり、多くの情報を手に入れることもできる。お金がないと、教育を受ける機会が減り、ますます不利になる。つまり、

放っておくと、格差は拡大してしまう。これをそのままにしておくか、それとも不公平として是正しようとするか、それが我々に問われている。

教育が受けられないときの具体例として、識字が挙げられているのに基づいて、「もし、



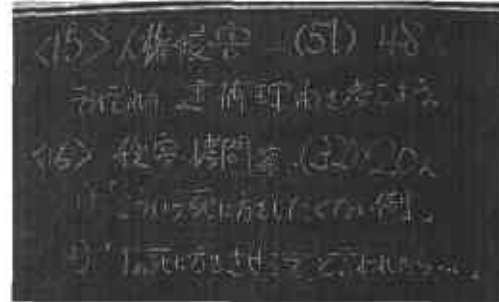
自分に文字が読めなかったら、できないことを挙げましょう。」と問いかける。自分の日常では当たり前と思っていたことが、いろいろできないことに気づいてほしい。

<15>

もしもあなたが いやがらせや逮捕や拷問や死を恐れずに 信仰や信条、良心に従って
なにかをし、ものが言えるなら そうではない48人より恵まれています

問い：人権。

48人は、何かをしたりしゃべったりすると、
逮捕・拷問・死につながるということ。何をすると逮捕されるのかについての、具体的な例がないと、生徒には想像ができてにくいと思われる。



1)「以下の文は、いずれも逮捕された例です。どういう理由で逮捕したのか考えましょう。」

- (1) 丘の上から、港の絵を描いていた。
- (2) 手持ちのノートパソコンから、ファックスを送った。
- (3) 友達が6人集まって、自分のうちで夕食を一緒に食べた。
- (4) ある子どものお父さんが、外国へ行った。(逮捕されたのは、子ども)
- (5) 飲み屋で、友達と「自由に乾杯！」と言ってビールを飲んだ。
- (6) 家に帰るのが、夜7時を過ぎた。
- (7) 飛行機から、外の景色を写真に撮った。

全員が全部を考えると負担がかかりすぎるので、ふたりでひとつずつ、分担する。どれも、生徒が「なんなんだ、これは？」と目を白黒させるはず。

もちろん、これらは極端な例だが、ひどくなればここまで有り得るということのも知ること
で、ここまではひどくないにしても、「いつ、何で逮捕されるか、わからない」という怖い
思いにびくびくしながら暮らしている人たちが100人のうち48人いる現状について、
考える。

2)「上記の(1)～(7)のような、倫理・道徳的に悪いと言えないことで、逮捕するのは、逮捕する側はどういう効果をねらっているのでしょうか？」

今の高校生に、“不条理”という言葉はあまり通じないかもしれない。どのような言葉を使うにしろ、人としての善悪とは別のところで決められてしまうのは、えもいわれぬ恐怖であるだろう。一時間後の自分がどうなっているかわからないのだから。

< 16 >

もしもあなたが 空爆や襲撃や地雷による殺戮や 武装集団のレイプや拉致におびえていなければ そうではない20人より 恵まれています

問い：平和。

人権侵害の典型が、“理不尽な死”であろう。

問い：

1)「自分はこういう死に方をしたくない、という例を考えましょう。」

ひとつとおり聞いてから、次の問いへ。

2)「その死に方をさせるぞと威されたら、以下の事柄を、あなたは我慢しますか？」

- (1) お金を全部持っていかれる。
- (2) 砂漠の真ん中に置いていかれる。
- (3) 仕事を失う。
- (4) 町の真ん中に裸で放り出される。
- (5) 家を燃やされる。
- (6) 自分の子どもを連れていかれる。

人権侵害というのは、ひとりだけにおこなうことでも、自分にも同じことがあるかもしれないと感じさせる効果がある。つまり、実際の被害者が少数に見えても、恐怖の中で暮らす人々はたいへんに多いのだということを理解してもらう。

< 17 >

一年の間に、村では 1人が亡くなります

でも、1年に2人 赤ちゃんが生まれるので 来年、村人は 101人になります

問い：人口。

(配布プリント)

< 8 >

1) 不足しているか・・・ Yes / No

2) 自分の考え

他の意見

3) () にひとり

< 9 >

自分の考えそうなこと：

他の意見で自分には興味深かったもの：

< 10 >

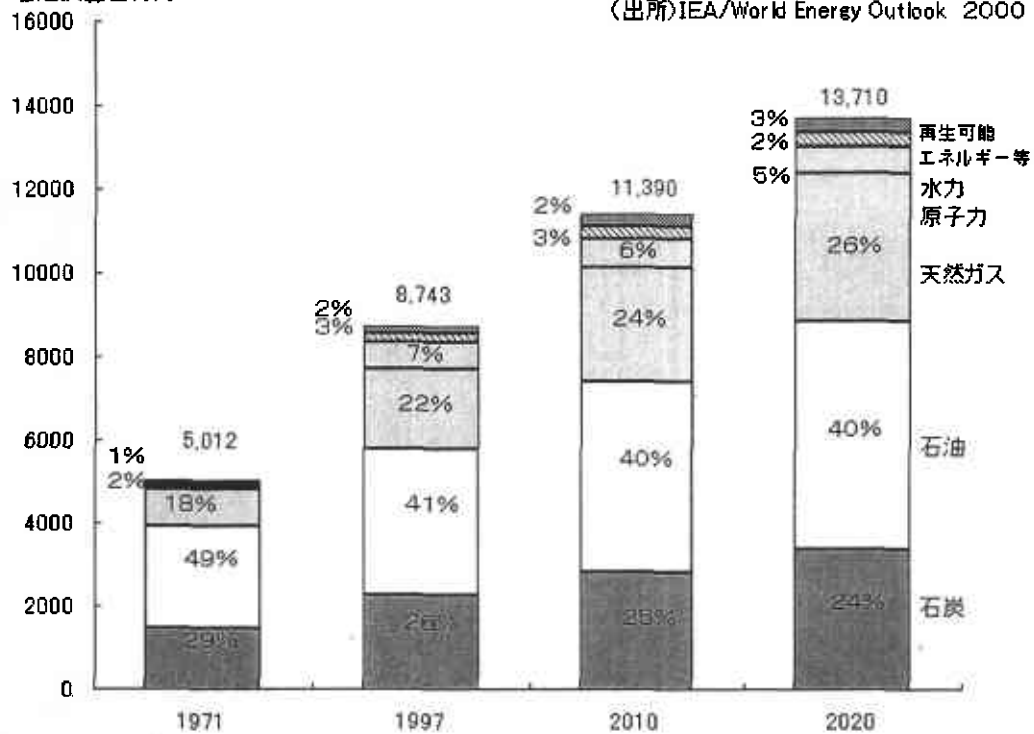
1) 資源：

2) 自分の考え

他の意見

石油換算百万トン

(出所)IEA/World Energy Outlook 2000



< 1 1 >

1) 発生する問題

自分の考え:

他の意見:

2) 汚れていると・・・

3) 足りないと・・・

< 1 2 > ・ < 1 3 >

原因

自分の考え

他の意見

< 1 4 >

できないこと

自分の考え

他の意見

< 15 >

1) 「以下は、いずれも、逮捕された例です。何が悪いとされたのか考えましょう。」

- (1) 丘の上から、港の絵を描いていた。
- (2) 手持ちのノートパソコンから、ファックスを送った。
- (3) 友達が6人集まって、自分のうちで夕食を一緒に食べた。
- (4) ある子どものお父さんが、外国へ行った。(逮捕されたのは、子ども)
- (5) 飲み屋で、友達と「自由に乾杯！」と言ってビールを飲んだ。
- (6) 家に帰るのが、夜7時を過ぎた。
- (7) 飛行機から、外の景色を写真に撮った。

2) 「上記の(1)～(7)のような、倫理・道徳的に悪いと言えないことで、逮捕するのは、逮捕する側はどういう効果をねらっているのでしょうか？」

< 16 >

1) 「自分はこういう死に方をしたくない、という例を考えましょう。」

2) 「その死に方をさせるぞと威されたら、以下の事柄を、あなたは我慢しますか？」

- (1) お金を全部持っていかれる。 (我慢 する / しない)
- (2) 砂漠の真ん中に置いていかれる。 (我慢 する / しない)
- (3) 仕事を失う。 (我慢 する / しない)
- (4) 町の真ん中に裸で放り出される。 (我慢 する / しない)
- (5) 家を燃やされる。 (我慢 する / しない)
- (6) 自分の子どもを連れていかれる。 (我慢 する / しない)

<生徒のコメント>

第十四回 (9月19日)

<今日のふりかえり>

1. 今日ののテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。
ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

- ・ 飢えで子供が7秒に1人死んでること。世界的には食糧不足ではないのに、なんでこれだけの差があるのか。
- ・ 14) 日本ではふつうにできるコトが世界ではできないみたいだから。日本の豊かさを知るためにも・・・
- ・ 世界の無駄遣いについて。現実を知ることが一番必要だから。
- ・ 9) なんで、59%も持っている人は、2%の人に分けないのか。どうしてこんなに差がでるのか知りたいから。
- ・ 11) いつも自分達のくらしで比較してしまうので、回りの国が今、どんな状態なのかを少し詳しくやりたいです。
- ・ 富の格差の問題。どうしてそうなるのか具体的に知りたいと思ったから。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・ 水が汚れているだけで、グリになるだけで子供が死ぬなんてびっくりした。世界で考えていかなければならない問題だと思う。
- ・ 今日の授業全体を通して考えると、自分は恵まれているんだなあと思いました。
- ・ 言葉の数がすごく多いのに文字にするとすごく少ないのがびっくりした。
- ・ 水を私たちはいつもきれいなものを口にしてるけど、それがあたりまえにできない所もいくらだってある。公園など公共でお金も払わないで飲めるのは日本ぐらい(税金でつくったものだけと)。
- ・ 日本では預金をしていて車を持っている、というのは別に特別なことではないけど、世界を見ると、私達は8人に1人が集まっているということにびっくりした。
- ・ 7秒で1人の子供が飢えによって死んでいることにビックリしました。病気や老人を足すともっと大勢の人が次々になくなっていくのかな?と深く考えてしまいます。
- ・ 世界では、様々な物に大小の格差がついてしまうこと。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか? 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点: ____点 (10点満点で)

理由:

・(10) 今日は少し難しい質問もあったが、自分ならではの答えを発表することができた。

・(5) 途中から授業に参加したから。

・(6) 眠かった。でも、考えてた。

・(9) 7秒に1人が死んでいるという実態を知って本当にびっくりしました。増えて減ってとめまぐるしく変わる。今日まで。環境のことを考えるといろいろ大変だと思いました。

・(8) 自分の意見が少しだけ言えました。

・(7) 意見が言えた。

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：___点（10点満点で）

理由：

・(9) 時間が中途

・(8) 特に問題はないと思う。

・(8) 本を使うのは良いと思う！

・(9)

・(10) もっともっと考えていきたいことばかりです。

・(9)

第十五回 (10月10日) 次回以降の授業内容アンケートを含むもの

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. 九月からの授業で、<1>～<16>のテーマにふれてきました。プリントをふり返ってみて、特に印象の強かったもの、もう少し詳しく知りたいと感じるものの番号を書いてください。多数の意見が集まったテーマを優先的に二学期で扱います。
(ひとつとは限りません)

2. 今日のテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。
ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

3. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

4. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点 (10点満点で)

理由：

5. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点 (10点満点で)

理由：

10月10日

1. 九月からの授業で、＜1＞～＜16＞のテーマにふれてきました。プリントをふり返ってみて、特に印象の強かったもの、もう少し詳しく知りたいと感じるものの番号を書いてください。多数の意見が集まったテーマを優先的に二学期で扱います。

(ひとつとは限りません)

- ・ (11)
- ・ 8) 9)
- ・ 15) 16)
- ・ 6) 7) 8) 9)
- ・ 戦争について
- ・ 3)
- ・ 15) 16)
- ・ 7) 8) 11) 15)

2. 今日のテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。

ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

- ・ (15) 国によって色々ちがうから、いろんなことを知ってみたい。
- ・ 14) 15) どうして、そのようになるのか知りたいと思ったから。
- ・ 15) どういった国で起こっているのかなどもう少し詳しく知りたいと思ったからです。
- ・ 14) なんで人々に貧富の差が出るのか知りたいから。
- ・ 14) 100人の中であてはまらなかった人はどうやって勉強しているのだろうと思ったから。
- ・ 今日の死に方が印象的でした1
- ・ 15番の逮捕の理由に驚いた。
- ・ 「文字が読めないと何が出来ないか」何もできないと思うから読めない人はどうしているのか知りたい。
- ・ 16) そういうことが起こっている国の現状をもっと知りたい。
- ・ 15) やっぱ日本の常識とずれているものがあるなど、こんなことで逮捕されるのはイヤです。

3. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・ 他の国などでは、自分では予想もつかないようなことで逮捕されてしまうことがあるのだと思った。
- ・ 色々な理由で逮捕されちゃうことがわかりました。もしも自分が・・・と思うと怖いことだらけです。
- ・ 自由は、かぎりなく少ないんだなと思いました。
- ・ 私達はいい環境で生活しているんだと思った。文字が読めないなんて考えたことなかったから、読めない人はすごく大変だと思った。

・死ぬことです。自分が本当に殺されるようになったら、死ぬって言う勇気もないし、どっちかっていえば我慢して生きていたいけど、なんとも微妙な脅迫が多かった。

・100人単位だとわかりやすい。

・最後にやった「死に方」とか考えるのが嫌だった。死にたくないし、考えたくなかったし・・・ 他人に殺されるのは嫌だなあと考えた。

・100人のうち20人が殺害や拷問におびえていることがとても印象強かった。

・友達6人と夕食を食べるだけで捕まるなんて、興味深いけど嫌です。

4. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

・（10）ちゃんとやった。

・（8）考えが言えたから。

・（10）難しかったけれど、自分の意見をはっきりと言うことが出来ました。

・（8）真面目に学習できました。

・（8）人は自分がこうやっ死にたいとは思っても、殺されたり、すごく悲しい死に方で一生を終える人も少なくない。世の中に戦争とか殺人とかあるかぎり、平和で心を豊かにして死ぬことはできないのかなあ。

・（10）いつもより多くメモをした。

・（4）寝た。最後らへん考えた。

・（5）途中参加だったので。

・（10）今日もよくがんばりました。意見たくさん出したし。

5. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：___点（10点満点で）

理由：

・（9）

・（10）色々と今、他の国がどういう状況なのかが知れて、勉強になりました。

・（9）

・（8）砂漠に連れて行かれるのはもう死んだと同じだと思った。

・（10）流れがスムーズだったと思う。

・（8）本を使うのが良い。

・（8）

・（9）今日は結構おもしろかった。

第12～15回の、授業者ふりかえり：

「世界がもし100人の村だったら」は、ちょうどこのころ話題になった本で、生徒も（全員ではないが）知っていたし、実際に内容がとても興味深かったので、使ってみることにした。最初は、2回の授業で終わるつもりだったのだが、予想外に時間がかかり、いっしょうけんめいやっても4回かかってしまった。

この授業をおこなった時点では出版から間もなかったもので、全体の項目に番号をつけて前半と後半に分けたり、それぞれの項目に設問をつけていったのも、自己流だった。その後、あちこちでこの本を使った報告が見られるようになり、それぞれ工夫が見られて興味深い。インターネットや開発教育協会の本などで、参考になるものが少なくない。

自分の授業では、生徒たちに各項目の人数比を予測させ、それを言わせては即座に電卓で計算して、それを本の記述と比較するという手順を入れていた。これなどは、参加意識の低い生徒も否応なしに関わらせる教員の技術であり、元から意欲の高い集まりだと不要かもしれない。ただし、ものによっては、ひとつの項目に、15%と言った生徒のとなりは50%と予測していたりすることがあるので、驚きもありおもしろかった。

各項目につけた問いは、良かったもの・良くなかったもの、さまざまであった。教員の説明を受け取ることが中心になって、考える余地が少なくなってしまうものは、やはり飽きられてしまう。顔を見ていても、生徒が内部で活性化している様子が感じられない。ただ、そういうほうが、淡々と進めてしまうにはやりやすくもあるので、「教員自身に都合のいい授業」に流れてしまう危険はいつもついてまわるとのことだろう。

二学期の最初にこの本を使うことは、世界のさまざまな問題を概略的に知るという土台作りにしようという意図であった。これは、一学期で考えてきたことを生かして諸問題を見るという発展でもあり、この先に、個別の問題とひとつずつ取り組んでいくための準備でもあった。ほかの意図であれば、違った使い方になるだろう。無理をして本全体を利用する必要もないだろうし、まだまだこの本には可能性がたくさん眠っているように思われる。

第十六回 10月17日

十二～十五回でざっと扱った各項目について、生徒にアンケートをとり、票の集まったものを二学期の授業で取り上げていくことにしていた。以下がその結果である。

絵本「世界がもし100人の村だったら」

- <1>男女比
- <2>子ども、大人、老人の人口
- <3>異性愛と同性愛
- <4>人種
- <5>地域別人口
- <6>宗教
- <7>使用言語
- ・・・・・・8からは、人間の行為によってできた差
- <8>飢餓・栄養
- <9>財産のかたより
- <10>エネルギーの使用
- <11>保険・衛生
- <12、13>貯蓄・私有物
- <14>教育
- <15>自由・人権
- <16>安全・平和

これらのうちから、関心があるものとして挙げられた回数は、多い順から、

- 8票 <15>
- 6票 <11>
- 5票 <6>、<14>、<16>
- 4票 <7>
- 3票 <8>、<9>
- 2票 <3>、<12、13>
- 1票 <10>
- 0票 <1>、<2>、<4>、<5>

この結果に基づいて、5票以上のものを中心に展開していくことにする。

今回（第十六回）は、「識字」をテーマとする。

「識字」

今、アフガニスタンでは、読み書きのできる人は3割しかいない。自分の名前がわからない人が10人に7人。今日は、文字や数字が読めるときと読めないときで、どう違うかを体験してみる。目標は難しいが、ひとりひとりが実感できるように計画を立てる。

数字

1) 最初に、カードに書いたベンガル数字の4を見せる。次に、7を見せる。そして、「このふたつを足したら、いくつですか。」と尋ねる。

ベンガル数字の4は、「8」にそっくり、7は「9」にそっくり。つまり、上記の答えは11なのだが、ふだんのアラビア数字と勘違いすると17になる。

4と7をとばして書いた表を黒板に貼って、それに当てはめてみる。

数字が読めないと、簡単なことも分からないことに気づく。

2) 今度は、実際に数字を書いてみる。

三人一組。

真ん中の人、付箋紙と筆記具、数字の表（何語かは不明）を持つ。他には見せない。

左側の人、自分の持ち物で、値段の高そうな品をひとつ、選ぶ。真ん中の人、その値段を決めて付箋紙に書き、貼り付ける。声では言わない。

左側の人、自分の品を、真ん中の人がつけた値段（もちろん読めない）で、右側の人を買うかどうか決断する。

お金の単位は、円としておく。

০ ১ ২ ৩ ৪ ৫ ৬ ৭ ৮ ৯ ベンガル語

٠ ١ ٢ ٣ ٤ ٥ ٦ ٧ ٨ ٩ アラビア語

០ ១ ២ ៣ ៤ ៥ ៦ ៧ ៨ ៩ クメール語
(カンボジア)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 <読み方>
১৭ ডাই তে-ন জ- পা-ত ছাই শে-ত আ ১৫ ベンガル語

لوس مائت اثنى عشر الف مائة ستة سبعة ثمانية تسعة アラビア語

son muoi pi: bai buon pram pram pram pram pram pram クメール語
muoi pi: bai buon

買う、と決断した人は、手を挙げる。

その人たちに、どうしてそう決めたか、付箋紙にはいくらくらいと書いてありそうか、言ってもらおう。

その後、持ち主に、その値段で売っていいと思ったら、握手してもらおう。

握ったままで、端の組から順に、真ん中の人を書いた金額を言う。

握手していたら、持ち主は、得したと思ったら座る。持ち主が座らなかつたら、買い手が座る。握手していなかつたら、得しなかつた方が立つ。

敗者（立っている人）に、今の気持ちを話してもらおう。

数字の読み書きができないと、不便・不安なことを感じてもらう。

3) 次には、声を使って、買うかどうかを決めてもらう。

ここまで、わざと数字の読み方は、言わないで置く。

「米を（ ）和、（ ）効で売るよ！」と黒板に書く。（ ）のところは、ベンガル語で言う。（アト）和、（ドシュ）効、のように。

これで、買う人、買わない人、判断してもらおう。その後で、

質問「これ、持って帰れるでしょうか？ 重すぎませんか？」「何日分、買いました？」

いったん、表を見ながら、音読する。それで、（ ）の数字がわかる。

わかるまでに考えたことを、言ってもらおう。

言葉がわからない不便・不安を経験する。

文字

4) 全員に、立ってもらおう。

三本のピンに、文字と数字が貼ってある。（別の言語の文字で）

文字の札を見せて、「発展途上国では、下痢による脱水症状が、子どもの死因のかなりを占めています。さて、あなたの子供が下痢だとします。どれかが薬なのですけど、どのピンを選びますか？」

間違えた人は、座る。

今度は、裏にして、数字を見せる。

「さて、これは数字なんです、どれだけ飲ませましょうか？ 錠剤を飲ませる数の指を出してください。」指を見て、あっている人だけ残して座らせる。

「子どもを健康に育てられたのは、今立っている人だけです。後の人は、直せなかったわけです。」

字が読めないせいで、薬の種類や量を間違えて、子どもや弟・妹を死なせてしまうことは、



ラベルが読めないピンを選ぶ

とても多い。実際に、農村では殺虫剤など農薬を飲ませてしまう事故が多く起きている。特に座ってしまった人は、どんな気持ちになるか、考えてもらう。幾人かに簡潔に話してもらう。

5) 次は、ちょっと別のことをやってみようと言って、路線図を出す。

ひとり一枚ずつ、行き先の駅名カードを渡す。

「今、持っているカードの駅で、待ち合わせです。正しく行けますか？ いくらかかるでしょう？ 計算してみてください。」

カードは、三通り作る。(通し番号を振って、3で割って余りが同じになる番号のものを同じ駅名・料金にしておくと、後でわかりやすいはず)

端から3～4人に、いくらだと思うか尋ねる。そこで出た数字の人で、集まってもらう。わからない人、という場所も一カ所作しておく。

それぞれ集まったところで、同一グループの人同士でカードを見てもらい、同じカード・同じ料金であることを確認する。

それぞれ、どんな気持ちだったか、話してもらう。特に、わからなかった人と、間違えた人に。

文字が読めないと、不便であることとともに、とても不安だということを感じてもらう。そして、自信が持てないということにも。したがって、文字を学ぶことは、便利さとともに自信を持つことでもあることを知る。

日本にも、文字が読めない人は存在する。難民を含めて、今体験したような不安の中で暮らしている人たちがかなりの人数いることを考える。

(そのような人の話を、紹介する)

文字が読めることの、教育的な意味を考える。

記録がつけられる。(時間枠が広がる)

遠くへ行き来できる。(空間が広がる)

詳しい文字情報を得られる。(知識)

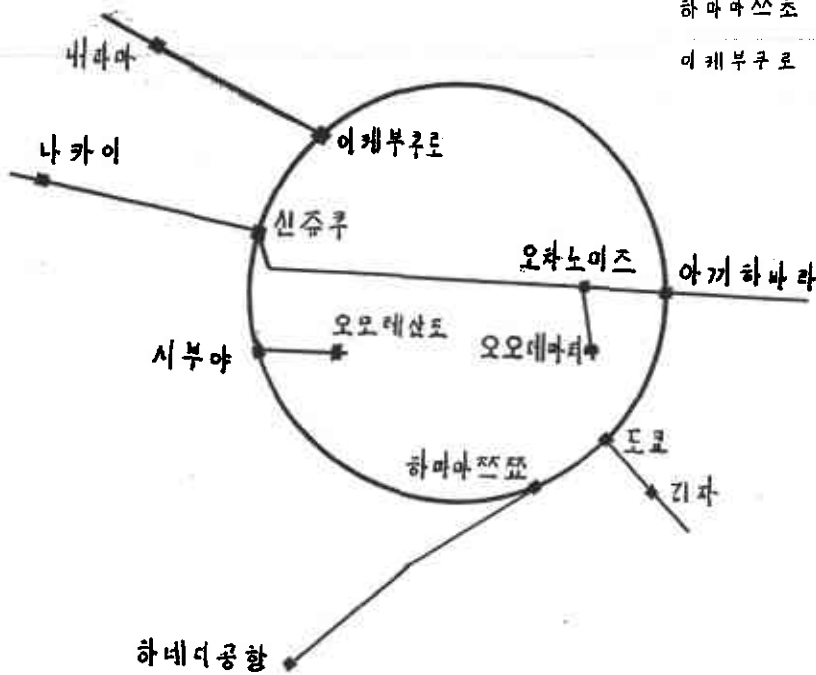
それらをによって、例えば以下のようなことができるようになる。

- ・ 仕事
- ・ 貯蓄
- ・ 自信が持てる



自分の持っているハングル文字の切符と、やはりハングル文字の山手線路線図を見比べて、乗り換えと料金とを考えている。

이케부쿠로	~	시부야	160
신주쿠	~	오차노미즈	160
하마쓰초	~	도쿄	150
오차노미즈	~	오모테마치	160
도쿄	~	긴자	160
시부야	~	오모테산도	160
신주쿠	~	나카이	140
하마쓰초	~	하네다공항	470
이케부쿠로	~	네리마	170



(配布プリント)

「文字が読めないということは・・・」

2002年10月17日

(1) 数字や文字が読めないために、どんな不便なことが起きるでしょうか。

(2) 授業の体験を通して、読めない文字を扱っているときにどんな気持ちになりましたか。“気持ち”について、なるべく細かく書きましょう。

(3) ビデオを見て、感じたこと・考えたことを、書いてください。

(4)

ア) 日本に住んでいる、日本語が読めない人たちと、知り合いでしょうか？

日本語の文字が読めない人たちの苦勞について、考えたことはありましたか？

イ) 自分自身に、何かできそうなことはあるでしょうか？ 考えて書いてみましょう。

(5) その他、今日の授業で感じたこと・考えたことを、たくさん書いてください。

(6) 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

(7) 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

<生徒のコメント>

(1) 数字や文字が読めないために、どんな不便なことが起きるでしょうか。

- ・薬の種類や量がわからない。
- ・電車での駅がわからない。
- ・料金が読めなかったりして移動の際に不便。
- ・交通に不便。一刻を争うときに大変。薬がわからない。
- ・物が正確に買うことができない。薬なんかは特にまちがえられない。
- ・物がほしくても、コレは何かとかわからないし、いくらかもわからない。
- ・自分の考えていることを伝える手段がなくなる。誤って情報をえてしまう。
- ・自分の行きたいところにいけない。満足に買い物もできない。
- ・本、新聞などが読めない。
- ・交通機関を利用するとき、目的地、料金などわからない。
- ・薬、食料など、それが何なのか分からない。
- ・薬とかちがうやつをのんだりして大変なことになる。

(2) 授業の体験を通して、読めない文字を扱っているときにどんな気持ちになりましたか。“気持ち”について、なるべく細かく書きましょう。

- ・イライラした。字が読めないことに腹が立つ。
- ・生活するのに文字が読めないと困るところか、生活できないような気がしたので、文字が読める環境に育つことができてとても嬉しく思いました。
- ・もどかしい気持ち。不思議な感覚。分からないからイライラ。
- ・正確なことがわからない。
- ・何がなんだかわからないという感じ。薬のことだけどひとつまちがえれば命をも落としかねない。大変なことだと思った。
- ・今日は初めて見た字だったし、知っている人もいるから、ちょっと楽しい気がしたけど、外国で1人でいると、買い物するにも移動するにもこわくてできないと思う。
- ・とても不安なかんじでした。幼いころによく感じた気持ちに似ていました。
- ・自分の思い通りにいかないのでイライラしたり、くやしい気持ちになったりと悲しくなりました。普通はできるのに・・・と思っていたんだけど、それは違うんだな、と感じました。
- ・文字は、習わなければ、読むことができないものだと思うので、文字が読めない体験ができて、今、あたりまえのように呼んでいる文字の大切さが分かった。
- ・いつもはふつうに読めるけどほかの国のことばで全然わかんないからイライラした。

(3) ビデオを見て、感じたこと・考えたことを、書いてください。

- ・字を学ばせたり、衛生面を考えたりと、子供が死ににくい環境になりつつあるが、世界の人口増加も考えなくてはいけない気がする。
- ・ああいう国に生まれなくてよかったと思いました。
- ・日本は義務教育があつて幸せだと思った。
- ・日本語で書いてあれば楽に読めるのと思った。
- ・勉強のための教材があまり普及していない所では勉強するとはすばらしいこと。私達はそれが当たり前になっているけど、本当に文字を知ることにも全て勉強しなければはじまらないと思った。
- ・字や数字がわからなくても勉強して、村をよくしていこうというのがすごいと思った。
- ・言葉が通じないと大変だ、と思いました。
- ・識字を一生懸命がんばっていることに心を打たれました。
- ・文字が読めないということで、様々な不便なことがあるのだとわかった。
- ・字がわかんない人におしえるのは大変だと思う。

(4)

ア) 日本に住んでいる、日本語が読めない人たちと、知り合いでしょうか？

日本語の文字が読めない人たちの苦勞について、考えたことはありましたか？

- ・いいえ。
- ・知り合いはないし、考えたことはない。
- ・知り合いではないし、読めて当たり前だと思ってた。
- ・駅で聞かれたときに大変そうだなあと思った。
- ・駅で切符を買おうとしている外国人を見ると大変だなと思う。
- ・ない。
- ・ありませんでした。
- ・そうゆう知り合いがいないので、読めない人たちについて考えたことはありませんでした。
- ・いいえ。
- ・考えたことない。

イ) 自分自身に、何かできそうなことはあるでしょうか？ 考えて書いてみましょう。

- ・字を教えてあげる。町であつたら道案内する。
- ・ボランティア活動。
- ・文字を教える。
- ・聞かれたら何度でも答えたりすること。
- ・自分にいろんな言葉が話せたら道案内でもなんでもできるのに。
- ・苦勞している人の気持ちになって物事を考えてあげたいです。

・文字を教えてあげたり、道でこまっている人達がいたら優しく教えてあげたいと思いました。

・自分からおしえることはできないけど聞かれたらおしえてあげたい。

(5) その他、今日の授業で感じたこと・考えたことを、たくさん書いてください。

・字が読めないことでこれほど苦勞するとは思わなかった。というか、字を読めない世界なんて考えたこともなかった。勉強の大切さを知った。

・もじって大切なんだと思いました。

・自分の分からない文字だと、全く無知な自分にイラつく。薬を買えなくて子供が死んでしまうなんて考えられない世界だったからなんかショックだった。

・文字の読めない人たちもみながんばってるなと思った。自分は小さいころから書けていたので、日本は豊かといわれるのはこのこともあると思った。

・逆に、文字は知らない大変なことは今日実感したけどやっぱりいろんな語学を知ることが楽しいと思った。

・数字や文字というのは、字が読めたり書けたりしないと命が危ないという直接的ではないけど間接的にすごく関わっているんだと思った。切符でも、苦勞して、あれで数字も普段使っているものではなかったら、もっと苦勞しているんだと思った。

・世界中にはまだまだわからないことが多いんだな、と。文字が読めないとたくさん大変なことがあるんだなと思いました。

・今まで普通に読み書きしていたことができない人もいると聞いておどろきました。自分も今日体験してみて、その人達の気持ちも分かったので、文字を大切にしたいなと思いました。

・文字が読めないなんて考えたことがなかったから、すごく大変なんだな一と思った。

(6) 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

・（8点）字の読めないことで駅の生き方が全然わからなかった。これじゃ外国に行けないな。

・（8）自分なりにまともにやってる気がした。

・（6）参加してた。眠かった。

・（10）理解したから。

・（10）薬についてはいろいろ考えることができた。あんまり医療が発達していない所ではふたとかのいろでだいたいわかりやすくしている。赤はけっこう薬が強い。

・（7）あまり体調がよくなかったので・・・

・（10）楽しく参加できました。

・（8）自分の考えが言えたのでよかったと思う。

・しっかりできた！！

(7) 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）よかった。意表をついたね。
- ・（8）おもしろかった。
- ・（8）実際に字が分からない感覚が味わえて良かった。もどかしくてもうやりたくないケド。
- ・（10）
- ・（8）
- ・（8）班分けがけっこう男女でまとまってしまった気が・・・
- ・（10）色々と勉強になって良かったです。
- ・（9）文字について考えることができて良かった。
- ・丸くなってやるのはやだ。

授業者のふりかえり：

第12～15回は、諸問題の概論だったので、じっと座っている授業になってしまった。今回からはテーマはひとつなので、参加型らしい(?)授業にしたかった。

識字というテーマは、年間の授業計画の中で、かなり重要な位置を占めていた。生徒に、何かを持たない苦しみ・哀しみを少しでも感じさせるのは、学校の教室という場では簡単なことではない。飢えや乾きは不可能だろうし、肉体的苦痛は倫理的にありえない。その中で、教育については、「読めない」ということの苦しみと哀しみをわずかながらでも体験できる。とても重要な日に違いないと自分では考えている。

生徒のコメントがいつもより長かったのは、おそらくは、それだけ考えるところが多かったのだろう。何度も立ったり座ったり歩いたりとずいぶん負荷をかけて、かなり疲れる授業をしたのだが、そんなことはあまり気にしていないようであった。

第十七回 10月31日

前回（17日）は、14番の教育問題の例として、識字をテーマにした。今回は、8番と9番の、所得問題をテーマに選んだ。開発教育協議会の教材「一杯のコーヒーから考える世界の貿易」を利用する。

（細かい設定などは、著作権の問題があるのでここでは記載しないが、生徒たちにあわせてワークシートなどは手を加えた）

参考：

第十二～十五回が終わった後、もっと詳しくやりたいテーマを尋ねたアンケート結果多かった順

8票 15番（安全・人権）

6票 11（保健・衛生）

5票 6（宗教），14（教育），16（平和）

4票 7（言語）

3票 8（食料），9（富の配分）

2票 3，12／13

1票 10

「一杯のコーヒーから考える世界の貿易」

（1）導入

コーヒーに関する、基礎的な知識を紹介する。

生のコーヒー豆、コーヒーロースター、農園の写真などを用意する。ここで、モノカルチャーに少し触れておく。

消費量：1位 USA 2ドイツ 3日本（年間ひとりあたり 300 杯）

生産量：1ブラジル 2コロンビア 3インドネシア

話の中で、この授業の目的を簡単に紹介する。

- ・国際貿易と農民の暮らしに関係があることを感じながら、良い貿易、良い農業は、どういうものかを考えるきっかけにするゲーム。
- ・自然の影響や社会の構造が大きな影響を与えることを知る。
- ・貧しさが、本人のせいではないことを理解する。これは、なまけものだからというような認識でいる場合が珍しくないため。

(2) 教材「アロマ村のコーヒー農園」

1) 生徒を、グループ分けする。13人を、社員 a, b, c の3名と、農家 A (3人), B (3人), C (4人) に分ける。

2) シート1「設定」を音読する。要点は黒板に書く。

3) 農家にはシート2を、社員にはシート7を渡す。生徒が読んでいる間に黒板に表を描く。

表1

農家	一年目	二年目	三年目	四年目	計 (結果)
A	()	()	()	()	
B	()	()	()	()	
C	()	()	()	()	

()は、コーヒーの区画数

表2

社員	一年目	二年目	三年目	四年目	計 (結果)
a					
b					
c					

以下のように、言葉で説明する。

「農家 A, B, C の収入が、一年目から四年目までの間にどうなっていくでしょうか。

農家は、畑の10区画のうち、0～10の間でどのくらいをコーヒー栽培に転換するか、決めます。

社員は、よく説明して、なるべく多くの区画をコーヒー栽培にまわしてもらえるように努力しましょう。

交渉は、5分間です。終了の合図が鳴ったら、決定した区画数を黒板の表の()に書き入れましょう。」

4) 区画数を全農家を書いたところで、農家にはシート3「一年目」を配る。社員には「社員用 会計用紙 一年目」を配る。全員に計算させる。

(社員には、電卓がある方がいいだろう)

計算が終わったところで、二年目のコーヒー栽培の区画数を、交渉する。5分間。

5) 区画数を黒板に書いたところで、農家にも社員にも、二年目のカードを配る。
前の年と同様にすすめる。

6) 同様に、三年目。

7) 同様に、四年目。

四年目が終わったところで、過去四年間の通算の黒字・赤字を計算する。

8) 黒板の結果を見ながら、以下のふたつを考える。(記入用紙1)

- ・やっている中で、わいてきた感情を思い出して、書きましょう。
- ・やっている中で、抱いた疑問点を書きましょう。

しばらく時間をとってから、順番に言ってもらう。黒板にメモをとるのもいいだろう。

9) 最初のシート1「設定」をもう一度読み直す。その後に、以下のふたつを考える。

- ・(赤字の農家は、赤字にならないためには、どうすればよかったですか。
- ・良い契約とはどういうものか。

教員の着眼点としては、

- ・かなりばらつきはあるが、多くの農家は赤字が増えていく。
- ・借金を返す手段は、簡単には見つからないだろう。
- ・社員が嘘をついたわけではない。
- ・農家が怠けたわけではない。
- ・国際相場や天候が、大きく影響している。(モノカルチャーの危険性)

授業者のふりかえり：

今回は、電卓で計算したり、相談して決断するなどがあるので、かなり不安だったにもかかわらず、生徒たちは予想外に熱心で盛り上がった。ただ、最初に「全部コーヒーにする」という選択をしてしまうと、その後にやる事がなくなってしまうので、そのあたりは多少誘導してしまうほうが、生徒もゲームを楽しめるだろう。

(配布プリント)

(記入用紙 1) 「一杯のコーヒーから考える世界の貿易」

質問 1

(1) やっている中で、わいてきた感情を思い出して書こう。

(2) やっている中で、抱いた疑問点を書こう。

質問 2

(1) 赤字の農家は、赤字にならないためには、どうすればよかっただろうか。

(2) 良い契約とはどういうものか。

<生徒のコメント>

質問1

(1) やっている中で、わいてきた感情を思い出して書こう。

- ・天候などによって、赤字の時や黒字の時があるので、契約するときは様々なことを考えなければいけないと思った。
- ・農家の人は大変だなーと思った。
- ・自分自身で特になるか損になるかを考えるので、スリルがあり、ワクワクドキドキしていました。
- ・どうなるか分からない状態で物事を考えなければいけないので、不安や期待などがあった。
- ・農家と社員で、苦勞の割には、最終的に手に入るお金に差があるな、と思いました。
- ・来年の気候とかは分からないから、難しい。
- ・あーあ、もっと考えればお金稼げたのに。豆を栽培するにはその年の天候などすべての変化（災害など）によって生産量もかわってきてしまう。
- ・全部コーヒーにしたから、途中で変えられないからコーヒー豆ができないと大変だと思った。
- ・確かにコーヒーの契約栽培は、いい話ではあったが、市場の関係もあり必ずしももうかるとはいえないので不安だった。

(2) やっている中で、抱いた疑問点を書こう。

- ・どうして農家が赤字の時、社員の金額が上がるのか疑問に思った。
- ・どちらも同じくらいの苦勞をしているのに、得られる金額が違いすぎると思いました。
- ・どうすれば、良い利益になるんだろう？
- ・会社の方がもうかってる？
- ・地力が下がるなら先言えよ！

質問2

(1) 赤字の農家は、赤字にならないためには、どうすればよかったですか。

- ・契約する区画を年度ごとにあまり大きく変えないようにする。
- ・10区画全部コーヒーにする。
- ・気候や需要と供給などもことも頭に入れて、無理のない計画を立てることだと思う。
- ・会社にとよりすぎないことが大切だと思います。
- ・最初から、よく考えて一定の土地でやればよかった。
- ・一区画あたりで今年はいくらになるのかは、はっきりはあくしておかなければなら

ない。

- ・全部コーヒーにする。
- ・ひかえめに。

(2) 良い契約とはどういうものか。

- ・契約する区画を半分ぐらいにする。
- ・無理をせず、計画的に物事を考えていき、赤字を出さない為にも社員の話に惑わされず、しっかりとした計画を持つ方がよい。簡単に契約をしない方がよい。
- ・お互いに公平な立場での取引ができると良い契約となると思いました。
- ・土地数を決めておく？
- ・両者が納得いくような契約。そしてお互いがちゃんとした利益を見込んで契約を結ぶこと。
- ・お互いにもうかるコト。
- ・農家、会社共に利益の出る契約。
- ・詳しく話してもらえ、自分もよく理解したうえでの契約。

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・農家の人に利益が出ないときでも、会社側は、利益が出るということ。契約などのかけひきの難しさ。
- ・利益とか考えたことがなかったから、大変だなーと思った。
- ・今まで農家の立場になったことが無いので、農家の立場から社員の動きなどがわかり、イイ話だけをしてかんたんに契約をさせるんだと思いました。
- ・貧富の差が生まれる原因と、それはどうすればよいのか、など難しい問題はつきないと思いました。
- ・農家の人は、一生懸命働いているのに、気候や市場の関係で赤字になったりする危険があるのに対し、立場の強い企業は赤字の時でも利益が増えていたりして、立場の弱い人は、くやしいと思う。でも、やっている内に自分もそれが当たり前になっていたかもしれない。
- ・エスプレッソ社と農家との契約にはやっぱりそれを生産している人の方が会社よりかなりのマイナスを出すときがある。会社は赤字にならないように契約しなければよいが、農家は生活を支えるために必死です。しかし、天候に栽培は左右されるので（でも契約は必要）本当に大変なことだと思った。
- ・コーヒー会社の人の方が特をしているのがどうも納得いかなかった。農家の人たちがいくらがんばって働いても天候とかはどうにもならないものだからかわいそうだと思った。
- ・世の中うまい話ってのはないんだなと思った。
- ・目先のいい話に乗せられるといたいに会うことを知った。やはり生活のかかっていることだし、ひかえめにやるべきだったろう。一体どれだけの人がこのような失敗

をしたか気になる。実際、このクラスの人々は皆失敗をした。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点： ____点（10点満点で）

理由：

- ・（6点）もっと意見を言えれば良かったと思う。
- ・（10）ちゃんとできたと思う。
- ・（10）農民の立場になり、色々考えることができました。計画を立てて、赤字にならないようにするのが大変でした。
- ・（8）みんなで楽しくゲームをして、いろいろとなことがわかったことがすばらしかったと思いました。しかし計算が苦手な僕が社員役になったので、ハプニングが発生しました。
- ・（8）最初からちゃんと考えていれば良かった。
- ・（8）はじめはよくわからなかったけど楽しかった。私達はまだちょっとした企業との契約などを見たばかりだけとためになった。すべてのことを考えにいれなきゃいけないから。
- ・（10）考えてたし、ちゃんとプリント読んでたから。眠くもなかった。
- ・（10）自分なりにやる気をだして、真面目ににやっていたから。
- ・（10）今日は新たな発見をした。やはり変化は少しずつの方がいいと思う。悪かった点といえば、グラフの重要点に気づけなかったことか。

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）コーヒー農家をテーマにして、良かった。とても勉強になった。
- ・たのしかった。
- ・（10）色々な視点から考えることができました。
- ・（9）スタートダッシュが遅いのはいけんと思いました。
- ・（8）おもしろかった。
- ・（10）とてもおもしろくて、やりがいがあった。
- ・（10）楽しく深く授業ができた。

第十八回 11月7日

先週は、コーヒー栽培農家と、国際経済の関わりについて学んだ。今回は、前半で、日本で暮らす我々の身の回りにあるいろいろな輸入品について、広く考えてみる。後半には、年間の最終プロジェクト「よそ国」の説明と、各自の国カード引きをする。

教材は、神奈川国際交流協会が日本語版にした「世界からやってくる私たちの食べ物」を利用して始まり、途中からバナナの話に移っていく。

(1) 前回のふり取り

コーヒー農家の一軒一軒が、大きな国際情勢に振り回される状況を思い出す。

・気候 ・収穫量と貯蔵量 ・病害 など

似たようなことが多くの食料品にも見られることや、それが自分たちの日常にも密接に関わっていると感ずることが、目的となる。簡単に、この主旨を話しておく。

(2) 食品を調べる

1) グループを3つに分ける。真ん中に、世界地図を置く。

2) 3つのグループに、ひとつずつ買い物袋を渡す。それぞれに、食品を入れておく。

食品には、例えばフィリピン産とエクアドル産と台湾産のバナナなど、産地や値段が違ふ食べ物を混ぜておく。値段が印刷してあるものは、塗りつぶしておく。

また、食品の数だけ、記入チャートを渡す。

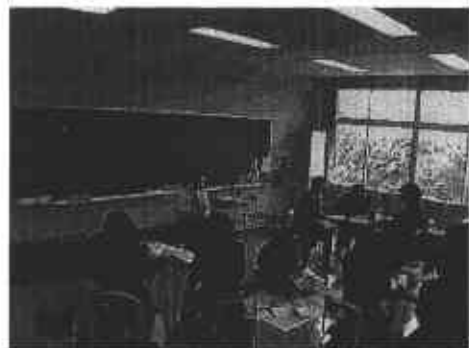
チャートの項目：・食品名 ・原産国 ・値段予想と、その正解欄

・その値段をどう感ずるか (高い、ちょうどいい、安い)

各グループ、チャートの値段予想まで書き込んだら、バナナ以外の本当の購入値段を発表し、それを記入する。(バナナは、後で)

3) 地図の上に、食品とチャートを置いていく。

置くときには、チャートを読み上げる。



ここから、ふたつのことを考えていく。

A: バナナ以外について、「高い、ちょうどいい、安い」とその理由を考える

B: バナナについて、値段の違いの理由を考える

(3) A: バナナ以外について、「高い、ちょうどいい、安い」とその理由を考える

1) ひとり1枚、ワークシートAを配る。

- 項目： a,自分の印象で、もっとも「意外に高いな」と思った物と、その値段
b,自分の印象で、もっとも「意外に安いな」と思った物と、その値段
c, 上記 a,で、その品物が高くなる理由
d, 上記 b,で、その品物が安くなる理由
各自で記入していく。

2) 各自が高い物、安い物として選んだものをグループ内で回し読みする。

3) 全体に向かって、読み上げる。黒板に、「高い理由」「安い理由」それぞれのメモを取る。

(4) B:バナナについて、値段の違いの理由を考える

1) バナナの値段を発表する。大きな値段の差があることを、確認する。

2) ひとり1枚、ワークシートBを配る。

- 項目： a・バナナAの値段と、特徴
b・バナナBの値段と、特徴
c・バナナCの値段と、特徴
d・高いバナナの、値段の理由
e・安いバナナの、値段の理由
f・自分なら、どういう理由でどのバナナを買うか。

3) グループの中でワークシートを回し読みする。

4) 特徴の、発表。

5) 上記 f について、A, B, C,どれを選んだか、それぞれの数を確かめてから、その理由を発表していく。いろいろな理由でばらけていくと面白い。

(5) 最後に、買い物袋の品物を通して感じたこと、考えたことをふり返り、書く。

(6) 今日の前半のまとめ。

ふだんも書いている「今日のふり返り」の1～3番を、記入する。その間に、前年度の生徒たちが作った小冊子「よそ国」を回して読む。

使った食べ物



三種類の、バナナ



その他、九種類の食品



生徒たちの考えを、黒板にメモしていく。



授業者のふりかえり：

このころになると、生徒たちは、もう自分たちで考えることを楽しむ感覚を身につけてきていたように思われる。テーマと素材がはっきりしていれば、むしろ教員はじゃまをしないように、でしゃばりすぎないようにという意識が大切になる。

最終プロジェクト「よそ国」は、やはり、言葉で説明しただけではよくわからないらしく、コメントにも戸惑いを感じられる。

<生徒のコメント>

11月7日

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・バナナ一本でも加工や製法で、これほど差が出るとは思わなかった。まあまずいバナナは無いに等しいので、変わるものではないだろう。
- ・意外と物の値段というのはわからないものなんだなと思った。
- ・値段を予想したりして、けっこうみんな買い物するんだな—と思った。今日はグループメンバーが良かった。
- ・色いろな国の食品が日本に入ってきてることがわかった。
- ・ミネラルウォーターが高い。
- ・国の遠い近いによってその送料もかかるので高くなったり低くなったりする。物を大量生産している所はやすくなることもある。
- ・アンチョビ 56g → 298 円は高い。
- ・同じ産地なのに製法やキャラクターの袋に入れて、手間をかけたものと、何もしないものとは 100 円位の差が出るという事。人気度でも値段があがる。今回キティちゃんのバナナを買う人は1人もいなかったけど、子供はとくにほしがると思う。(少ない量。) だから1本入りなのかな? と思った。
- ・自分達は何気なく食べているものにもいろいろなストーリーがあると思いました。
- ・バナナにも色々な製法と種類があることがわかった。日本は多くの国から輸入しているんだなあ—と思った。
- ・3種類のバナナ。
- ・同じ種類の物でも、様々な条件によって価格が大きく変わるということ。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか? 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点: ____ 点 (10点満点で)

理由:

- ・(8点) 今日は女の子ばかりの班だったので、エンリョがちだった。
- ・(10) かなり真面目にやったから。
- ・(10) 考えて発言した。
- ・(10) 色いろと考えたから。
- ・(8) 能動的にできたと思う。大韓民国のラーメンはもっとやすくていいかなと思った。
- ・(8) 積極的に参加できたと思います。
- ・(10) 自分の思ったことを発言できました。バナナは大好きなので色々と考えてしまいました。
- ・ちゃんとできた。

- ・(9) 考えが言えた。

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どう
いうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・(9点) いろいろな輸入品の値段とかも知れたし、なぜ高いか考えることもできた。
バナナうまかったし。
- ・(8) なかなかおもしろい。
- ・(9) おもしろかった。
- ・(10) おもしろかった！ バナナうまかった。
- ・アンチョビが賞味期限切れていた。
- ・(8) 特にありません。バナナおいしかったです。
- ・(10) バナナをもっと食べたかった（笑）。でも楽しく食品のことを学ぶことがで
きました。
- ・バナナは食べなくていいと思う。
- ・(10) 身近な物が題材になっていて面白かった。

4. プロジェクト

- ・大変そう。
- ・難しそう。というよりめんどくさそう。
- ・大変そう。PC使わなきゃって思った。
- ・やれるか心配・・・
- ・ネパールだったけどあんまり国的にしられていない所だからこのきに調べるといろ
いろな事がわかると思う。
- ・ちょっとおもしろそうだけど調べるのが大変そうだった。
- ・あんなの本当に書けるのかと思いました。
- ・南アフリカって・・・どんな国だろうと少し興味があります。
- ・めんどくさい。
- ・たくさん情報を集めたいと思った。

第十九回 11月14日

以下の項目を、オークション形式で、各自がほしいと思うものを競り落としていく。
・・・「価値観のオークション」（「地球市民を育む教育」を参考に）

活動：「価値観のオークション」

(1)

リストを配り、全部に目を通す。自分がほしいものを、三つ選んで印をつけておく。

リストの項目：

- (あ) スポーツ万能
- (い) 幸せな家族
- (う) 信じられる友人
- (え) リーダーシップ
- (お) 芸術的才能
- (か) 勉強好き
- (き) 健康
- (く) お金持ち
- (け) 学校の成績がいい
- (こ) 好きな職業を選べる
- (さ) 好きな所で暮らす
- (し) 容姿端麗
- (す) 立ち直りが早い
- (せ) 他の人を愛する
- (そ) 他の人から愛される
- (た) 大勢友人を作る
- (ち) 世界を少し平和にできる
- (つ) 家族に信頼される
- (て) 自分を好きになれる
- (と) 人前で上手に話せる

- (な) ただ働きさせられない
- (に) 家族と引き離されない
- (ぬ) 暴力をふるわれない
- (ね) 無実の罪をきせられない
- (の) 誘拐されない
- (は) 不公平な裁判をされない
- (ひ) 他の人より権利を減らされない
- (ふ) 意見を言っても危険でない
- (へ) 根拠のないデマを流されない



オークションの様子。

買う意志のある場合は手を挙げる。

- (ほ) 盗聴・盗撮されない
- (ま) 宗教・思想を強制されない
- (み) 病気等の際、放っておかれない
- (む) 飢えない
- (め) 教育の機会を奪われない
- (も) 遊ぶゆとりを奪われない
- (や) 暴力的に威されない

(2)

設定：各自の資金は 1000 両。値段は、10 両から始まる。

手を挙げて、前より高い値段をいっていく。続く人が 10 秒とだえたら、最後に値段を付けた人のものになる。ほしいものを落札できなかったら、新しいものにねらいを変える。

黒板にリストを貼っておき、競争者の人数と、落札者・値段をメモしておく。

(3)

共通点と、個々の違いの両方について、考える。

前半のリストは、個人的な能力など。後半は、世の中での権利。

A) 共通点：それぞれで、ほしいものとして高額までつり上がっていったものに着目し、それがなぜそうなったか、話しあう。

B) 相違点：少数意見、つまりひとりだけで安く買えたものに注目する。
それもまた、必要度が高い人がいることを確認する。

(4)

権利について、漠然と「たくさんあればあるほどよい」と捉えている人が多いが、実際にはそう単純なものではないという発見をさせたい。

活動：「三つの国」

あまり客観的ではないが、いわゆる“旧西側”“旧東側”“民族主義”の、ステレオタイプのモデル。それぞれを比較する。

三つの国の状況を読む。各自で、自分は何の国へ行きたいか考えて、合図と共に移動する。

<ランブータン国>

「国民すべてに、職業・同じ程度の収入と、医療等の保証をする」ことを最大目標としている。あまり流動的だとその目標が果たしにくいので、住む場所や職業は役所と相談して決めることになる。それを後から変えることは難しい。怪我などで働けなくなった際は手厚い保護があるぶん、ふだんの収入は低い。

<マンガスティン国>

政府は「国民の活動のじゃまをしない」という基本方針である。進学や職業選択などもすべて自分で決められるし、社会的に成功すればその成果・利益は大きい。一方で、政府に予算の余裕がなく、社会保障の限界があり、貧富の差が広がっている。

<ドリアン国>

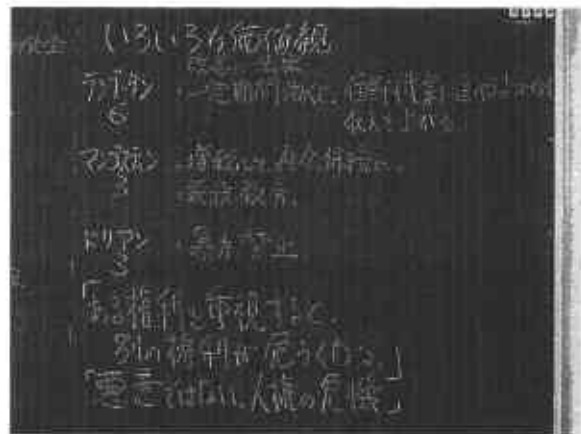
「同一民族のみで国を作る」ことが最善であるとして、分裂して小さな国を作った。強い仲間意識があり助け合いの雰囲気満ちている。そのぶん、伝統的な考えや行動と異なることをすると、団結を乱すものとして風当たりが強い。

(5)

まずは、なぜその国を選んだかを言ってもらおう。

次に、三つとも、ある権利を特に大切にしたいために、他の権利が軽視されている例であることを話して、それでは、それぞれをもっと良い国にするにはどういう法律を作るべきかを各国で考え、発表する。

権利について考える際に重要な点は、「権利を侵害する悪い人と、侵害される被害者」というステレオタイプで考えると本質を見誤るということである。問題が発生した場面で、悪者を探すという姿勢で考え始めてしまうと、際限ない自己肯定・他者否定に走ってしまい、いつまでも解決のしようがなくなる状態がよく見られる。現実社会の問題が、しばしば権利と権利の衝突によるものであって、悪者がいるせいとは限らないことを理解させたい。



授業者のふりかえり：

オークション形式で権利を扱うのに生徒がどう反応するか不安を感じていたが、意外にノリが良かったので、ほっとした。ただ、ハンマーを叩きながら主導する役（オークショニアと言うらしいが）がおもしろくそれらしくやるという演技力も、ある程度関わってくる。権利という重大な問題はもっと真面目に扱うべきだと考える人もいるだろうが、とにかく陰気に、そして多様な意見の出しにくくなりがちな分野であることを考慮すれば、なかなか貴重なアクティビティと思われる。

(配布プリント)

() 月 () 日

1) 「オークション」 リスト

* 欲しいものの記号の前に、○をつけておきましょう。

(あ) スポーツ万能
(い) 幸せな家族
(う) 信じられる友人
(え) リーダーシップ
(お) 芸術的才能
(か) 勉強好き
(き) 健康
(く) お金持ち
(け) 学校の成績がいい
(こ) 好きな職業を選べる
(さ) 好きな所で暮らす
(し) 容姿端麗
(す) 立ち直りが早い
(せ) 他の人を愛する
(そ) 他の人から愛される
(た) 大勢友人を作る
(ち) 世界を少し平和にできる
(つ) 家族に信頼される
(て) 自分を好きになれる
(と) 人前で上手に話せる

(な) ただ働きさせられない
(に) 家族と引き離されない
(ぬ) 暴力をふるわれない
(ね) 無実の罪をきせられない
(の) 誘拐されない
(は) 不公平な裁判をされない
(ひ) 他の人より権利を減らされない
(ふ) 意見を言っても危険でない
(へ) 根拠のないデマを流されない
(ほ) 盗聴・盗撮されない
(ま) 宗教・思想を強制されない
(み) 病気等の際、放っておかれない
(む) 飢えない
(め) 教育の機会を奪われない
(も) 遊ぶゆとりを奪われない
(や) 暴力的に威されない

2) 購入したいものを、書いておきましょう。

記号 買った値段

・ () ()
・ () ()
・ () ()

3) ひととおり終わった後、意外に感じたことがあったら書きましょう。(予想外に人気が高かった・低かったもの、など)

学年末プロジェクト「よそ国」

来週以降の学年末プロジェクト「よそ国」の第一段階で、カードを引く。

- 1) 説明のプリントを配り、説明する。
- 2) 行き先国カードを引く。
- 3) 下調べ用シートを配り、それは宿題となる。次週は、それを各自が発表することを予告しておく。

『よそ国』 国際理解教材としてのゲーム (基本の展開例)

〔各種のカードセットを用意する〕

「行き先」カードのセット

「入国目的」カードのセット

「アクシデント」カードのセット (これは、オプション)

「人生の転機」カードのセット (これも、オプション)

〔1〕ブレイン・ストーミング

まず初めに、一学期の最初にも触れた、「日本人らしさって何だろう？」というテーマで、ブレイン・ストーミングをする。その結果をまとめておく。

〔2〕「外国へ行こう!!」バーチャル世界旅行

(1) 「行き先」カードを引く。そこで引き当てた国や地域へ、日本から出掛けていくことになる。

手順:

1) 国の調べ方を考える。

行き先の国を調べるといったときに、どんな項目が挙げられるかを皆で考えてリストを作る。

行き詰まるかも知れないので、その際には、何種類か国について紹介している資料を用意しておき、そこにはどういう項目が出ているかを調べてみる。

2) 行き先カードを引く。

自分が行くことになる場所が決まる。

3) できたリストを元に、来週はその国の基本情報について発表することにする。

それに備えて、各自が調べて (必要ならば原稿も用意して) くる。

最終的には、全員分のものをひとつにまとめてきれいなカラーの冊子を作る。

また、今回は、各自が調べてきたことを利用して、一歩先へ進み、「目的カード」を引いて、それに合わせた準備を考える。

(2) 「日本からの出国目的」カードを引く。先に引いた土地で何をするかが、決まる。

(3) 引いたカードの目的にあわせて、調査をする。

- ・どこにある、どんなところなのか。
- ・入国手段や交通状態は、どうなっているか。
- ・「目的」を順調に果たすためには、何が必要か。
- ・日本で、どんな事前準備をしなくてはならないか。

進展状態を見て、調べ方や考え方のアドバイスをしたり、
「アクシデント」カードを引かせたりする。

(4) 目的にあわせた生活をする上で必要なことを、衣・食・住などについて調べていく。

(5) 報告。

これは、創作活動。「現地から、日本の友人や家族への手紙を出す。その内容は、相手を現地へ呼び寄せるものとする。」という設定。紙とは限らず、e-mail だったりビデオ・レターだったり、さまざまなパターンが考えられるだろう。

〔3〕最後に、全体のまとめ。

たとえば、ゲストを招くなどして、現実社会の困難や問題についてより深く学んだり、もう一度、最初の問い「日本って何だろう?」「日本人って何だろう?」を皆で考えてみたり、という方法があるだろう。

<参考>

「行き先」(「出身国」)カードのセット

地域、宗教、その他の要素が、なるべく片寄らないようにしておく。

「日本からの出国目的」カードのセット

職業、趣味、その他、これも多様なものを用意したい。

各種カード

「行き先」カード 例

ネパール・ラオス・スリランカ・トルコ・ハンガリー・デンマーク・ケニア・マダガスカル・南アフリカ・セネガル・ルクセンブルク・ポルトガル・キューバ・ウルグアイ・コスタリカ・フィジー・

「日本からの出国目的」カード 例

野性生物の生態調査・農水産物の買いつけで出張・テレビ局の取材・結婚式のため（相手はその国の人）・友人の結婚式のため・旅行中の親がその地で病気になった・旅行中の家族がその地で交通事故にあった・日本語教師として働く・現地の大学へ留学・サッカーチームで遠征・コンサートツアーのバンドのマネージャー・食べ物雑誌の取材・日本舞踊の先生として招かれた・その国に住む高名な武道家と勝負したい・現地の音楽を学びたい・

<生徒のコメント>

11月14日

1. 権利がお互いにぶつかりあうことについて、印象に残ったことや考えたことを書きましょう。

- ・ある権利を重視することによって別の問題が生まれるなら、重視できないと思ったし、全部フツウにするしかないと思った。
- ・互いにたいへんな思いをして作られた権利なのと思う。
- ・権利を重視すると別の権利が危うくなるという言葉に深い共感を得た。
- ・皆同じ人間なので欲しいものは皆同じなんだと思った。
- ・ぶつかる事とぶつからない事が半々だった。大切なことが皆違うけど、ぶつかった権利は高額になるまで続いて、2コしか代えなくても買うというのは、その人にとってすごく大切な事なんだと思った。
- ・争いが生まれると思いました。
- ・人によって欲しい権利が変わってくるのだと分かりました。回りの人々が平等の権利を持てないのかと、考えられました。
- ・ある権利を重視すると、他の権利が危うくなるということが分かった。

2. その他、今日の授業で感じたことを書きましょう。

- ・オークションおもしろかった。
- ・国によっていろいろあるんだと思った。
- ・国それぞれに利点があり欠点があるんだと。
- ・最高額 990 両で権利を買った人もいたし、その権利をいらないと思った人もいて、皆がみんな1番大切だという権利は同じではない。逆に誰もいらないと思った権利もあった。
- ・権利を得ることは大変だと思いました。
- ・内容が難しかったけど、権利といったものは何の為にあるのかなど、色々と考えられたのでとても良かったと思います。
- ・様々な権利の大切さを感じた。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点： ____点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）参加していたし、考えた。
- ・（8）宿題忘れた。
- ・（8）真面目にやったから。
- ・（7）今日もいつもながらがんばったけど宿題忘れたから。
- ・（8）権利を取りに行く時、ちょっと、ちゅうちょしたのが、心残りです。
- ・（9）自分の意見をしっかりと持つことができました。しかしあまり発言することが出来なかったので-1です。（>_<）
- ・（9）意見が言えた。

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点（10点満点で）

理由：

- ・（8点）おもしろかったけど、オークションと三つの国のつながりがはっきり見えなかった。
- ・（6）
- ・（8）オークションがおもしろい。
- ・（9）国や人々の欲しいものについて考えることができた。
- ・オークションで、今日の自分に欲しいもの＝足りないもの（特に右）か、それとも、今は関係なく欲しいものか、どちらかがわからなかった。
- ・（8）特に問題ないと思います。
- ・（10）難しい内容だったけど色々と考えさせてもらいました。他の人の価値観なども知れたので楽しかったです。
- ・（10）「権利」というとても大切なことがテーマになっていて良かった。

第二十回 11月21日

今回は、自分の担当国を調べることと、コンピューターの使用に慣れることが目標。

手順の予定としては、

<1>

1. 文書作成ソフト「一太郎」を開く。
2. まず、自分の名前を打って、それを各自のフロッピーディスクに保存する。
3. 各自が調べてきた各国の基本情報を、順番に打ち込んでいく。

<2>

上記を打ち込み終わった人は、

4. インターネットで、更に各国の詳しい情報を探る。
5. そのなかで、良いホームページのアドレスを切り取って保存しておく。

<3>

全員が基本情報を打ち込み終わったら、

6. 各国へ行く「目的カード」を一枚ずつ引く。
7. 自分の目的にあわせて、どういう事柄を調べるとよいのかを考える。
8. インターネットで調べて、面白いと思ったホームページのアドレスを切り取って保存する。

コンピューターへの慣れぐあいは個人差が大きいので、上記の8番まで進まなくてもかまわない。コンピューターに慣れることが目的。

- ・キーボードの打ち方
 - ・保存のしかた
 - ・マウスの使い方
 - ・アドレスの切り取り方
- これらを教える機会にする。



(配布プリント)

国際理解

プロジェクト『よそ国』・・・基本情報・・・

今日は、自分の担当国を調べることとコンピューターの使用に慣れることが目標です。

< 1 >

1. 文書作成ソフト「一太郎」を開く。
2. まず、自分の名前を打って、それを各自のフロッピーディスクに保存する。
3. 各自が調べてきた各国の基本情報を、順番に打ち込んでいく。

< 2 >

上記を打ち込み終わった人は、

4. インターネットで、更に各国の詳しい情報を探る。
5. そのなかで、良いホームページのアドレスを切り取って保存しておく。

< 3 >

全員が基本情報を打ち込み終わったら、

6. 各国へ行く「目的カード」を一枚ずつ引く。
7. 自分の目的にあわせて、どういう事柄を調べるとよいのかを考える。
8. インターネットで調べて、面白いと思ったホームページのアドレスを切り取って保存する。

コンピューターへの慣れぐあいは個人差がありますので、今日は、上記の8番まで進まなくてもかまわないと考えています。

<生徒のコメント>

今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・インターネットを使うことによって、自分が調べてきたこと以外に、たくさんの情報が集められて良かった。
- ・今日のコンピューターの授業は楽しかった。インターネットだとすぐに最新の情報が入るから楽しかった。国王と王妃がみれてよかった。ネパールは治安が心配されていたが、情勢も安定ということでもよかった。
- ・寒かった。PCは簡単だけど、壊れるとやっかいだと思う。
- ・パソコン難しい。デンマークで検索しただけで1090件もあった。これだけ多く関わってるんだなあと思った。
- ・打つことが多くて、全部打てなかった。ラオス大使館で調べたらいっぱい情報が出てきた。
- ・今日の授業はずっとパソコンをやっていました。こういう授業も悪くはないなと思いました。
- ・画面が出なかったりして大変だったけどPCは楽しかった。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）今日は、集中して作業ができて、とても楽しかったと思う。
- ・（8）橋本龍太郎さんがネパール通ということで、そのホームページを見たらとても楽しかった。いろいろ知ることができた。
- ・（8）PCは得意だから良かった。
- ・（10）パソコンあまりやったことないけど、けっこうがんばったと思う。
- ・（8）コンピューターが使えないのが多かったのと、打つのが遅かったのであまり打てなかった。
- ・（7）パソコンの調子が悪くて、あまり作業が進みませんでした。
- ・（10）集中してできた。

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）今までの授業とは違って、パソコンを使うことができて良かった。
- ・（5）できる人とできない人との進み方が同時進行だと、できる人はつまんない。

- ・(9) 国を理解できた。
- ・(8) 次回もがんばりたいです。
- ・(10) ふつうの授業よりパソコンの方がたのしい。でも、サムイ・・・

授業者のふりかえり：

生徒のパソコンへの慣れぐあいはバラバラなので、ある程度手伝いが必要である。しかし、パソコンを使うことは、将来に役立つという技術的利点の他に、記録集が自分たちで作れる（三年生なので卒業記念にもなる）などの楽しみもある。

一年間の最後のプロジェクトとして、創作課題を持ってきたことには理由がある。外国語を学ぶ際には、input（聞く・読む）だけでは不十分で、output（話す・書く）によって言葉の諸規則が真に内面化されると考えられている。これは、他のことであっても同じなのではないだろうか。したがって、今まで学んできたことを生徒たちが利用していく場として、創作旅行記を課題とした。そのなかで、“真っ当な・人として望ましい姿勢”で生きてみてほしい。

第二十一回 11月28日

世界の諸問題について、おおまかに触れてきた。それに対して、世界の人々が、実際にどのように良くしようと努力しているのかを知る授業にしたい。今回は「調べて、まとめる」という作業が主になるが、これは、継続中の「よそ国」の課題を作っていく際に必要な技術の練習という目的も兼ねている。

活動：「権利」

(1)

全員に、ひとつの質問を出す。

質問「言論の自由は、最も基本的な権利のひとつであり、制限を受けるべきではない。」

大賛成++、まあ賛成+、どちらともいえないなら△、まあ反対-、大反対--、という5種類のどれかを選ぶ。

印の順に、並ぶ。



時計回りに、++から並んでいく

(2)

次に、自分と二段階以上異なっている相手と、ふたり一組になる。次に、自分がなぜそう思うかを相手に語る。できるだけ、相手を自分の意見に近づけるように努力する。

様子を見て、時間で区切り次の相手と組んで繰り返していく。

(3)

あらためて、全員に今はどう思うか5段階から選んでもらう。変わった人がいたら、その理由を話してもらう。

「言論の自由を制限すべき」側の根拠としては、

- ・ 事実と反することや悪いことも、世の中に流れてしまう
- ・ デマやでっち上げの被害者が出る（人権侵害）

「言論の自由を保障すべき」側の根拠としては、

- ・ 事実と反することや悪いことが流れたとき、それをうち消す言論が不可欠である
- ・ 人権侵害の被害者本人による言論の機会を保障しなくてはならない

上記のように、言論の自由という基本的な権利でも、どちらを取ればいいのか簡単には決められない問題がある。

しばしば、ひとつの権利が他の権利と矛盾しているような場合もある。権利という、一見あればあるほどいいように思えることでも、いろいろな意見が存在することに気づいて欲しい。ひとつの権利というものが必ずしも100%満たされるというものでない現実を意識した上で、次へ進む。

(4)

来週の準備として、「外国へ行く目的カード」を引く。そして、それにあわせて必要となる調査項目を考える。それを埋めてくることが、次回への各自の課題となる。

<生徒のコメント>

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・人によって考え方が違うので相手の意見を考えつつ、自分の意見を言うのが難しかったです。

- ・討論なのが楽しかったです。

- ・言論の自由というのは、あっていいと思うけど、個人を傷つけたりするのは、マナーとしてダメだと思いました。マスコミとかは、人々に色々な情報を提供しているけど+と-が激しく、それを知っていないとひがいにあう人が多くなってしまうと思いました。

- ・何かを自由にさせると、何かの暴力が生まれ、何かを定めると何かきゅうくつに思えるのが何とも・・・

- ・言論の自由は日本ではあるけど、それによって傷つく人もいるのは問題だと思った。人の意見を聞くのは大切だと思ったけど賛成派・反対派両方の意見を聞かなきゃと思った。

- ・「言論の自由」について、話し合った授業は、相手の意見を聞くことができたので私は良かったと思う。

- ・言論の自由について深く考えさせられた。

- ・一つの権利を、主張、保護することによって、他の権利とぶつかってしまうことがある、ということ。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）自分の意見をしっかりと持ち、発言することができました。相手の意見を受け入れることもでき、さまざまな考え方を聞くことができました。

- ・（8）積極的に参加できたと思います。

- ・（9）能動的でした。自分なりの意見を言えたんで。

- ・（9）発言した。協力した。

- ・（9）

- ・（10）真面目にやった。

- ・（6）意見、考えが言えた。

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとするれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（9点）もう少し色々な人の意見を聞きたかったです。
- ・（9）ちょっとしらべ物をする時間が少なかったです。
- ・（8）今日も何かと考えさせてくれる問題でした。
- ・（9）
- ・（5）いまいちだった。
- ・（8）「権利」というのは難しいテーマだと思うけれど、とても大切なことなので、いろいろ考える必要があると思った。

授業者のふりかえり：

実際の世の中では、迷うこと、何が正しいのかわからないことが、少なくない。そのような場面で、実際にどう解決をはかっていくかという技術も大切だが、それだけではなく、迷ったり悩んだり、意見を変えたりすることを、肯定的にとらえられる心も同じように大切だろう。それらに否定的であると、最初から自分で考えることをやめてしまったり、その結果、単に何かの権威に付き従うだけの無責任な姿勢に流れたりする恐れがある。

結果を出す技術に焦点を当てるならば、ディベートもありえるだろうが、その場合は最初に自分の答えが決まっている。今回は、結果は未定で各自に自由にまかせられた状況の難しさを体験することを重視していた。そのために、なるべく迷うような題を選んだつもりでもある。このような内容になってくると、つい教員の悪癖としてよけいなことを説明したくなるが、それをやってしまうと、自分で迷ったという記憶が残らない。上手に黙っていることが求められるところだろう。

第二十二回 12月12日

今日は一時間だけなので、調べてきた「目的に合わせた調査」を打ち込むことにする。

例として、「コスタリカに、日本舞踊の先生として行く」場合。

コスタリカのナショナル大学芸術研究教育 普及センターに招かれて行く。

期間は、ほぼ一ヶ月。時期は、リモン市でおこなわれるカーニバルにも出演するため、10月。雨期にあたるので、その用意も必要。

自分自身は、狂言師。舞い手は、自分ともうひとり。囃子手3人、舞台設営や小道具の担当が2人、通訳1人。

現地でおこなうこと：

- ・日本の伝統舞踊について、専門家対象に講演。
- ・狂言の実演。
- ・現地の舞踏家と交流、技術の交換。
- ・現地の音楽家と競演の予定。三週間ほどの準備をかけて、作り上げていく。
その成果を持って、数カ所の催しに出演。
- ・首都サンホセの国立劇場 ・リモンのカーニバル

第二十三回 12月19日

今日も一時間だけなので、パソコン室で打ち込みを進める。

途中で、生徒たちに自分の調べたことを発表させた。お互いに聞きあって、アイデアをもらうように指示した。

<生徒のコメント>

他の人の調査を聞いて、取り入れたいこと

- ・どの時期にネパールを訪れるのか。お金など。まだ調べるのがいっぱいだった。
- ・風習。
- ・服装。
- ・航空経路。
- ・通訳。
- ・風土や気候など。
- ・こまかいことをいろいろ調べてみることに。
- ・その土地の習慣は大切だと思った。
- ・ストーリーをもっと考えておかないといけないと思った。
- ・自分は調べるのを忘れてしまっていたので、ダメでした。

<今日のふり振り返り>

1. 他の人に役立てたか

- ・役立ったと思うが、私はあまり言えなかった。
- ・できなかった。
- ・う〜ん？
- ・少しできたと思う。
- ・できなかった。
- ・やってくることを忘れたのでムリでした。
- ・わすれたからできなかった。
- ・野生生物のことが調べてもわからなくて、服そうや行く時期程度しかいえなかった。

2. 能動的に参加して考えることができたか

- ・(8/9点) コンピューターに一生懸命だったので、まじめにやったと思う。
- ・(2) 遅刻したし課題やってなかった。
- ・(7) あまり調べられなかった。武道かを調べるのはむずかしい。
- ・(10) 授業に参加し、発表できた。
- ・(5) あまりまともにできなかった。

- ・(5) 忘れてきたけれどファイル内をまとめることができた。
- ・(10) 積極的に調べられた。
- ・場所のことをまだわからないので、あまり考えられない。
- ・(7) 調べるのを忘れたので、ダメでした。
- ・(9) パソコンが無くて使い方が・・・遅いので・・・(>_<)

3. 授業のテーマ選び、展開のしかたの問題点

- ・もっとパソコンをやりたいと思った。
- ・(6点) パソコンは得意だから好き。でも、インターネットできないPCはやだ。
- ・(10) パソコンバンザイ。
- ・(9) パソコンが使えて良かった。
- ・(10) おもしろい。
- ・(10) 特にないです。
- ・パソコンでいろいろしらべるのはたのしい。
- ・(6) あまり進みませんでした。
- ・(9) パソコンが初めて使えたので嬉しいです。

(配布プリント)

「国際理解」

冬の課題

自分の、旅のストーリーを作りましょう。

- ・準備は？
- ・ルートは？ 人は？
- ・何をする？
- ・どんな出来事が起こる？
- ・エンディングは？

今日は、家にコンピューターがあればフロッピーを持ち帰って、なければこれまでに作ったぶんを印刷して持ち帰って、冬休みの間にストーリーを作りましょう。(フロッピーを持ち帰る人は、バックアップを取っておきます)

重要なこととして、

(1) 参考にした本やホームページのデータを、残しておきましょう。文章の最後に、そのリストをつけます。

(2) 地図や写真で、これは自分の作品に貼り付けたいと思うものを探しておきましょう。本から、学校のスキャナーで読み込むことができます。ひとりあたり、フロッピー1枚に入るくらいの容量までならかまいません。

二学期末 アンケート

三年生 選択「国際理解」

() 組 () 番 氏名 ()

〈A〉二学期の授業を通しての感想を書いてください。

〈B〉自分で、以下の項目について評価をしましょう。

1. 二学期をふり返って、授業への集中力はありましたか。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか。

自己分析・評価しましょう。 自己採点：____点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

2. 一学期をふり返って、授業で十分に努力はできたでしょうか。

良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。

自己分析・評価しましょう。 自己採点：____点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

3. 総合的に、自分で自分に成績をつけるとしたら、何点ですか？

自己採点：____点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

<生徒のコメント>

<A>二学期の授業を通しての感想を書いてください。

- ・ 2学期の授業も色々な国のあり方などを見てきましたが、日本と比べてみて、おどろいたり、考えたりする場面がいくつもあり、本当に勉強になりました。
- ・ いろいろな授業を通して、今、世界はどのようなになっているかや、日本と世界の常識のちがいなどがよくわかり、大学の推薦入試にとっても役に立ちました。
- ・ むずかしかった。それは、わからないからとかじゃなくて、考えた事が無かった事や、他の授業ではやった事がなかった事だったからだと思う。楽しかった。色々な発見があって、いろんな考え方を知ったから。
- ・ パソコンはいいけどいろいろしらべるのがめんどくさかった。
- ・ この授業により普段考えることのないことを考えてみたり、話し合えたのでよかったと思う。今、こうしている瞬間にも授業でやったような問題がおきているのだから、皆で考えて答えを出さなければならないと思う。
- ・ 確かに国際理解だなというのが、やってきてわかりました。初めは、知らない人と話すのはむりだと思いましたが、やっていくうちにみんなの意見も授業を通してわかったので良かったと思いました。
- ・ コンピューターの授業はたのしかった。
- ・ 必修科目と違って変わった授業形態だったので結構おもしろかったです。
- ・ 二学期も、国際理解の授業では、他の授業とは違った事ができて良かった。後半の方は、パソコンを使った授業ができて、とても良かった。

自分で、以下の項目について評価をしましょう。

1. 二学期をふり返って、授業への集中力はありましたか。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点(10点満点で)

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・ (9点) 自分の思ったことはほぼ伝えることができましたし、相手の意見も聞くことができました。つごうにより一回だけ休んでしまったので -1 です(>_<)
- ・ (8) ふざけることなくマジメに授業を、楽しんで受けれたからです。
- ・ (6) 人の意見を聞いて、自分で理解して話すのが遅いと思う。あんまり、難しい事が言えなかった。
- ・ (5)
- ・ (7) 授業には超積極的だったが、「よそ国」ってやつが全くわからん、っていうかできん。
- ・ (9) 物事についてちゃんと考えられたし、初めて知ったことについても授業で考え、意見ものべられたと思います。世界の現状を知る機会にもなりました。
- ・ (9) 意見をだした。

- ・(5) 集中してるときもあれば集中してない時もあったから。
- ・(8) 自分の意見、考えを言うことができたと思う。

2. 一学期をふり返って、授業で十分に努力はできたでしょうか。

良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点(10点満点で)

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・(9) 数少ない資料から南アフリカについて一生懸命調べました。キーボードを打つのが遅くてうまく進めることができなかったの -1 (>_<)
- ・(7) 宿題などを忘れてしまったことがあるからです。
- ・(6) 地理は苦手。
- ・(10) 鈍くさいながらも努力のみでいうなら十二分に評価できるくらいでしたから。
- ・(8) 絵本からでてくる主人公などの特徴を挙げなさいと言われた時、よくわかりませんでした。ちょっとその時は集中力がなくなっただと思います。でも世界は国によってやっぱり考え方がちがうので楽しかった。
- ・(10) 意見を十分にいったから。
- ・(4) あまり授業にでてなかった。
- ・(8) 自分から進んで授業に参加できたと思う。(レポートなどで)

3. 総合的に、自分で自分に成績をつけるとしたら、何点ですか？

自己採点：____点(10点満点で)

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・(9) 自分なりに頑張りました。世界の色々な事について学べたことが何よりも嬉しいです。楽しめました。
- ・(8) 少しミスもありましたが全体的に見て真剣に取り組めたと思うからです。
- ・(5)
- ・(5) ねむかったり、めんどくさかったから、ちゃんとやってなかった。
- ・(8) 自分の考えることを言えるのは我ながらすごいと思う。
- ・(9) コンピューターをやる前に、「～制限すべきではない」という権利の話で話し合ったことはよかったです。人がそれについてどう思っているのかというのはこういう場をもって話しあったのは“ため”になりました。
- ・(9)
- ・(7) 最後の方はそこそこまじめにやったから。
- ・(8) 自分では進んで参加したつもりなので。

三学期

第二十四回 1月9日

(1)「マインド・マッピング (MIND MAPPING)」

深く広く考えるための技術として、マインド・マッピングという方法がある。実際にそれを利用して社会問題を考えるとともに、一生使えるテクニックとして紹介することにも意義があるだろう。

ア) 概要説明

考え方にも、技術がある。

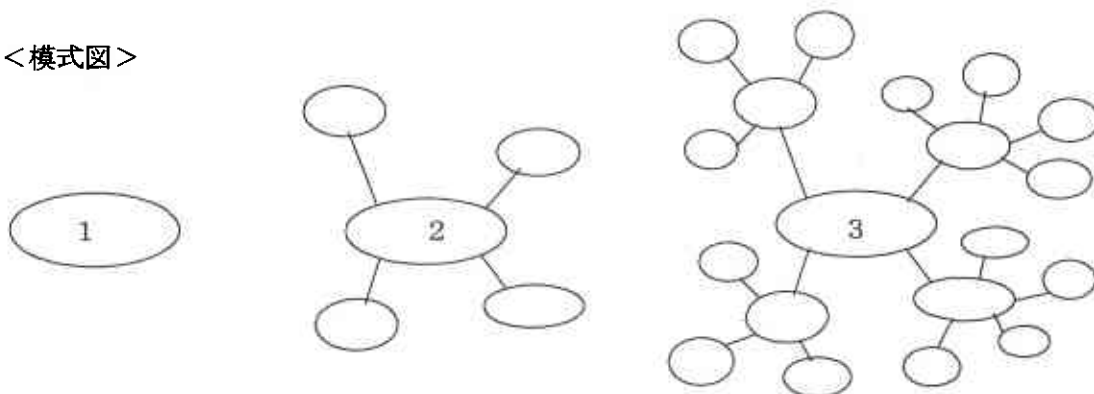
- ・考えを整理できる。
- ・連想を発展させていける。

これらは、社会人として実社会で生きるうえで役に立つものである。

イ) 方法説明

- 1) 大きな紙の中央にテーマを書き、丸で囲む。
- 2) そのテーマから連想されることをそのまわりに書き、丸で囲んで、それを中央のテーマと線で結ぶ。
- 3) 新しい丸から連想されることを更にそのまわりに書いていく。

<模式図>



ウ) ひとつ実例をやってみせる。テーマは生徒にわかりやすいもの。

エ) 生徒へのテーマ「国際社会の重大問題」を出し、全員に書かせる。それを、順番に回して見る。

オ) 大勢が考えたことと、逆にとてもユニークだったことを黒板に書き出す。

(2) 「社会的な活動について」

ボランティア団体などのパンフレット類を人数分用意する。ひとり一部ずつ、受け取る。それらは、言い方を変えれば、「何らかの権利を失っている人たちのために活動している組織」と考えられることを話した上で、各自が資料を読み、分析する。

項目：

- 1) 名前、場所
- 2) どのような権利を失った人のための活動をしているか
- 3) 団体の歴史、背景
- 4) 長期的に目指しているものは何か
- 5) どのような人たちが関わっているか
- 6) 活動の障害となっているものは何か

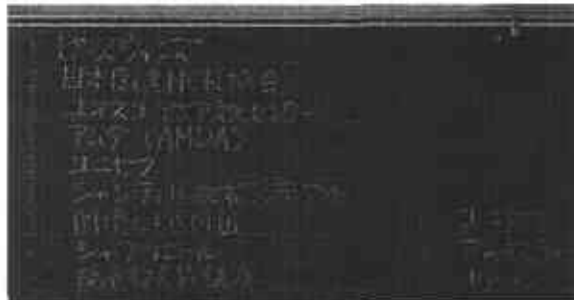
ア) 読むときのメモを、マインド・マッピングでおこなう。紙の中央に団体名を書いて、そのまわりに様々な要素を付けくわえていく。

教員自身もひとつの団体のマッピングを見本として黒板でおこなうと良いだろう。

イ) 短い原稿用紙を配り、その団体を説明するための原稿を書いてみる。協力者を（資金の寄付など）募るつもりで。

書き終わったところで、順番に自分の担当した団体の広報担当になったつもりで、しゃべる。

生徒には、社会の様々な問題とその改善に努力している団体を他の12名に伝えるのであり、その責任をしっかりと果たすようにと言う。



(3) 自分のテーマ国について、マッピング

最終プロジェクト「よそ国」で、各自が架空のストーリーを作りつつある。それをより面白いものにすることを目指す。紙の中央に、自分の行き先と渡航目的を書き、そのまわりに書き広げていく。

(配布プリント)

マインド・マッピング (MIND MAPPING)

深く広く考えるための技術として、マインド・マッピングという方法があります。
今日は、実際にそれを利用して社会問題を考える練習をします。一生使えるテクニックとして役に立つでしょう。

「考え方にも、技術がある！」

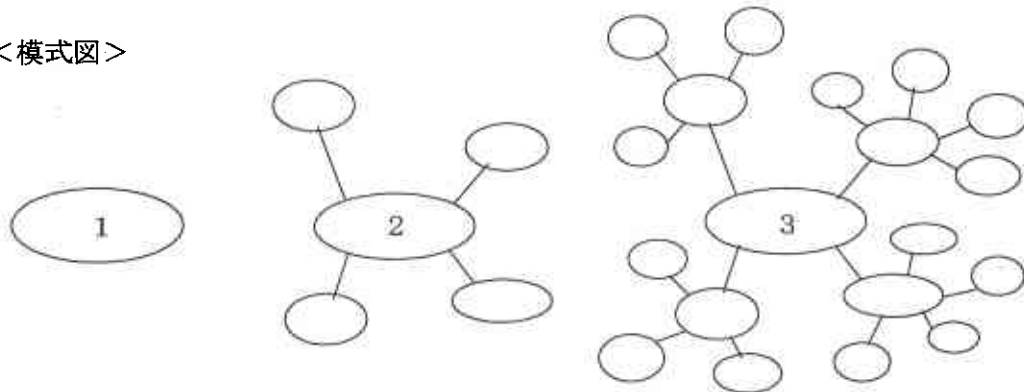
- ・考えを整理できる。
- ・連想を発展させていける。

これらは、社会人として実社会で生きるうえで役に立つ能力です。

「やり方」

- 1) 大きな紙の中央にテーマを書き、丸で囲む。
- 2) そのテーマから連想されることをそのまわりに書き、丸で囲んで、それを中央のテーマと線で結ぶ。
- 3) 新しい丸から連想されることを更にそのまわりに書いていく。

< 模式図 >



「効果」

- ・自分の考えていることが、はっきりしてくる。
- ・大切なことと、それほどでもないことの段階が、わかりやすくなる。
- ・大切な事柄同士の結びつきが、一目で見える。
- ・せっかく思いついたのに忘れてしまっただけに残念に思うことが防げる。
- ・文書を書く前の下書きとして、役に立つ。

「さまざまな団体」(シート1)

- 1) 名前、場所
- 2) どのような権利を失った人のための活動をしているか
- 3) 団体の歴史、背景
- 4) 長期的に目指しているものは何か
- 5) どのような人たちが関わっているか
- 6) 活動の障害となっているものは何か

「さまざまな団体」(シート2) (実際にはこのシートは使用しなかった)

報告者 () () ()

1)			
2)			
3)			
4)			
5)			
6)			

報告者 () () ()

1)			
2)			
3)			
4)			
5)			
6)			

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

(1) マインド・マッピングという技法について

(2) 様々な社会活動について

(3) その他

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 「他の参加者たちの役に立つことができただろうか」という観点で、考えてみましょう。良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

<生徒のコメント>

1月9日

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

(1) マインド・マッピング

- ・自分の思っていることを、きれいに整理することができました。
- ・楽しかったです。
- ・いいと思いますが、僕はあまり得意ではないです。
- ・見やすいし、考えやすいかも知れないと思った。
- ・国際社会の問題はけっこうむずかしくて、あとがつづかなかった。
- ・長い文章が書けないのでうまくまとまらなかった。
- ・なかなか素晴らしいと思った。
- ・今までは、あまりやった事がなかったので、良い機会になったと思う。
- ・連想ゲームみたいだったけど意外と難しかった。
- ・さいしょに形を見た時に映画の「ペイ・フォワード」を思い出した。あと、悩んでいる時とかこんな考え方すると思った。

(2) 様々な社会活動について

- ・色々な人たちが、色々な所でお互い助け合っていることが良くわかりました。少しずつでもいいので私も参加してみたいと思いました。
- ・世界にはさまざまな社会活動があると思いました。
- ・小学校の時からユニセフ募金だけ学校でやっていたからわかるけど、企業も色々な活動をしていることを知った。
- ・たくさんあるんだなと思った。
- ・色々な活動がありすぎて募金するにしても決めるのが大変。
- ・世の中には色々な活動をしてる人がいるんだなあと感心した。
- ・様々な問題がある中で、社会活動は、大切なことだと思った。
- ・世界平和のために活動しているのだからもっと考えていきたい。
- ・知らない団体が沢山あった。名前は知っていても活動はくわしく知らなかったりしたので知る機会になって良かった。

(3) その他

- ・色々な種類のボランティアがあることを知りました。
- ・なんとなく、人の役に立てる仕事をしたいと思いました。
- ・がんばるぞ。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか? 「他の参加者たちの役に立つことができたでしょうか」という観点で、考えてみましょう。良かったところ

ろ、悪かったところは、どういうところでしたか。自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）自分の考えを全て出すことができました。
- ・（8）まあまあ、上手く出来たと思います。
- ・あんまりかいてないから、役にたってないけど、みんなのは役にたった。
- ・（4）上手く発表？ 説明できなかった。
- ・（10）たくさんかくようにした。わかりやすかった。パンフレットにあまり活動がかかれてなく、現状が書いてあったので発表はこまりました。
- ・（10）眠いけど寝ずに頑張った。
- ・（8）自分の感想が言えたから良かったと思う。
- ・（10）がんばったので、他の人たちに役立っていることを期待する。
- ・（8）マインド・マッピングを書く時に、沢山考えて多くの分かれ道を出せたと思う。

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（10点）社会について色々と知れて、良かったです。
- ・（8）今年初めての授業だったのでちょっと緊張しました。
- ・（8）国際社会の問題ってゆうのはよくわかんなかった。
- ・（10）特にないです。
- ・（8）意外とためになった。
- ・（9）とても役にたつことだと思った。
- ・（9）連想ゲームから考えや問題を発展させるのはすばらしい。
- ・（7）自分でやるコトによって、他の人に頼らずにやる力が出来ると思う。冬休みの課題についてふれてないのはどうして??と思った。

授業者のふりかえり：

「（2）社会的な活動について」は、これだけで一年間の学習になりえるくらいの内容があるのだが、そちらに進むか、それとも創作課題に進むかという選択で、こちらは軽く触れるだけにとどめた。ただ、授業一回では、さすがに不完全燃焼で、もう一回分の時間は投入すべきだった。

第二十五回・二十六回 1月16日・23日

「よそ国」の作成。第二十六回（最終回）には、以下のアンケートをとった。

三年生 選択「国際理解」

学年末調査

用紙1

2003年1月

() 組 () 番 氏名 ()

ファイルのこれまでの記録を読み直し、ふり返って、思うところを書いてください。

(1) 一年間の授業全体を通して、新たに気がついたり深く考えられたりして良かったということがあったら、書いてください。

(2) 期待していたことをやらなかったとか、物足りなかったことなど、良くなかったことがあったら、書いてください。

(3) 授業を通して、ものの見方や考え方で、なにか自分自身の変化は、ありましたか？ あったとしたら、それはどんなことでしたか？

(4) 国際理解の授業では、大切なこととして、「他の参加者たちの役に立てるように考え、話し、行動すること」を取り上げてきました。このことについて、自己評価をしましょう。

評価をつけるなら、何点でしょうか？・・・10点満点で、()点

理由・判断の根拠：

(5) この一年間の、「国際理解」の授業に、評価をつけてみてください。
今後の生徒たちのために、役立てたいと思います。

ア) 普通の「講義型」授業とは異なる授業スタイルでした。内容も、与えられるものの暗記ではありませんでした。それについて、考えたこと、感じたことを書いてください。

イ) この一年間の授業で良かった点、悪かった点、なるべく具体的に書いてください。

ウ) 評価をつけるなら、何点でしょうか?・・・10点満点で、()点
理由・判断の根拠:

<生徒のコメント>

ファイルのこれまでの記録を読み直し、ふり返って、思うところを書いてください。

(1) 一年間の授業全体を通して、新たに気がついたり深く考えられたりして良かったということがあったら、書いてください。

- ・日本のことだけではなく、世界の色々な国を新しい視点から見れてとても嬉しかったし、楽しかったです。
- ・忘れていたけど、本当にいろいろなことをやっていて、世界の良い所や悪い所を自分の中で深く考えられたところが人生に多少のプラスになったと思います。
- ・今まで考えなかった事等だったんで、いつも、ああ、そうなのか、って思っていた。
- ・世界には、たくさんの知らないことがあるんだと思った。
- ・世界の人々が今、どのように状況におかれているのかを考えたり、知ることができてよかった。
- ・差別という事について考えさせられる事が沢山あって良かった。
- ・初めの方は国際理解って本当なんだろう、授業やってても意味あるのかなと考える事でしたが、1年を通してようやくやってきた事がわかりました。すごい世界の事に目を向けたし話したと思います。みんなと意見を言い合うというのは、相手が何を思っているのかもわかるので本当よかったと思います。
- ・パソコンに興味ができた。
- ・今までの授業で一番おもしろかったのが、コーヒー畑の売買のシミュレーションみたいな授業です。
- ・国際理解という授業は、今まで知っている様で知らなかったことや、普段は、あまり考えることがないものなどについて、勉強ができたので良かった。

(2) 期待していたことをやらなかったとか、物足りなかったことなど、良くなかったことがあったら、書いてください。

- ・もう少し討論とかをして、相手の意見などを聞いてみたかったと思いました。
- ・特にありません。すべて期待以上でした。
- ・特に、ない。いつも何をやるのかわからないのでドキドキだった。
- ・世界中の人の生活習慣とかをいっぱい知りたいと思う。
- ・特になし。充分です。
- ・権利の事でみんなと話し合ったのは、討論みたいのができたのでよかったと思います。良くなかったというのはいないです。
- ・特にないです。
- ・たまに、何を伝えたいのか良く分からない授業がありました。
- ・他の授業とは、血あうことが沢山できたので、物足りないと思うことはとくに無かったです。

(3) 授業を通して、ものの見方や考え方で、なにか自分自身の変化は、ありましたか？
あったとしたら、それはどんなことでしたか？

- ・自分のことだけではなく、相手の意見を聞いたりして、物の考え方などが広がったと思います。
- ・世界に目を向けることにより、自分自身をよく知ることができた。自分も、この地球上にいらしている一人の人間なんだという当たり前のことに気がつきました。
- ・書かないよりは間違っていたとしても書いた方がいい。人によってものの見方が違うので、普通に暮らしてても、この人だったらこうかな？と思うことがある。
- ・わからない。
- ・物を見る、感じる、感覚が豊かになったと思う。
- ・人の数だけいろんな考え方があると思いました。考えさせられたのもありました。何か積極的になれた気がします。
- ・特に変わりはないですが、考えるようになりました。
- ・なんとかマッピングとかいう考え方がとても実用的で、けっこう使ってます。
- ・ひとそれぞれの価値観の違いを知ることができ、他の国々に対する関心を持つことができた。

(4) 国際理解の授業では、大切なこととして、「他の参加者たちの役に立てるように考え、話し、行動すること」を取り上げてきました。このことについて、自己評価をしましょう。

評価をつけるなら、何点でしょうか？・・・10点満点で、()点

理由・判断の根拠：

- ・(10点) 自分の意見もはっきり言え、相手の意見も素直に聞けました。自分の意見を人に伝えるのは難しかったけど、伝えられたと思うので。
- ・(8) ちゃんと発言もできたし、悪いことはなかったと思います。
- ・(4) 気づけた事というのは、皆より+1とかいう事があまりなかったから。むしろ、皆に“ああ、そうか”と気づかされることが多かった気がする。
- ・(8) 役に立てた時と立てなかった時があったと思うけど、役に立てるようにがんばった。
- ・(10) 考え、自分なりの意見を言ったので、多少なりとも他の人の考えのたしになったのでは。
- ・(7) 考えたし、意見を言う様に努めた。
- ・(9) 自分の考えも考えなおされる所がたくさんあったと思います。
- ・(8) 最初これなかったので・・・
- ・(5) 他の参加者たちの役に立つ日と立たない日がまちまちだから。
- ・(6) もう少し、自分の考えが言えたら良かったなあと思いました。

(5) この一年間の、「国際理解」の授業に、評価をつけてみてください。

今後の生徒たちのために、役立てたいと思います。

ア) 普通の「講義型」授業とは異なる授業スタイルでした。内容も、与えられるものの暗記ではありませんでした。それについて、考えたこと、感じたことを書いてください。

- ・その場で考えて発言するのは大変だったけれど、自分の気持ちをそのまま出すということは素晴らしいことなので、とても勉強になりました。
- ・やっぱり、これからの時代は自分自身で物事を考えて生きていかなきゃいけないと思いました。
- ・講義型は、書いて、聞いてと受け身だったので、とくに頭で考えなくてもいいけど、この授業は聞いて、考えて、答えるという参加してためになるという授業だったので、今までに、あまりやったことのないせいか、私には難しくて、大変だったけど、学校を出て社会に出るとこうゆう事は、とても大切なのかも、と思いました。
- ・暗記はなくてよかったけど、考えることはいっぱいあったから大変だった。
- ・イスが座りづらい。暗記ではなく、自分の視野を広げるのも教育のひとつとして大切なのでいいと思う。
- ・毎回不思議な感覚でした。
- ・人と話し合う事、考えることには、とても意味がありました。世界の状況を知ることができて良かったです。
- ・やりにくい部分もあるし、楽しい部分もあったと思います。
- ・良かったと思います。
- ・他の「講義型」授業に比べて、自分の意見を述べる機会が、とても多く良かったと思います。

イ) この一年間の授業で良かった点、悪かった点、なるべく具体的に書いてください。

- ・(良) 新しい自分を発見することができました。
- ・(悪) 一回だけ休んでしまいました。ふつうの授業と違うので大変(>_<)
- ・良かった点はほとんど休まなかったこと、悪かった点は、特にないです。
- ・見ているだけでなく、体験したり(カレーを食べたり、言葉を読んだり)したので楽しかった。アメや品物なども目の前にして考えてみるとわかりやすい。
- ・いすにすわってやるが多かったから、外にでたいと思った。遠足みたいにとっか行きたかった。
- ・良かった点は視野が広がったこと、悪かった点は今日のふりかえりプリントは残りの5分で書くのが大変だったこと。
- ・参加している人たちは良かったけれど、毎回協力してくれない人がいたのが残念。
- ・カレーを作ったことが何か楽しかった。他の国の料理もつくりたい。
- ・良かったことは皆の意見をきけること。
- ・特になし。
- ・他の人たちと相談して、物事を考えることができたのが良かった。

ウ) 評価をつけるなら、何点でしょうか?・・・10点満点で、()点

理由・判断の根拠:

- ・(10点) 意見も沢山言えたり、聞くこともできました。そして何よりも楽しむことができました。(^^) 普段あんまり聞いたことのない国のことのない国のことも知れたので良かったです。
- ・(10) 最後の「よそ国」がどれだけできるかどうかで10点になります。
- ・(8) ゲームをしたりする時の説明が、よくわからない事があったから。今までに無い授業で、いつもの授業とは違う事や価値観の違いなどを学べたから。
- ・(8) もっと、あそびながら、世界を知っていききたい。
- ・(8) こういう授業はあったほうがいいと思うんで。
- ・(8) 生徒次第の授業だと思うから。
- ・(8) みんなと話し合う事ができたからです。授業もちちゃんと聞きました。
- ・(8) 何をすればいいのかわからない時があったので。
- ・(8) 先生の努力が見えます。
- ・(10) 他の授業とは違った内容、形態で勉強ができたから。

() 組 () 番 氏名 ()

自分で、以下の項目について評価をしましょう。

[illegible]

3) 調べ方について、良いやり方として挙げられることを、書いてください。

4) 調べていく際に、驚いたことや新たに気づいたことについて、書いてください。

5) 国の基礎データ調べについて、自分を評価してみましょう。

- ・10点満点で、()点
- ・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

<ストーリー>

1) ストーリー作りには、充分な時間を使ったと思いますか？

よい まあよい ふつう 少し悪い 悪い
(5 4 3 2 1)

2) ストーリー作りを、楽しみましたか？

楽しんだ 楽しまなかった
(5 4 3 2 1)

3) ストーリー作りで、面白かったところや工夫したところとして挙げられることを、書いてください。

4) 難しかったことについて、書いてください。

5) ストーリー作りについて、自分を評価してみましょう。

- ・ 10 点満点で、() 点
- ・ 判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

最後に、一年間を通して総合的に、自分で自分に成績をつけるとしたら、何点ですか？

- ・ 10 点満点で、() 点
- ・ 判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

国際理解 最終課題について

2002 年 1 月 23 日

1. <国の基礎情報>と、<ストーリー>のふたつを完成させます。最終提出日は
2月5日（水）17時まで、です。
2. その際には、この一年間の感想文も、一緒に出しましょう。
（長さは、一枚を超えるときは別の紙に2ページ目を書きましょう。
または、感想文も打ち込んフロッピーに入れてもかまいません。）
3. 作品は、全員ぶんまとめて、冊子に作っておきます。卒業式の日までに、ひとり一冊ずつ用意しますから、楽しみにしてください。各自の水色ファイルは、その際に同時に返却します。

締切までは、あと二週間ほどあります。その期間に、個別に進展状況を確認して、必要なアドバイスなどしていきます。**面白い作品**を完成させましょう。